

平成6年度

# 都 倫 研 紀 要

第33集

東京都高等学校倫理・社会研究会

## 巻 頭 言

会 長 坂 本 清 治  
(東京都立両国高等学校長)

実際上は100%の高校進学率という状況の中で、公立私立を問わず、各学校の課題は多様になり、先生方の仕事も一層増える傾向にあります。当面の対応や処理に追われて、どうあるべきかを思索していくゆとりの時間がなかなか持てません。教科指導においても工夫・研究・改善の必要性を痛感していても、研修するには相当な決意がなければ続きません。

そうしたなかで、都倫研で研究発表をして下さったり、公開授業を行って下さる先生方には頭の下がる思いがします。また、そこに参加して下さる先生方の目差しにも、よりよいものを求める意欲を感じます。この紀要は、一つにはそのまとめであり、一つには各分科会で熱心に研究討議してきた成果であります。

都倫研の、若い仲間が多いということ、年々新しい仲間が増えていること、そして、かつて研究会の中心であり、事務局を支えて下さった先輩諸先生が参加してご助言下さることは、他の研究会には見られない素晴らしい活動だと思います。これは、いまや都倫研の伝統となりました。今後とも皆様と一緒にこの伝統を受け継ぎ発展させていきたいと心から念願しております。

また、本年は諸事情から参加されなかった先生方には、この紀要を通して交流を深め、ご提言ご批判等をいただき、次年度の研究活動に生かして参りたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、大泉学園高校の水谷禎憲事務局長、千歳高校の増淵達夫事務局次長、練馬高校の渡辺安則研究部長はじめ事務局の先生方の献身的なご苦勞によって、研究活動が推進され、この紀要も成ったことを深く感謝いたします。



第四回研究例会

公開授業 戦後日本の思想 — 大江健三郎 —

向島商業高校 渋谷紀雄 …… 40

研究発表 “テーマ別討論中心学習” 9年目の現場から

南葛飾高校 飯島みさ子 …… 42

V 分科会報告

第一分科会 北國高校 町田 紳 …… 47

第二分科会 南野高校 功刀 幸彦 …… 51

第三分科会 田無高校 宮澤 眞二 …… 55

VI 特集 「公民科『倫理』『現代社会』の教材化の工夫」

local government の学習 江北高校 村上 肇 …… 63

障害者問題を考える 大妻中野女子高校 楠本 達治 …… 65

ソフォクレス『オイディプス王』 筑波大学付属高校 斉藤 規 …… 72

功利主義への私なりの紹介状 北野高校 鈴木 一郎 …… 75

通学路清掃とカント、ベンサム、J.S. ミル 片倉高校 難波 伸一 …… 78

選択倫理の授業 清瀬高校 原田 健 …… 81

VII 個人研究報告

倫社教師の教師冥利 東京女子体育大学 菊地 堯 …… 84

信仰文化と社会について 羽田高校 黒須 伸之 …… 89

教育考 明正高校 小島 恒巳 …… 94

共感的理解を深める国際理解教育の実践  
玉川高校 山本 正 …… 99

VIII 東京都高等学校倫理・社会研究会規約 …… 106

事務局だより …… 108

編集後記 …… 109

# Ⅰ 平成6年度 研究主題と研究体制

平成6年5月27日

〔本年度の研究主題〕

生徒に現代の諸問題についての理解と関心を深めさせ、広い視野に立って人間としての在り方生き方を考えるようにさせるための指題の研究

〔研究主題設定の趣旨〕

平成6年度は、いよいよ新学習指導要領の実施の年である。本研究会は昭和37年の発足以来、『倫理・社会』の実施、『現代社会』の実施という教育課程の変化に対応しつつ、時代と社会の変化による問題や人間としての不易の問題を、授業の実践を通じ、生徒に向けて語りかけるべく研究してきた。いま、公民科の本格的な出発に当たり、これまでの研究の歴史と成果をどのように生かし、どのようにこれからの実践に結びつけていくかが改めてわれわれの課題となっている。

まず社会的な問題に対して生徒が主体的に関心を持ってかかわっていく姿勢を一層深く養うことが、公民科の課題の一つであろう。このためには単に社会の制度や仕組みを理解するだけでなく、生徒が家庭・学校などの具体的な生活の場での関心を広く政治・経済の現実と結びつけて思索し行動するように指導する必要がある。異なる角度から見れば、人間としての在り方生き方を追究するに当たってどのような課題の意識から出発させるか、青年期の自己形成をどのような規範に則って行うよう指導するかということにもなる。現実の中で人間としての在り方生き方を考えることの意味を、生徒自身に問い直させ、意識化させる指導を求めている。

さらに現在では、現実の社会の激変に対応して多くの新しい倫理的課題が登場しており、『倫理』を高校生が学ぶことの意義がますます強まっている。倫理的課題を考えさせる素材は数多い。指導方法についても、指導内容についてもさまざまな工夫が求められる。その中で、特に今、倫理思想を教材化していくことの意味を考えたい。生徒が人間としての在り方生き方を考えるための指標として諸思想を提示していくことの意味を確認していきたい。

こうした趣旨に基づき、上記の主題を設定し、以下の3点に重点をおいて研究を進めることにする。

- (1) 生徒が家庭・学校などで具体的に当面する問題を学習の出発点にする。そして生徒が広い視野に立って社会の諸現象、諸問題を自分自身と結びつけ、それらに

主体的にかかわる能力と態度を形成できるようにする『現代社会』および『政治・経済』の指導方法と指導内容について研究する。

- (2) 学習指導要領の『倫理』の指導内容の「青年期と人間としての在り方生き方」および「現代社会と倫理」では、現代社会の中で青年期をすごしている生徒の自己形成に、どのようにして倫理思想を役立てることができるかを探る。そして倫理思想を学ぶことの意義を、生徒が人間としての在り方生き方と結びつけて理解できるようにする指導について研究する。
- (3) 公民科『倫理』『現代社会』の構成に当たって、どのような視点や発想から教材を選択して授業を構成・展開することが、社会に対する理解を深め人間としての在り方生き方についての自覚を育てることになるかを、具体的、実践的な側面から研究する。

#### 〔研究体制〕

以上の研究主題・研究方向をふまえた上で、本年度は次の三つの分科会を設けることにする。

#### 第一分科会 「現代社会を生徒の身近な問題から考えさせる指導の研究」

生徒が具体的に当面している身近な問題への意識から出発して、家庭や学校、社会での生活の中で出会っている出来事と社会の制度や仕組みとを結びつけて認識し、広く社会の諸現象、諸問題に対して意識的に取り組んでいく能力と態度を形成できるようにするための指導内容、指導方法について研究を進める。

#### 第二分科会 「高校生の自己形成を促す倫理思想の指導の研究」

青年期の自己形成の課題をふまえながら、高校生の倫理的学習の意義を問い直し、人間としての在り方生き方を考えるために倫理思想を生徒が受けとめて考えることができるようにする指導方法、指導内容についての研究を進める。

#### 第三分科会 「公民科『倫理』『現代社会』の授業実践の研究」

公民科の科目として『倫理』『現代社会』の授業を構成するときの教材化の工夫や指導方法の工夫などについて、内容構成の視点や実際の指導案を例示しているテキストを用いて、具体的・実践的に授業につながっていく形式での研究を進める。

## 都倫研紀要ご執筆のお願い

都倫研広報部

先生方には、ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。さて、例年通り、下記の要項にて都倫研紀要第33集にご執筆頂きたく、お願い申し上げます。

### 記

次のA、Bいずれかについてご執筆をお願い致します。

#### 〔A〕特集「公民科『倫理』『現代社会』の教材化の工夫」

- (1) 公民科の実施にあたり、先生方が考えておられる、または実践しておられる指導と、それに役立つ教材をご紹介下さい。
- (2) 指導に際しての授業のテーマ、構成などもお書き頂けると幸いです。
- (3) 教材に主に書籍になるでしょうが、そのほかにビデオ、映画などの視聴覚的教材についてもご紹介頂きたく考えております。
- (4) 視聴覚教材（特にテレビ放映されたもの）については、その入手方法もできればご紹介下さい。
- (5) 長さは、指定の原稿用紙（37字×31行）で3枚程度におまとめくださるようお願い致します。

#### 〔B〕個人研究論文

- (1) 教材研究、授業展開上の工夫、方法などについての研究等、先生方の日頃のご研究についてご執筆下さい。
- (2) ご執筆の際は、
  - 1 テーマ
  - 2 ねらい（そのテーマを取りあげた理由）
  - 3 展開（小項目をたててください）
  - 4 まとめ

など、できるだけ読みやすい見出しや項目をたてるなどしてご執筆頂ければ幸いです。

- (3) 長さは、指定の原稿用紙（37字×31行）で5枚以内におまとめくださるよう、お願い致します。

締め切り：平成7年1月末日までをお願い致します。

## Ⅱ 研究分科会参加者名簿（順不同）

◎印 分科会世話人    ○印 研究副部長

### 〔第一分科会〕

- ◎黒須 伸之（都羽田）    ○町田 紳（都北園）    飯島 博久（都足立新田）  
岡田 博彰（都墨田工定）    上村 肇（都江北）    楠本 達治（大妻中野）  
功刀 幸彦（都南野）    斎藤 実（都松が谷）    佐藤由紀子（都武蔵丘）  
佐良土茂（都田園調布）    多田純一（都小石川定）    立石 武則（都忍岡）  
千葉新二郎（大妻中野）    辻 勇一郎（都大崎）    富塚 昇（都京橋）  
仲 信之（都小松川定）    西尾 理（都代々木三）    原田 健（都清瀬）  
平井 啓一（都久留米西）    増渕 達夫（都千歳）    水谷 禎憲（都大泉学園）  
諸橋 隆男（大妻中野）    山本 正（都玉川）    渡辺 安則（都練馬）

### 〔第二分科会〕

- ◎福田 誠司（町田工）    ◎西尾 理（都代々木三）    ○功刀 幸彦（都南野）  
新井 徹夫（玉川学園）    飯島みさ子（都南葛飾）    泉谷 まさ（都蒲田）  
及川 良一（都白鷗）    小笠原悦郎（日大二）    小川 信国（都狛江）  
古賀克彦（千代田女学園）    小嶋 孝（都北園定）    紺野 義継（正則）  
坂口 克彦（農産定）    佐藤 勲（都小松川）    佐良土 茂（都田園調布）  
辻 勇一郎（都大崎）    富塚 昇（都京橋）    中村新吉（都立教育研究所）  
行方 毅（正則）    葦名 次夫（都富士）    平井 啓一（都久留米西）  
広末 修（都北野）    古澤 英樹（都広尾）    本間 恒男（都青梅東）  
増渕 達夫（都千歳）    水谷禎憲（都大泉学園）    宮澤 眞二（都田無）  
山本 正（都玉川）    和田倫明（都航空高専）    渡辺 安則（都練馬）

〔第三分科会〕

- ◎田久 仁(都羽田定) ◎荻原 真(都京橋) ○宮澤 眞二(都田無)  
泉谷 まさ(都蒲田) 岩橋 正人(都井草) 及川 良一(都白鷗)  
楠本 達治(大妻中野) 功刀 幸彦(都南野) 古賀克彦(千代田女学園)  
小島 恒巳(都明正) 坂口 克彦(都農産定) 佐藤由紀子(都武蔵丘)  
佐良土茂(都田園調布) 葦名 次夫(都富士) 千葉新二郎(大妻中野)  
辻 勇一郎(都大崎) 仲 信之(都小松川定) 原田 健(都清瀬)  
広末 修(都北野) 増渕 遼夫(都千歳) 水谷 禎憲(都大泉学園)  
諸橋 隆男(大妻中野) 山本 正(都玉川) 和田 倫明(都航空高専)  
渡辺 安則(都練馬)

### Ⅲ 平成6年度研究会活動報告の概要

第一回 5月27日(金) 総会並びに研究発表大会 会場：エミール

#### 1) 総 会

会長挨拶	会 長	中村 新吉氏
平成5年度 会務報告	大泉学園高校	水谷 禎憲氏
平成5年度 決算報告並びに監査報告	大泉学園高校	水谷 禎憲氏
平成6年度 役員選並びに事務局構成	大泉学園高校	水谷 禎憲氏
平成6年度 事業計画審議	大泉学園高校	水谷 禎憲氏
研究計画審議	練馬高校	渡辺 安則氏
平成6年度 予算審議	大泉学園高校	水谷 禎憲氏
そ の 他 規約改正案審議	大泉学園高校	水谷 禎憲氏

#### 2) 研究発表並びに研究協議

平成5年度研究活動の総括 研究発表	田園調布高校	佐良土 茂氏
----------------------	--------	--------

「人間としての在り方生き方を深く考えさせる学習指導の試み

—「現代社会」における同時展開授業の実践とその報告」

#### 3) 分科会構成

#### 4) 講 演

「現代倫理学の基本問題—相手の身になって考えること」

専修大学教授 大庭 健氏

第二回 6月24日(金) 第1回研究例会 会場：都立南平高校

#### 1) 公開授業

「平和の哲学」～「平和を求める生き方を考える」

南平高校 関根 荒正氏

#### 2) 研究発表

「バブル崩壊後の日本経済」

久留米西高校 平井 啓一氏

#### 3) 講 演

「家族問題を再考する」

お茶の水大学教授 湯沢 雍彦氏

第三回 10月14日(金) 第2回研究例会

会場：都立羽田高校

1) 公開授業

「経済成長と景気変動」

羽田高校

黒須 伸之氏

2) 研究発表

「映画は人を裸体にする」

福生高校

亀田 文保氏

3) 講演

「19世紀における功利主義と日本」

国際基督大学教授

小泉 仰氏

第四回 11月26日(土) 27日(日)

会場：大妻女子大学中野女子高校

第3回研究例会 全倫研秋季大会と共催

1) 研究発表

「『人間としての在り方生き方』に関する教育の調査報告」

玉川聖学院

幸田 雅夫氏

小川高校

成瀬 功氏

2) 公開授業

1年倫理「日本の神話の地」

大妻女子大学中野女子高校

諸橋 隆男氏

1年倫理「ユダヤ教について」

大妻女子大学中野女子高校

千葉新二郎氏

1年倫理「高齢化社会について」

大妻女子大学中野女子高校

楠本 達治氏

1年世界史「十字軍」

大妻女子大学中野女子高校

橋本 弓子氏

3) 全体協議

「公民科における生き方指導の課題を探る」

問題提起

京都・同志社高校

大塚 賢司氏

東京・玉川聖学院

水口 洋氏

助言指導 大妻女子大学中野女子高校校長

御厨 良一氏

4) 分科会協議

第一分科会「生徒の自己探究を深める学習指導の工夫」

問題提起

長野・松本蟻ヶ崎高校

山辺 和徳氏

東京・田無高校

宮澤 眞二氏

第二分科会「自然や生命についての関心を高める学習指導の工夫」

問題提起

神奈川・高浜高校

佐藤 明弘氏

東京・小石川高校

多田 統一氏

第三分科会「現代社会の諸問題についての理解を深める学習指導の工夫」

問題提起

千葉・清水高校 武田 泰彦氏  
東京・代々木高校 西尾 理氏

5) 講演

「国民国家と日本の課題」 学習院大学教授 河合 秀和氏

6) 臨地見学

「深川江戸散歩と東京湾周遊」

江東区深川資料館、芭蕉記念館など

第五回 2月2日(土) 第4回研究例会

会場：都立向島商業高校

1) 公開授業

「戦後日本の思想 — 大江健三郎 — 」 向島商業高校 渋谷 紀雄氏

2) 研究発表

「テーマ別討論中心学習”9年目の転機”」 南葛飾高校 飯島みさ子氏

3) 講演(講師の都合により中止)

「精神医学からみた現代の青年期」 上智大学教授 福島 章氏

# Ⅳ 研究例会報告

## 総会並びに研究発表大会

平成6年5月27日(金) エミール

### 次 第

1. 開 会 ( 1 : 00 )
2. 挨拶 ( 議長選出 )
3. 議 事
  - (1) 平成5年度 会務報告
  - (2) 平成5年度 決算報告並びに監査報告
  - (3) 平成6年度 役員改選並びに事務局構成
  - (4) 平成6年度 1.事業計画案審議  
2.研究計画案審議
  - (5) 平成6年度 予算案審議
  - (6) そ の 他 規約改正案審議
4. 研究発表並びに研究協議 ( 1 : 45 ~ 3 : 00 )
  - (1) 平成5年度研究活動の総括 都立田園調布高校 佐良土 茂 先生
  - (2) 研究発表  
「人間としての在り方生き方を深く考えさせる学習指導の試み  
— 「現代社会」における同時展開授業の実践とその報告」  
都立練馬高校 渡辺 安則 先生
5. 分科会構成 世話人選出 ( 3 : 00 ~ 3 : 25 )
6. 講 演 「現代倫理学の基本問題 — 相手の身になって考えること」  
専修大学教授 大庭 健 先生
7. 閉 会 ( 5 : 00 )

平成6年度事業計画

  1. 研究成果の刊行 都倫研紀要 33 集の刊行
  2. 研究会報の発行 都倫研会報 57 集の発行
  3. 総会並びに研究大会の開催 平成6年5月27日(金) エミール  
平成5年度研究活動の総括 佐良土茂先生 ( 田園調布 )  
研究発表 渡辺安則先生 ( 練馬 )  
講 演 専修大学教授 大庭 健先生
  4. 研究例会の開催 第一回 6月下旬 都立南平高校  
公開授業 関根荒正先生 ( 南平 )  
研究発表 平井啓一先生 ( 久留米西 )  
講 演 お茶の水女子大 教授 湯沢雅彦先生  
第二回 10月上旬  
第三回 11月下旬 大妻女子中野高校 ( 全倫研と共催 )  
第四回 平成7年2月上旬
  5. 研究分科会 3分科会で各々5~6回を予定

平成 6 年度東京都高等学校倫理・社会研究会役員

(敬称略)

役員	氏名 (所属)
会長	坂本清治(両国)
副会長	小笠原悦郎(日大二) 小川輝之(京橋) 宮崎宏一(足立東)
顧問	矢谷芳雄、徳久鉄郎、武藤一良、岡本武男(攻玉社)、斉藤弘、船本治義、増田信(国際短大)、G・コンプリ(日向学園)、尾上知明、渡辺浩、中島清、佐藤勇夫、寺島甲祐、鮎沢真澄(聖心学園)、井原茂幸、道広史行(山崎学園)、酒井俊郎(文教大学)、嶋森敏、高橋定夫、金井肇(大妻女子大)、御厨良一(大妻女子中野高)、沼田俊一(目黒星美学園)、山口俊治(北里大)、勝田泰次、永上肆朗、伊藤駿二郎(日本私学教育研究所)、菊地堯(東女体大)、杉原安(攻玉社)、小川一郎(東邦音大)、秋元正明(二十一世紀教育開発研究所)、木村正雄(中央就学相談所)、中村新吉(東京都立教育研究所)
会計監査	細谷斉(武蔵) 佐藤勲(小松川)

平成 6 年度都倫研事務局構成

(敬称略)

事務局長	水谷 禎憲(大泉学園)	
次長	増渕 達夫(千歳)	
研究部	部長	渡辺 安則(練馬)
	副部長	宮澤 眞二(田無) 町田 紳(北園)
		功刀 幸彦(南野)
都倫研 広報部	部長	山本 正(玉川)
	副部長	高橋 誠(八王子高陵) 三森 和哉(赤羽商)
全倫研 広報部	部長	新井 明(国立)
	副部長	影山 洋(足立西) 水堀 邦博(荻窪)
全国調 査委員会	委員長	富塚 昇(京橋)
	副委員長	西川 一臣(豊多摩) 和田 倫明(航空高専)
全倫研 研究部	部長	幸田 雅夫(玉川聖学院)
	副部長	吉野 聡(学芸大附属) 佐藤 幸三(都立大附属)
		大谷いづみ(国分寺) 成瀬 功(小川)
全国大 会運営 委員会	委員長	上村 肇(江北)
	副委員長	佐良土 茂(田園調布) 本間 恒男(青梅東)
		平井 啓一(久留米西) 渡辺 潔(新宿山吹)
		立石 武則(忍岡) 諸橋 隆男(大妻中野)

## 人間としての在り方生き方を 深く考えさせる学習指導の試み

—『現代社会』における同時展開授業の実践とその報告—

都立練馬高等学校 渡辺安則

### 1. はじめに

平成5年度、都立練馬高校（以下本校）では第1学年の『現代社会』の授業を少人数クラスによって実施した。本校では、『現代社会』は第1学年で4単位を履修・修得するカリキュラムになっているが、これをAとBの2単位ずつに分割し、Aでは主として倫理・社会的分野、Bでは政治・経済的分野を学習するようにしている。5年度はこのうちのAの2単位を少人数化して授業を編成した。これは6年度も継続することになっている。ここでは、5年度の実施の報告とその反省を述べてみたい。

### 2. 少人数制授業の実施理由

本校では、6年度から開始される新教育課程でも、旧課程と同様に第1学年の課程に『現代社会』4単位を置いている。それはこの科目が新課程の公民科にとどまらず、社会科学全体の基礎を形成する科目であるという認識で合意したことによる。その『現代社会』で少人数制授業を構成したのは、まず第1に「人間としての在り方生き方」の指導の充実を図り、学習の深化を図るためである。また、このことに加えて、担当者の専門分野をより生かすことで指導の実を上げることも期待された。

第2に学校の状況からの理由がある。本校では3年次に自由選択で『倫理』をおいているが、選択する生徒が非常に少ない（平成4年度14名、5年度6名：選択取り下げ後の確定人数）。これは進路希望等との関係もあるが、より大きな要因として倫理学習、人間としての在り方生き方についてその学習に対する興味関心が希薄であることが問題なのではないかと思われる。学習指導上生徒の興味関心を引き出せていない等の問題もあるが、これらを考え合わせて、倫理的内容および青年心理的内容の学習指導の改善を考え、実施したわけである。従って、少人数制の展開授業はAの2単位分、倫理・社会分野の授業において実施することになった。

### 3. 同時展開学習の実施方法について

#### (1) 展開の方法

少人数制授業は1クラスを同時2展開にすることで行った。展開はクラスを出席番号を基準として男女とも単純に人数で2分割し、それぞれのグループを「前半」グループと「後半」グループと呼んだ。このような分け方をした理由は、まず第1に『現代社会』はいわゆる習熟度別編成にはなじまないと判断したことによる。本校では数学と英語で習熟度別授業を一部実施しているが、この両教科ともに生徒の学習到達度を客観的に測るための指標を設定している。ところが『現代社会』ではそれらと同様に生徒の学習到達度を測ることが困難であると思われる。そもそも社会科は単なる暗記によって学習が成立する教科ではない。特に倫理・社会分野は、生徒が「自ら考える」ことがもっとも重要なことであるから、何らかの要素を数値に置き換えることで「客観的」に序列化することになじむとは考えられなかった。またこのことから、どのような要素によって分割したとしても、公平な判定は保証しにくいと判断した。結論として、人数による単純分割以外の案は出なかった。

このように分割し展開した授業を時間割におくときには、授業担当者が2名必要になる。しかもこの2名はまったく同一の時間を担当することになる。複数教員が同時展開の授業を受け持つ場合、時間割編成は煩雑になりやすいものだが、この形式では2名が1セットで組まれるため、基本的には一つのコマとして扱うことができ、多少は煩雑さを免れることができた。ただ、ホームルーム教室以外に使用教室を1カ所確保する必要があり、この点が他の教科の展開授業との関係で問題になったことは事実である。それでも、使用教室はできる限り固定して、生徒が教室移動で混乱しないような配慮は行われた。

## (2) 授業の内容、および生徒の学習形態

先述の通り『現代社会』のA、つまり倫理・社会分野を分割したので、そこで扱われる内容は科学と哲学、生き方などの倫理的内容と、青年期や自己探求、学校生活などの心理的内容に大きく分割できると考えた。またこの中に、文化的な内容も含めて考えたが、これは『地理』との関係もあってその扱いについては明確な決定がしにくく、適宜分割して授業に組み入れることとした。そして2名の担当で、倫理的内容と心理的内容とを分担することとして授業内容を編成することにした。このような分割方法をとることで、生徒は『現代社会』Aの全体を学習するためには一人の教員の授業だけを受けているのでは足りないことになった。そこで、毎学期を細かく期間に分割し、生徒を入れ替えて各分野の授業を行わざるを得なくなった。定期考査を実施することも考慮して期間を設定したため、かなり短いサイクル

で入れ替えを設定することになった。この設定を表にして示すと下のようになる。  
入れ替えの際は、授業の実時数も考慮した。

学 期		1				2				3	
時 期		中間まで		期末まで		中間まで		期末まで		期末まで	
分 割		前半	後半								
生 徒	前	心理	倫理								
	後	倫理	心理								

#### 4. 実施前の打ち合わせと現実

取り扱う内容をそれぞれに分けているとはいえ、同一科目を複数の教員で担当するのだから、かなりの調整と確認が必要になることが予想できた。そこで、年度当初の打ち合わせでいくつかの申し合わせを行った。授業進度の連絡調整用の「進捗表」の作成と利用、時数と進度による入れ替え指示の確認等がその内容になる。しかし、実際には予想をこえた複雑さが見られて、打ち合わせたことが有効になるまでには至らなかった。少なくとも、担当者各々が授業の進行状況を確認して各グループで進度や取り扱う内容にずれが生じないようにすることはできたものと考えているが、相互の連絡確認や連携にまでは役立てることが難しかったと判断している。また、このような連絡調整を考えたことには、『現代社会』がもともとAとBに分けられていることで2科目あるかのように受け取られやすいことから、Aの分割がさらに多数の科目として受け取られることがないようにする目的もあったのだが、この点でも生徒には別々の科目があるかのような誤解を与える結果になったように思われる。クラスを分割し展開して授業を実施する際の困難をつくづく感じるようになった。

#### 5. 1カ年を終了しての反省

展開授業の実施1カ年を終了したところで、担当者（最終的には公民科担当教員全員、つまり現実に『現代社会』を担当している全員である）で授業の形態や進め方についての反省を行い、今回の経験を今後に生かすための話し合いを行った。その中で主に問題として出されたことは、少人数にグループ分けしたことのメリットとデメリット、それに指導の方法についてである。

##### (1) グループ分けのメリットとデメリット

少人数にしたことによって生徒の様子を従来に比べて詳しく見ていくことができたことは明らかであると思われる。しかしその一方で、クラスの全体像を把握する

ことは困難だった。また、グループの入れ替えを予想以上に短い間隔で行う結果となったために、授業の流れを安定させることにも困難があったといえる。このように考えるとデメリットが目につくのだが、通常の40人のクラスで授業を行うことに比べれば、生徒に対して問いかけたり語りかけたりする機会を1単位時間当たりでは増やすことが可能になっていた。通年で全生徒を見ていく場合と比較して、どちらが生徒をより理解するために有効であるかは、性急に判断できるものではないと考えている。また別の点では、分割したことで出欠状況に関しては細かい連絡が必要であったにもかかわらず、それが徹底できないところがあって出席時教の確認にはいささかの問題を生じた。これに関しては深く反省して今後に生かしていかなければならない。

## (2) 指導の方法

展開授業の本来の目的は「倫理的内容の指導の深化」だが、この目的を達成するために行うべき指導方法の検討については事前の準備が十分であったとは言い難い。そのことも理由となって、「生徒自身が自ら考える」ことを促進する指導ができたとは評価できない。授業の内容についての確認、方法上の工夫とその準備については、いっそう具体的な検討が必要であることが明白だった。また、教員が担当する分野を固定したことは、かえってお互いの授業構成を拘束してしまった嫌いがある。本校ではこの実践のために倫理専門の教員が2名となったのだが、それぞれの専門を生かして指導を充実させるにはより具体的な指導内容、方法の研究が求められるべきであろうと考えている。

## (3) 次年度に向けての議論

上記の反省は、先述の通り担当者全員で話し合ったことであり、その中で確認されたことである。そしてこれに加えて、特に指導方法と指導内容については、『現代社会』全体で何を生徒が学習するのだと考えるかについて、相当な議論を行った。中でもAの授業の中でどのような領域を扱っていくかについては、倫理的分野を高校生に対する授業で扱うことの意義を含めて、相当な時間をかけて論じ合った。その話し合いの結論として、次年度に引き継いでいくべきことや改めるべきことをまとめ、次年度（つまり平成6年度）の授業予定を構成する際に考慮することとした。

考慮されたことの第1点は、取り扱う内容であった。『現代社会』4単位が生徒には3つの別な科目であるかのように理解されたことを受けて、Bの政治・経済的分野とAの分野との連携を図ることが台意された。しかしこのことで、実質的には

倫理・社会的分野を取り扱う実時数を縮小せざるを得なくなり、『現代社会』全体としてはいささか政治・経済に比重が傾く結果となった。

第2点は指導方法の問題で、分割展開による少人数クラスを生かすために、生徒の活動を活発化することのできる指導方法を年度当初から工夫し、多様な指導形態を試みることが合意された。ことに、単なる暗記で学習を終わらせないために、倫理・社会的分野については定期考査を実施しない評価方法を工夫することまで含めて検討していくことを申し合わせた。

第3点が分割したグループの入れ替え時期の問題である。5年度は定期考査を行うことを前提として、そこで公平に生徒が受験できる体制をとるために短期間での入れ替えを計画した。だがそのサイクルの短さが学習を効果的に行うためにはマイナスだったという反省があり、少しでもサイクルを伸ばすということで、定期考査をめぐり入れ替える方式に変更することとなった。このことは、考査に頼らない評価方法の工夫とも結び付けて考えられたことである。

#### 6. 平成6年度に向けて

以上のような反省と検討の議論をふまえて、平成6年度の授業に取り組むことを公民科担当教員全員で申し合わせたわけである。展開授業の是非やその効果について十分に評価するためには1年間の実施ではなお期間として短いということで同意し、さらに工夫と検討を深めていくということが5年度についての反省から結論された。平成5年度に展開授業を実施するに当たっては、実は諸般の事情から詳しい検討を行って計画を立案するだけの余裕が与えられていなかったのも、その意味では準備不足で出発したということになる。だが、それだけに、今後の指導に向けて生かせることは何か、マイナス面をいかにして解消していけるかなど、検討すべき課題が多く残されたともいえる。公民科という新教科に関わるだけでなく、社会科という大きな枠組みの全体に対して、その基礎として機能できるはずの科目『現代社会』を通じて生徒の関心が高まり、学習に対する意欲が引き出せるように、担当者全員で工夫を重ねていくことを申し合わせて、6年度の授業に取り組んでいる。

#### 7. 追記—平成6年度の年度末に

上記6までの文章は総会での発表資料とそれ以前に行った担当者の反省をもとにしている。発表時にはいささか個人的な思い入れが先走ってしまったと思っているが、相当な時間をかけて議論し検討した結果で行っていることだけはご理解頂きたい。6年度の実践も、まもなく反省の時期を迎える。

## 現代倫理学の基本問題

### —相手の身になって考えること—

専修大学教授 大庭 健

去る5月27日、専修大学の大庭健先生を招いて、講演会が行われた。演題は、「相手の身になって考えること」ということであった。倫理学の「倫理」とは、本来、輩における理法を表現しているものである。人間とは、「人の間」と書くように、一人だけの孤立的な存在では、輩足り得ない。単独存在ならば、倫理は成りたらず倫理学もその基盤を失う。自己以外の他者の存在が必然的に要請されてくるが、その時、眼前にその重要さを表出させてくるものが、相手の「身」ということである。この道徳的対象をいかに把握すべきか、また、「身になって考える」ことが可能であるかなど、古来からの倫理学的課題を現代倫理学の問題として捉え直そうという試みである。その際に近代倫理学の主な潮流をなす、カント主義と功利主義が大切な導き手としての役割を果たす。以下に、この二つの思想を手がかりに講演の要旨を紹介させていただきたい。

まず、共感と道徳的思考において、黄金律が道徳的直観として表わされることを示す。黄金律とは、もともとは『新約聖書』中、イエスの「山上の説教」にある「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」（『マタイによる福音書』7・12）という教えに対して、18世紀ごろ与えられた名称である。同じような言い方として、「相手がしてもらいたいと願っているとおりに、相手に行為する」というものがある。前者の場合は、もし、自分が厳しくしてほしいと願ったならば、他人にもそのような態度を持つてするということにもなりかねない要素を内含している。してほしいことの基準が自己に帰着する危険性から、自己中心主義に陥りやすい。一方後者は、相手がほめてもらいたいと欲しているならば、その通りに実行に移す時、無原理的奉仕という過ちを犯す。

「相手の身になって考える」ということは、道徳的思考の原点であるが、この点において深い示唆を与えてくれる人に、アダム＝スミスがいる。彼には『道徳情操論』という書物がある。ここでは、共感に基づく経済学と道徳の結合が語られることになるが、市場的交換と道徳の共通原理としての共感を持ち出すわけである。ただ、この感情には片よりの欠点を免れることはできない。つまり身近な出来事ほど生々しく、切実に感じられるのであって、公正をいかに維持するかが、近代倫理学の課題として受け継がれることになるのである。

カント主義は、しばしば義務論を標榜する代表的な思想として位置づけられることが多い。彼は、道徳法則を「汝の格率が普遍的法則となることを意志しうるような、そうした格率に従ってのみ行為せよ」という命法（命令）という形で表現をした。この命法というものは、行為における他の一切の条件を無視して常に断定的に迫って来るものであり、定言命法と通常呼ばれているものである。これに対して、例えば、「もし、幸福になりたければ ～ をせよ」という条件付きなものは、仮言命法と名付けられて、これは、道徳の原理に値しないとして、カントによって否定されることになる。

カント主義の思想と対抗する形で述べられるのは、功利主義である。現在まで、規則功利主義という名でその流れは脈々と伝えられてきているが、もとは、近世のベンサム、ミルの古典功利主義にその源を発するものである。ベンサムは、ブリストリーの『政府論』の中に、ハチソンが「最大多数の最大幸福をもたらず行為が最上」と考えた。この言葉を見つけて、アルキメデスが比重原理を発見したときのように感動した、という。この「最大多数の最大幸福」という道徳的規範において重要なことは、どんな人をも一人と数え、どんな人をも一人以上には数えないということである。言い換えるならば、どんな幸・不幸も平等に扱うことによって、程度の差を設けないことを意味する。

「相手の身になって考える」ということは上述の二つの思想に基づいて再検討すると、次のようになる。「私」という人格特性を、そのままに保ったうえで相手の状況に置いたとしても、相手の身になったとは言えない。そのことを可能にするためには、人格の変更が要請されるが、もはや、その時は、もとの「私」とは相違なるものである。「私」をいかに考えるかが問題となる。利害関係を全て拭い去ったとしても「私」としての同一性は、いささかも傷つかないとカント主義では考えるが、デカルト的思惟実体を想定することになり、このような主体は、カント自身も否定せざるをえないというジレンマに陥ることになる。一方、功利主義においては、多くの人々にとって、是認できる事態こそが、「私」にとっても望ましい事態であるとして最大多数の最大幸福と結びつけようとするのである。ただし、この方向においては、無限の共感能力を持つ無私の判断主体を想定する無理が生じてくる。

反事実的（想像的）自己同定の意味論について考察を進めることが必要である。つまり、分析哲学の手法を用いた言語的解明の分析の必要性である。「私とは何か」という問いは古くて新しい問いである。これに答えることによって、はじめて「相手の身になって考える」ことの意味も明らかになってくるのである。

（文責 都立桜水商業高等学校 大月郁夫）

## 第一回研究例会 公開授業

### 「平和の哲学」～

#### 「平和を求める生き方を考える」(倫理2年)

都立南平高等学校 関根 荒正

##### 1. はじめに

公民科がスタートした初年度に、公開授業をお引き受けできたことを光榮に思う。私はこれまで、倫理・社会、現代社会の実践を通して、その在り方にいくつかの提言をしてきた。その一つは、生徒の意識・生活をふまえ、現代世界・日本の抱える政治・経済・社会的問題を切り込み口にしながら、それを支える構造に対するしっかりとした知的認識をもたせ、生徒一人一人に生き方を考えさせるような総合的な展開をはかることであった。しかし、教材開発や学習方法の工夫を積み重ねる中で感じた疑問は、そうした実践がこれまで日本の学校が連続と続けてきた「教え込み」の延長線にしかなかったのではないかということである。果して、どれだけ生徒自身の学ぶ力・生きる力につながるものであったか。今、最も大切であると考えているのは、教師である私と生徒である一人一人の若者が、人間としての信頼関係をもってその心や生き方を触れあわせつつ共に成長し、それをもとに生徒が生きるに必要な気概や知識を身につけられるか、といわば教育の原点とでもいうべきものである。研究授業を通して、そうした私の問題意識を汲み取っていただけたら幸いである。

##### 2. 今年度・「倫理」年間指導計画

ユネスコの「国際教育勧告」(1974年)と時折実施している生徒の意識調査をもとに、平和・人権・主体的な生き方を柱とする主題学紺を行っている。今年度のテーマは次のようなものである。現代の青年像(9時間)～「人間はどういう存在か」「現代社会と青年」 平和(10時間)～「平和の哲学」 人間の尊厳と平等を考える(30時間)～「平等—差別問題を考える」「西洋と日本の人権思想」「人間の尊さ—いじめと浮浪者襲撃」「生命の重みを考える—死刑制度」「人間の尊厳と平等を重んじた生き方」 今、君はどう生きるのか(7時間)～「善く生きる、本当に知るとは」「主体的に生きるには」「生きがい求めて」。どのテーマでも、生徒にとって見える社会的事象から出発して、人類が抱える問題の現実を捉え、思想や人物の生き方・考え方をふまえて、一人一人の生き方を考えさせる総合的な展開にしている。つまり、社会問題を主題にした問題解決型の内容構成である。

### 3. 公開授業「平和を求める生き方を考える」

学習主題「平和の哲学」では、① ナチスや日本の軍部が行った蛮行を歴史的な事実として把握し、それに引き込まれた人間の性格や意識について理解させる。② ガンジー、中沢啓治の生き方・考え方をもとに、平和な社会・世界を維持・確立するために何が必要かを考えさせる、をねらいにして、次のような展開にしている。

#### 学習主題「平和の哲学」・学習内容の展開（10時間）

・ナチス・ドイツは何をしたか — 「アウシュヴィッツ」 .....	1時間
・強制収容所で何が行われたか .....	1時間
ビデオ「ナチ絶滅収容所列島」 スライド「アウシュヴィッツ」	
・「アウシュヴィッツ」の背景 .....	1時間
東方総合計画、ナチスの人種論	
・ナチスに引き込まれたドイツ人、特に中産階級の意識 .....	2時間
「権威主義の性格」	
・日本軍は中国で何をしたか .....	1時間
南京大虐殺、関東軍731部隊の人体実験	
・残忍な行為にはあった兵士の心理 .....	1時間
ビデオ「証言 — 侵略戦争」	
・平和を求める生き方を考えるⅠ・中沢啓治 .....	1時間（本時）
・平和を求める生き方を考えるⅡ・ガンジー .....	2時間

公開授業では、「はだしのゲン」の著者である漫画家中沢啓治氏の生き方・考え方について、特に原爆に関する漫画を描くようになった動機について理解させ、氏の姿勢と戦争・原爆体験を引き継ぐことの意味について考えさせようとした。

### 4. おわりに

質疑の中で、授業の冒頭で行っている生徒のスピーチについてご指摘を受けたので若干触れさせていただく。確かに、原稿を見てのスピーチでは国際化の時代において心許無いと思われる。しかし、それを非難したり嘆くより、むしろ、学校生活全体の中で常に受身に追い込まれている生徒にとって、そうした形態からでもスタートせざるをえない現実をしっかりと見据えることが大切であると考え。私は、10年程続けているスピーチを、単に情報発信能力を身につけるだけでなく、教師と生徒、生徒同士の考え方・生き方を触れあわせるところに意味づけをしていることを断っておきたい。

どんな「よき」教材も、「素晴らしい」指導方法も、実践者の人間として生きる哲学と、学ぶべき主体として尊重する生徒一人一人との格闘なしには、陳腐なものにならざるをえない。これからも、教材や指導方法という技術的な次元を越えた、根源的な実践、私を私たらしめるような私の存立を支える実践を、気負うわけでもなく、斜に構えるわけでもなく、自然体で深めていきたいと考えている。

## バブル崩壊後の日本経済

都立久留米西高等学校 平井啓一

### 1. テーマ

このテーマは、現代社会または政治経済の分野のものであるが、いわゆるバブル景気に浮かれていた時代の生活意識と価値観が、バブル崩壊によってどのように変化したかという点に着目すれば、倫理的な観点から教材を構成することも可能である。

### 2. 設定の理由

バブルについては、すでに多くの議論がなされている。高校生の教材としては、バブル経済の発生した原因と、その後の生活意識と価値観の変化にしぼってみたいと考える。

### 3. 問題点

バブル経済について低金利で資金がたぶついて土地や有価証券が高騰したというのでは、何の説明にもならないであろう。それは、単に現象を述べているにすぎないからである。日本の優秀な大蔵官僚や通貨当局である日銀が何の危惧ももつことなく、手放して金余りを放置するとは考えられないからである。単に日本だけの問題でなく対外的な原因があったのではないかと考えてみる。邱永漢氏の「バブルの後の物語」(小学館)に次のような記述があるので、参考になる。

人間は一べんでも甘い汁を吸った経験があると、同じことがもう一度、起らないかと期待する。バブルは今でこそ向う見ずなことをやったものだと反省されているが、株も土地も買えば上がり、売ればもっと上がりという時代は面白いようにお金が儲かった。どうしてそういうことが起ったかという、日本でつくったものがとぶようにアメリカに売れ、日本人の手にドルが大量に入ってきたからである。

ではどうしてアメリカに日本製品が売れたかという、**「レーガン大統領がソ連に対抗するための国防予算をカーター時代より一挙に三倍もふやし、それを国債(即ち国の借金)によって賄う政策をとったから」**である。もし増税によって国防費を賄っていたら、恐らくアメリカの斜陽化はこんなに速いスピードで進行することにはならなかったであろう。増税で吸い上げられておれば、少なくともその分だけアメリカ国民は節約を強いられ、お金を使う余裕が生じなかった。ところが国債

で賄うとなると、お金を一べん国に吸い上げられても、お金を国に貸しただけで国債が手元に残るから、それを売るなり、担保にしてお金を借りれば、使えるお金がかえってくる。アメリカ人はもともと貯蓄が苦手の国民だから、お金があれば気前よく使うことにはなれている。

ちょうどこの時期は、「強いアメリカ」を背景に、ドルの強かった時期でもあったから、アメリカ人の海外旅行は空前のブームを呈したし、アメリカ人がアメリカ国内で物をつくるのをやめて、日用品すら安い外国製品を輸入する方向に切り換えた時期でもあった。アメリカ人が海外貿易で赤字になった帳尻がほぼアメリカの国家予算の赤字に見合ったということは、アメリカの国防費の増加分は日本や台湾や韓国など対米貿易黒字国からの借金によって賄われたことを物語っている。

一時的にせよ、こうした対米債権が日本銀行の勘定に入ってくれば、日本銀行はこの勘定を外貨準備に計上して日本円を増発する。対米貿易がふえればふえただけ、日本国内は円の洪水になるのだから、日本国中の銀行が「お願いします。お金を借りていただけませんか」とお得意さまのところを駆けまわるのは当然であろう。その結果が株と土地の異常な値上がりにつながったのだから、日本におけるバブル症候群は、レーガノミクスが日本に転移して発病したものと言っても、決して間違いではない。従ってバブルの震源地は本来、アメリカであり、バブルで銀行が倒産寸前まで追い込まれたのもアメリカなら、不動産の値下がり不動産屋がパタパタと消えてなくなったのも、アメリカが一足先である。そのあとを二、三步遅れて日本が追いかけているだけのことである。

#### 4. 工 夫

バブル経済は、土地や有価証券はもとより物価の高騰をまねいた。このことは、貨幣価値の減少であり、インフレにはかならない。このインフレを逆に生かす一つの工夫として、政府は赤字国債を1989年までに解消することができた。日銀が教次にわたって公定歩合を引き締めると、金融機関の融資が急速に細りはじめて、さしものバブルもしぼみはじめることとなった。土地を買いあさった企業は、金利の負担にあわてはじめ、銀行は不良債権をかかえることになった。バブルの反動で、企業の設備投資は冷え込み、消費も落ち込むこととなった。

#### 5. 結 過

さて、バブルの後の不況からの回復がおくれている中で人々の生活意識と価値観は、どのように変化しているのだろうか。百貨店の売上が低迷し、また高額な商

品が売れないと言われて久しい。各種の統計もそれをしめしている。人々は、良いものでしかも安いものを求めているようにみられる。オーソドックスな、いわゆる定番商品は売れている。ゴテゴテしたものでなく、本来の機能にしぼった商品は人気があると言われる。国民の消費生活が、それだけ堅実になってきているということなのであろう。スーパーマーケットなどで主婦たちが買い物をする様子を見ても、商品と値段を突によく見比べているのが印象的である。国民の価値観も、かなり実質を重視するようになってきているといえそうである。考えてみれば、バブルの時代が浮かれ過ぎただけのことであり、やっと本来の落ちついた状態に戻ったというべきなのであろう。日本もこれから成熟社会にむかい、高齢化が目前にせまっていることを考えあわせると、経済成長もこれからは緩やかな伸びをしめすことになるのであろう。

## 6. おわりに

生徒に配布するプリントとしては、身近な題材を扱ったものが分かりやすいと思われる。参考になれば幸いである。



〔ひとまず体験男のそれなりの人生〕

ここに気我済男(きが・すみお)という、35歳になる男がいます。彼は80年代をフルパワーで駆け抜けたサラリーマンです。最近バブル崩壊にあい、自分を見直し始めました。彼は今何を考え、どう生きようとしているのか、彼の生活から読み取りましょう。

大手保険会社勤務。なんでも人並みに体験しないと、気が済まない性格で、結婚も浮気も離婚も体験したし、別荘も外車も持った。で、済んでしまうと急速にそのものに対して興味が薄らぐ性格が難。

気我氏は3月のとある日曜日、清里にある別荘へひとりで出かけました。その別荘は都内で家が買えないので、諦めて永住できるようにと、5年前4000万円で購入したものです。しかし、使うのは年2回程度で、その上



水抜き、冬仕度、庭掃除等の維持が大変です。今回も冬の間壁にヒビが入ったと聞いたので、様子を見にわざわざ行ったのです。愛車はUSAアコードです。

当時は百恵さんのペンションブームがあって、清里は大人気だった。4000万円で購入したが、今売ると6000万円以上とも言う人がいるが、近所でそんな値段で売れた話は聞いていない。建物の傷みが激しく、建売りは買うもんじゃないとつくづく思った。

冬場、水道管が破裂しないように、水を抜いてしまうこと。年2回の利用なのに、別荘の様子を見に、年4回も行ってしまうことが不条理でしょうがないという。

以前はアルファロメオやマセラッティの中古に手を出していたのですが故障が多く、日常使うには不便と感じ、壊れないクルマに落ち着いたのです。



別荘を修理しながら「しよせん別荘なんて使わないよなあ。建物は年々ボロになるし、同じところに泊まるなら、リゾートホテルを泊まり歩いたほうがいい。今年じゅうに売ってしまおう」そう考えました。



さらに都内でも「会員権が100万円したフィットネスクラブも宝の持ち腐れた。千駄ヶ谷の東京体育館で十分だ」と思い、売ること考え始めたのです。

8年落ちの中古だったので、クルマはキンむし、突然止まるし、エアコンもあまり効かないしと、散々だった。女のコは乗る前はトキメクが、一回長距離でドライブすると、二度と乗りたがらない。

ハイシーズンなら1泊4万円以上するプリンスや東急のリゾートホテルでも、4000万円あれば、1000泊もできます。しかも、いろんなところを好きに選んで。そう考えると同じ場所で、しかも冬場は近くの人工雪スキー場しか遊ぶところがない清里の自炊別荘じゃ、寂しくてやってられませんよね。

気我氏は28歳のとき会社の同僚と結婚し、性格の不一致から32歳で離婚しました。当時は株に手を染め、夫婦の趣味は財テクでした。第一次のNTT株は二つ当たり、ひとつは、天井近くの300万円近くで売り逃げし、もうひとつはダラダラと持ち過ぎ、未だ売れずじまいです。結局ここ4～5年でそのほかの株も含めて3～400万円ほど浮きましたが、株価が心配で株式市場をず～とラジオで聞いたり、日経新聞やマネー雑誌を熟読しなければならず、結局手間を考えるとたいして浮いてないことに気づいたのです。

フィットネスやリゾート会員権は、その権利を返したり、誰かに売るときには、名義変更料というへんな名目で、何十万円もお金をとられるケースが結構多いのです。結局高く売れないシステムが多い。しまいには潰れてしまって、会員権が丸損というケースもある。

現在預貯金は1500万円ほどありますが、株はもちろんのこと、ゴルフ会員権やリゾートに手を出す気は毛頭ありません。とりあえず銀行と郵便局にお金を入れて様子を見ようと考えています。



クルマもソコソコ、家も賃貸、離婚したとはいえ新しい彼女は25歳。清里の帰り道、今度の連休はちょっとズラして、新しいガールフレンドとハワイにでも行くか。格安チケットだと10万円ちょっとでも済むもんなあ。そんなこと考えつつ、うららかな春の中央自動車道を走りながら山口百恵のいい日旅立ちをくちずさんだのです。

人間、欲にはキリがある。これ以上欲しがってもしょうがない。そんな悟りをひらいた、気我氏の春の午後でした。



## 家族問題を再考する

お茶の水女子大学教授 湯 沢 雅 彦

### 1. 日本家族の動向の再確認

戦後に限っても、日本の家族は変動しました。それを私は、3期に分けて考えています。

第1期は、30年代前半までです。戦前の古い民法が解体されたにもかかわらず、現実の家族は、ほとんど動かなかった時期です。30年代の世論調査によると、世帯の持ちかたが余り変わらなかったし、一般の人々の意識も、戦前の方が良かったという声が多いのです。

第2期は、30年代後半から40年代前半で、この時期になると様子が変わってきます。昭和40年の全国世論調査によりますと、やっと新しい家族制度を評価する声が多くなります。恋愛結婚と見合い結婚が逆転します。又、離婚の場合、以前の親権の問題が絡み、子を父親がひきとる場合が多かったのですが、それが変わってまいりました。

第3期の昭和40年代後半になりますと、恍惚の人のような老人問題、いわゆる高齢化社会の問題が出てきました。さらに、親子関係も含めて、家族の機能喪失の時代、あるいは家族の病理の時代を迎えたのではないか。このままでは、家族は、崩壊してしまうのではないかという危機感をもってきました。それは、今でも続いています。

そこで、このことが、まともな指摘かどうかを確認してみる必要があるのです。これから5つのクイズを出します。

- |                     |         |         |
|---------------------|---------|---------|
| (1) 離婚率はどちらが高いか     | a 明治中頃  | b 最近    |
| (2) 未婚の母の割合はどちらが高いか | a 大正11年 | b 最近    |
| (3) 老人の自殺率はどちらが高いか  | a 昭和10年 | b 最近    |
| (4) 子殺しの事件はどちらが高いか  | a 昭和35年 | b 最近    |
| (5) 結婚の平均寿命はどちらが高いか | a 最近    | b 昭和30年 |

正解は全部 a です。ここから見て、日本の家族は、病理化が進んでいるかという  
と、統計で見る限り、そうとは言えないのです。

## 2. 認識の大切さ

(上記の問いに対して)市民の情報は、マスコミからなので逆にとってきました。実は、マスコミが意図的な選択をしています。昭和47年、子捨て、子殺し報道が多かったのは、大事件が続いたこの年の10月には何もなかったので、仕方なくこれを載せたのです。マスコミは、継続的なことは記事にしない。偶発的、特殊なことを記事にし、一般化します。又、マイナスの評価ばかりします。

## 3. 日本家族の不安要因

では、日本家族はこれで良いのかというそうではなく、いくつかの不安定要因があります。

1番目は、他人指向性というか、他人の目を気にし、自己確信が持てないことです。

2番目は、基本的な家族の理念価値感が安定していないことです。口ではアメリカというが、心はアジアなのです。

3番目は、アメリカのダワー教授が言ったことで、日本の家族には、真の家庭生活がないということです。それは、実質的に父親が不在で、夫婦間の会話がないう。親子の真面目な対話がないことなのです。

## 4. 避婚化の課題

男が仕事優先で、家庭を顧みなくなったことのひとつの弊害が、女性の避婚化です。女性の経済力があがって、女性の理想が高くなっています。もうひとつは、結婚すれば自由がなくなると考えているのです。それは、両親の夫婦像が良くなかったためです。

## 5. 向うべき方向はなにか

女性から見て、結婚して子供が生まれて、なおかつ仕事もできる。それが社会全般に行き渡っている。そういう方向が見えないのでしょうか。

そのモデルのひとつとして、デンマークを挙げるすることができます。デンマークの女性の多くは、結婚して、平均して二人の子供を生みます。それなのに、なぜ仕事と両立できるのか。デンマークでは、13歳までの子供は国を挙げての高校生・大学生のボランティアで埋めます。仕事は、例外を除いて全部4時に終わります。残業はしません。それで、遅くとも4時半には帰って家事と育児を分担するのです。欧米から見ると、日本の仕事過重はおかしい。仕事も結婚もほどほどにというのが、この話の結論であります。(文責 都立代々木高等学校・三部制 西尾 理)

## 公開授業について

都立羽田高等学校 黒須伸之

授業において提供する内容は、常に最も洗練され咀嚼されたものである必要がある。高度に情報化した今日では、夕方のゴールデン・タイムに放映される娯楽番組のクイズで全世界の出来事が毎日、放映され楽しくこれらを理解できる時代であるからである。社会に関する知識を伝達することを専門的職業とする私たちが、さまざまな情報を利用し具体的で客観的な知識を伝えるとともに、その内容を理論的な面でも理解させられたとき、高校生はよく分かったと感ずることができる。

この目的を実現するためには、常に研鑽が必要となる。かつて、本研究会で1年間をかけてカントの「道徳形而上学原論」をできるだけ原文も加えて輪読したことがあるが、こうした地道な努力は最も重要である。数カ月をかけて現地調査を実施し、審査論文をとおした程度の知識でも、授業で利用できるのは、時間にして15分程にすぎない。授業準備とは歩止めの基だわるいものであることを覚悟して、1つ1つの知識を地に根ざしたものとしておくことが大切となる。洗練された教養にして初めて、高校生一人一人の人生観の礎を築くものを供給できる。

実際の教室で実感されるように、あふれる情報のなかで育ってきた現代の高校生を納得させるには、浅薄な知識で不可能となった。我が国の教職員も、理想的にはドイツのように修士の学位を2つ以上もち、可能ならば博士課程終了程度の専門フィールドを1つ持つと同時に、グローバルな教科教養とティーチャーズ・マインドを持つことが望ましいといえる。また、本研究会が伝統的に実施してきた公開授業などのオープンな場をもてることは大切である。

今回の公開授業に関連する、授業内容についての工夫を述べることにいたします。

①「安心させる」。1年間の授業で何を勉強するのかという年間の授業プログラムを最初の時間に1時間をかけて解説をしておく。1学期の中間考査までの〇〇時間で教科書の〇章、〇〇ページまで、という具合に第3学期までの内容を概説しておく。年間授業はおおよそ、その流れにそって行く。授業で1年間に勉強する内容が概観でき、いま何処を勉強しているのかが分かるということは、全体を理解する上で大きな意味を持つ。

②「飽きさせない」。よく分かる授業は“飽きてしまう”ということは考えにくい。授業の骨格は1)説明 2)板書 3)ノートができるまでの待ち時間の3部構成とする。このうち説明では、専門用語と併用して視覚的に目に見えるような語法を用いると伝えたい内容がよく伝わる。単に「地球」というだけでなく、「青い地球」というふうに視覚的語法をもちいると、左脳だけでなく右脳も活性化できるようなのである。お話の中身が目浮かぶように説明する工夫をする。全員がノートを取る時間を確保する。落ちこぼれが出てしまうと、やがて私語などをするようになり、授業自体の基盤が危うくなる。ノートが全員できるまでに、クイズ形式の質問をしたり、漢字の読み方を質問したりして興味の喚起をしておく。

③「分かりやすいこと」。1時限の授業で身につく知識は、生涯使えるものが1つあればよしとする。年間に70時間あれば、生涯にわたって使える知識を70も与えることができる。

今回の公開授業のテーマは「現代の企業」であるが、内容は1)私企業原理 2)大企業の資本とその経営 3)巨大企業と多国籍化の3つからなる。これらを1つ1つ詳細に理解させるには、限定された時間では不可能である。そこで具体的な教材を用いるようにした。①IC(日本で初めて開発された合成言語用回路。しかし、今ではシンガポールで生産され、アメリカで製品になっているもの)。②ベアリング(日本企業の製品であるが、生産はタイ工場。米軍軍用規格を、高度にこえる精密度をもつ)。③株券のレプリカ、の3つである。

経済の仕組みを理解するにも、手にとってみることができる教具があれば効果が高い。株券を手にして、それが経済的にどのような意味を持つのか、また、ICやベアリングなどの先端技術と世界経済の意味を感覚的に理解できるようにすることが、この授業のテーマである。この1時間の内容をすべて理解することは、たいへんであるけれども、具体的な教具と経済との関係を感覚的なものとして深く身につけさせることは、大きな目的である。

以上が公開授業にあたって、政治・経済という科目への考え方と年間の授業を構成する工夫、公開授業の内容等である。それぞれの科目をとおして、高校生がこれからどのような方向で活躍していくのか、社会のなかで自分が何をなすべきなのかをみつけられるようにするかが、私たちの役割であるといえる。

## 映画は人を裸体にする

—考えることの始まりに向かって—

都立福生高等学校 亀田文保

### 1. はじめに

倫理の授業で映画を使うことは珍しいことではない。視聴覚教材の発達した現在では有効な教材として扱われている。私自身も現代社会で「モダンタイムス」、政治・経済で「十二人の怒れる男」を使用させていただいた。これも諸先輩の方々の研究の賜物である。そこで私も今までの経験・実践を踏まえながら、新しい作品を新しい試みで使用できないものかと考えた。今回の発表は私なりの実践報告である。

### 2. 映画と私

映画を教材として扱うことを試みる以前に、そもそもなぜ私が映画を扱おうとしたか、私と映画の関係について述べてみたい。私にとって映画とははっきりいって趣味である。私が現在住んでいる家にはTVがない。ビデオデッキもレーザーディスクのデッキもない。私は年に80本位映画を観るが映画オタクではないのである。ましてやこ難しそうな作品のみを好むわけでもなく、「トゥルーライズ」の様な娯楽作品が大好きでよく観るのである。ただ私がこだわることは映画を観るとは映画館で観ることを言うのであって、自宅でビデオで観るのは映画を観ることにならないのである。また、私が映画館にかよるのは授業で使えそうな作品を探しに行くのではない。自分の楽しみのために行くのであるが時としてその作品を観て受けた衝撃、楽しさ、興奮を伝えたいという気持ちになることが起る。その時の体験を生徒とともに共有したいと思うのである。カタログを調べてこのテーマにはこの作品が式の選び方はやめたい。あくまでも私なりの発見に基くことを大事にしたい。

### 3. 映画と生徒

私が映画館に行くことにこだわることに對して生徒は言う。お金がないからビデオを利用すると。それは仕方のないことだし、ビデオでも映画を知ることは素晴らしいことだと思う。けれども生徒が自宅でビデオを観ることで映画を観たと済ませてしまわせたくない。映画は所詮作り物だけれどビデオはさらに二重の作り物になってしまう。いわゆる疑似体験の疑似体験である。さらに個人で作品を楽しむことも良いが、大勢の人達とともに同時に鑑賞するという体験もあって良いのではないか。

つまり大勢の人達のいる雰囲気、興奮、どよめきも映画をつくるものではないか。その意味で教室もまた映画館となりうるのではないだろうか。事実、教室で生徒は共に笑い、楽しみ、驚いたのであった。

#### 4. 映画とは何か — 試み①「カメレオンマン」

数年前、映画館で観て変わった作品だと思った。カメレオンのようにどんな人間にも変身してしまう奇病を持つ主人公ゼリグと、その彼を献身的に治療する女医ユードラフレッチャー博士のロマンスである。監督はウッディ・アレン。主人公が幼少の時、メルヴィルの『白鯨』を読んだかと友人に聞かれ、読んでいないのに読んだと言ってしまう。その過去の出来事に博士はカメレオンマン病の根源を見出す。彼は常に周囲と同化することにより、カメレオンの様に自分を隠し、身の安全を計るのである。しかし、その反面彼は本来の自分自身を見失ってしまう。この映画はいわば自分探し、アイデンティティの回復の作品ともいえる。しかしそれは作品のストーリーではあるが、この作品の面白さは映像にある。架空の人物である主人公が実在の人物、たとえばベールブスやヒトラーと一緒に出ており、あたかも彼が本当にいたように思わせるのである。実際、この映画は人間カメレオンの記録映画であると生徒に話したところ、半信半疑だが信じた生徒がいたのであった。

結局、この作品はアイデンティティの喪失と回復というテーマにつられながら、実は映画の持つ虚構性というものを生徒に気付かせることになった。それはある意味で、虚構性に気づき、本来の姿を探求するという倫理の思考様式を映画を通して体験してもらうことになったのである。

#### 5. 人間とは 文明とは — 試み②「蠅の王」

映画「蠅の王」は私が映画館で観て、大変驚いた作品である。見終って人間て文明て一体何だろうと考えてしまった。人間とは何か、それは倫理の根本問題であるが、それをどう教えようかといつも考えていた。それが逆に私自身がこの映画から考えさせられたのである。

アメリカ陸軍幼年学校生徒 24人の海洋少年漂流記ものである。孤島において秩序を重んじて海辺で救援を待つラルフ一派と、山に入り豚狩りに熱中するジャック一派の死闘が繰り広げられる。次第に文明と決別し、本能の赴くままに原始的生活に戻っていく様とその殺戮に対して生徒は驚き、ショックを受け、パニックに陥ってしまった。映画終了後、一体何が起ったのか生徒の心の中に混乱が生じてしまったようだ。困惑する者、信じられない、いやなものを見てしまったと言う者。人間

への信頼、普通の日常生活が引|っ繰り返されてしまった状態になったのだろう。ここでの彼らの驚きは、人間というものを改めて考え直すという倫理的思考の働きに基いているのである。

上映後、倫理を選択していない生徒から「蠅の王」を観たいという要望が出たので、授業とは別に上映会なるものを行った。ある生徒は友達に紹介したい、家族に見せたいとも言っていた。ゴールドディングの原作を読み出した生徒もいる。しかしその後の展開が難しい。人間とは何か、倫理の根本問題を投げかけた、そのインパクトだけは確かに残ったようだ。

余談になるが、この映画、女子に人気があったようだ。理由を聞くと主演の俳優がかっこいいというのだ。なる程、そんな観方もあったか。

## 6. 卒業とは 一 試み③「シコふんじゃった」

一年間の倫理の授業を通して、人間について、自分について考えてもらってきた。3年の3学期は授業がわずか数時間しかない。かっこよく決めておしまいにしたい気持ちもあるが、最後は楽しく終わっても良いのではないか、あまり難しく考え込まなくても。そこで使った作品が「シコふんじゃった」である。

日本の国技「相撲」をテーマにしたトレンド・ムービーである。楽しんで人生を乗り切ろうとした典型的現代学生山本秋平が卒業単位と引き換えに相撲部に入部する。試合に勝ち、部を救うためだけでなく自分自身のためにシコを踏み始めることになった。上映中、教室は爆笑の渦である。邦画としてこんなに面白い作品は近年にないといってよい。面白いだけではなく、主人公だけでなく登場人物一人一人がよく描かれている。生徒にとってもわかりやすい作品だったと思う。明るく楽しくファッションナブルに学生生活を送る現代学生気質がよく現われており、生徒が何なく映画に入ることができたようだ。

私自身映画館で観た時は思わず身を乗り出し興奮し、大爆笑してしまった。観て考えたことがあった。これはイニシュエーションだなと。生徒と日頃進路について話していて、自分のやりたいことがない、わからないという子がなぜかしら多いように思っていた。何故だろう、何も考えなくても生活できる豊かな社会になったからだろうか。大人と子供の境がなくなってきたからか、主人公の姿と生徒が二重に重なってくる。主人公はやりたくない相撲に今までの生活にはなかった何かを感じ熱くなってくる。そうだ、生徒も何かやりたいはずだ、何かを求めて新しい世界に飛び込んでいく、これは卒業を控えた3年生にぴったりではないか。卒業することは

新しい世界に飛び込むこと、何かを探すことに他ならない。そんな思いを込めて考えてもらった。

映画をどう観るか、その観方は観る者の考え、価値観、経験等により千差万別であろう。私としては生徒の感想は感想として評価し、さらにこの様な観方もあるよと呈示したつもりである。映画からは監督の考えや、作品の背景（歴史・文化等）が見えてくるのがよくある。映画が様々な分野で教材として扱われているのであろう。例えば、「卒業」でダスティン・ホフマンが結婚式の彼女を奪うシーンがある。何とご都合主義な映画だと思う。けれども淀川長治氏が、過去を問わずに未来を作っていくアメリカを描いた作品だと書いていた。なる程映画にはその様な観方があったのかと思い教えられた。

楽しく授業を終らせようとした私の目論見は大方うまくいったようだ。上映中の友達と一緒に笑い合う生徒の姿、画面を見つめる瞳、それらを見て本当によかったと思った。そして次の年も3学期は「シコ」だと決めた。ところが、翌年、テレビで何と3回も放映されてしまった。もうやめようかと思った。けれどやってみて良かった。生徒の中には既に観た者もいたが皆笑っていた。ある生徒はテレビで見ていたがつまらないので途中でやめてしまったと言っていた。それが皆と教室で観たらこんなに面白い映画だったなんて、とても喜んでた。

## 7. 工夫・展開・評価

映画を上映する際の最低条件はノーカットが原則である。時間の都合で二分割にするにしても、映画館での鑑賞の形に出来る限り近づけたい。カットしたり編集をすることは避けたい。それは製作者の意志を尊重することでもある。作品によってはそのせいで全く意味が変わる場合もある。工夫としてはパンフレットを作り配布する。登場人物、配役、作品解説を載せたものである。映画館の雰囲気を出したい。しかし、ノーカット上映を条件にすると時間には限りがあるので取り上げたくても取り上げられない作品も当然でてくる。私の使う作品は「カメレオンマン」が79分、「蠅の王」が90分でちょうど2時間授業に納まる長さである。「シコ」は103分と若干時間をオーバーするが、2回に分けた時、後半は授業が始まる休み時間から上映すると予告すれば、殆どの生徒が押しかけてくる。その光景はとても楽しくうれしいものである。又、取り上げる作品は出来るだけ、わかりやすいものを選びたい。文章でも同様だがわかりやすい文章は生徒の理解を進める。私自身、その点を大事にしている。

鑑賞後の授業展開は、基本的に感想文を課す。出来るだけ印象の強いうちに書いてもらうので宿題にする。提出後、紹介する。評価としては読書感想文コンクールの様に優秀・佳作・他ぐらゐの程度である。時期的に定期考査に出題する場合もある。小論文の型式をとりテーマを設定し解答に取り組んでもらう。評価はテーマに応じ、感想文と同程度である。感想文紹介の後には必ず作品解説を行う。その際、例えば「蠅の王」で「その後の子供たちを知りたい」という意見が出たりする。どうなるのか、それを考えることが授業の展開としてはとても重要である。

#### 8. 映画は人を裸体にする

相撲は全てを露にする。それなりの服を着れば、それなりのムードが出てしまう。肉体が何かを主張するのではなく、身につけるファッションが何かを主張する。それが現代人の個性である。土俵はその現代人の個性を木っ端微塵に打ち砕く。なぜなら土俵に上がる人間は全て己が肉体を包み隠さず曝け出さねばならないからだ。

— 「シコふんじゃった」監督 周防正行

「映画は人を裸体にする」などというタイトルを私はつけてしまったわけだが、これは偶然なのである。「シコふんじゃった」も「蠅の王」も実は人を裸にする映画なのである（もしくは裸になる映画）。「カメレオンマン」もその要素がある。つまり肉体的に裸になるということは心が裸になるということである。心が裸になるということは、考えることの始まりに向うことではないか。映画は私たちの既製概念をあっという間に壊してしまうきっかけとなるのではないか。私はその力を、「ソクラテス効果」と名付けたいと思う。私は上映中に生徒が無心になって観ている姿に圧倒された。生徒達は裸の心とは何かということに気付いたのかもしれない。裸の心から何かが始まるのではないか。始まった次に何が起こるのだろうか。それが私の課題である。

## 19世紀における功利主義と日本

—福沢諭吉と西周—

国際基督教大学教授 小 泉 仰

功利主義についてのお話をということですが、今日は福沢諭吉と西周につきまして、彼らがどのような形で功利主義を理解していたかをお話したいと思います。

1868年明治政府が日本を統一しました。政府は新しい日本を築き上げようとした時、尊王攘夷のうちの攘夷の看板を下ろしまして、開国へと方向転換しました。福沢はこの開国への方向転換を大変喜びました。彼は3度、欧米に渡航いたしまして、西洋諸国とその植民地をつぶさに見ました。特に、西洋諸国の文明の発達と西洋諸国によって植民地化されてしまった諸地域の民族がどのように虐げられ、独立心を失ってしまったかを見まして、日本もこのようになる危険が極めて大きいと考え、日本の独立の必要を痛切に感じました。福沢は『文明論の概略』で日本のいたるところに見られる権力の偏重の態度と精神の奴隷の状態を示している人民の気風を見まして、日本の独立は危ういと考えて、深く憂慮しました。そうして、こうした状態を支えていた儒教倫理を徹底的に批判しました。

ところで福沢が西洋の文明に接したのは、直接の渡航のほか、書物によってもでした。例の『西洋事情』の種本となったのは、Wjllam & Robert Chanber の *Educational Course* と Francis Wayland の *Element of Moral Science*、さらに *Element of Political Economy* という本でした。これらには英国の思想が前提されています。また彼は Mill の *Utilitarianism* や *On Liberty* などを読んでいます。さらにまた、*Consideration on Representative Government* も読んでいます。従って、福沢はミルの功利主義を十分に理解していたと言えます。功利主義はすべての人を含んだ人類の幸福を求めます。この説は快楽の質と量、自由と平等、個性と社会性の発展という矛盾を含んでいますが、内容豊かな説です。ミルは『論理学体系』の中で立法家の視点と裁判官の視点を区別しました。ところで、福沢は19世紀の日本の独立という視点を人類の視点よりも重要であると考えました。この二つの視点をはっきり区別しながら19世紀の日本では「私の視点」が重要であると意識的に選んだのです。

西周は津和野藩の外科医の家に生まれまして、幼少の頃朱子学を学びましたが、

17歳の時荻生徂徠の書を読んで非常に感銘し観念論の朱子学から実証主義的な徂徠学へと転換しました。西が徂徠学を学んだことは、彼がミルを受容する上で極めて役に立ちました。西はミルの功利主義を明治10年に翻訳するほど丹念に読んだのであります。彼は功利主義を最大福祉を人生の最大目的とする最近の道徳上の一大変革であると言っています。彼はこうした考えに全面的には賛成しなかったのですが、これらを人間第一の最大の眼目として受け入れました。

彼の倫理学は明六雑誌に掲載された『人世三宝説』に説かれています。この説は、ミルの『論理学体系』を研究しまして、ミルの持っている矛盾を避けるような非常に独創的な考えを取っています。まず人生最大の目的が最大福祉であるということを受け入れます。そしてこのような最大福祉を受け入れるということは儒学的教養のあった彼にとっては易かったのであります。彼は『百一新論』の中で、孟子の言葉を引き、「人の世を宣しいが上に宣しくして、この民をして生を養い死を喪して一生涯安楽に暮らさせて死後にも憾みの無いようにしてやろうということは一致している」と述べています。そうして、こうした究極目的を達成するための媒介として第二等の眼目、健康(マメ)、知識(チエ)、富有(トミ)を立てます。これはミルではsecond ary principle に当たります。これらを達成しようとするのは天から受ける幸福の基本でありますから、個人個人の道徳の基本であると同時に、人間が仲間の人々と交わる時の基本、つまり社会道徳の基本、したがって政治道徳の基本であると考えます。西はこうした三つの宝を含んだ社会道徳の基本を次の規則で表現しています。「いやしくも他人の健康(知識、富有)を害することなかれ。しかし、助けて以て進達すべくは進達せよ」という規則です。ここに彼のオリジナルな考えがあります。「害することなかれ」というのは、苦痛や害悪を最小限におさえることを目的とする消極綱(消極的功利原理)を表します。後の方は自己の幸福を追求するという積極綱(積極的功利原理)を表します。さらに消極綱は次の二つに分かれます。第一は、自分の三禍鬼(疾病、愚痴、貧乏)を防ぐことです。西はこれを権利と言います。第二は、他人の三大宝を貴重し我の三悪魔(兇賊、詐欺、窃盗)を制することです。西はこれを義務と言いました。これら二つの権利と義務(彼は権義と言いますが)を満たす時に、人間全体の幸福の基礎が実現すると言います。このような消極的原理は、人間全体の幸福の最低限を満たすことであり、最大多数の最大幸福の必要条件であります。これらが満たされていないならば、どのような幸福も実現されません。しかしながら、消極的原理だけでは、まだ自己の幸福

が積極的に実現されているわけではありません。これを実現するのが最大多数の最大幸福の十分条件である積極的功利原理です。

西はこのように消極的原理と積極的原理とをわけまして、消極的功利原理をまず達成したうえで、「かの時に応じて、所に応じて積極的功利原理を実現出来るならプロモート (promote) すべきである」と、積極的功利原理を実現することを説いたのです。こうした積極的功利原理についての考えは、積極的功利原理の持つ理論的問題点を解決しています。積極的功利原理のもつ理論的問題点とは、もし積極的功利原理だけを適用していきますと、全体の幸福を満たすために少数者の幸福が排除されてしまうということです。今日でも、功利原理を批判する立場として、このようなことが言われます。西の功利主義では、全体のために個人の幸福が排除されるということは理論的には起こりません。

何故西が独創的であるかと言えば、西が明治7年に提案した上記の論がイギリス功利主義で問題になったのは、戦後のKarl Popperにおいてでした。ポッパーは『The Open Society and its Enemies』において、はじめて消極的功利主義の問題を論じました。ポッパーは、この本において、プラトンやマルクスは積極的功利主義の立場に立って全体のために少数者の幸福を無視してしまっている、と批判し、消極的功利主義を取らざるをえないと主張しました。ポッパーが主張して以来、イギリスでは消極的功利主義と積極的功利主義の論争が起きました。西は消極的功利主義を下にして、その上に積極的功利主義をのせる二階建の構造を考えまして、両者の主張を調停する論を建てたのです。我々もこの西の独創性を認めてもいいかと思えます。

次に、ミルは『論理学体系』の中で、立法家の見地と裁判官の見地を区別していますが、西もまたこのことを明治7年に「法と教」として論じています。しかしこれは必ずしもミルの影響と言うわけでもありません。この法と教の違いというのは、西が尊敬していました荻生徂徠が既に『弁道』の中で「大なるもの」「小なるもの」として論じていたものでした。「大なるもの」というのは法制節度のことを言い「小なるもの」というのは道徳のことを言います。西はこうした荻生徂徠などの考えを基にしてミルなどのこうした区別を理解していたのです。

(文責 都立田園調布高等学校 佐良土 茂)

## 現代日本の思想家としての大江健三郎

都立向島商業高等学校 渋谷 紀雄

### 1. 大江をとりあげたゆえん

都倫研第四回研究例会の公開授業をすることになり、例年3学期は日本の思想の授業をしているので、何をテーマとしてとりあげようかと考えていた10月中旬のこと、大江健三郎のノーベル文学賞受賞のニュースが入った。大江については、それ以前にも、科学者の倫理や、平和の思想などで教材としてとりあげられるのでは、と考えたこともあったので、この際、大江を近代日本の思想のしめくりとして、扱ってみようかと思った。ただ、現任校が商業高校であるということがあり、はたして生徒の関心をひくような授業がなりたつかどうかの点で、ためらいもあった。

しかし11月に沖縄へ修学旅行の引率でいくことになり、大江の「沖縄ノート」を読んでみたところ、自分の沖縄認識の浅さを反省させられ、さらに沖縄に実際に行って、その現実を実感として感じとり、また、幾つかの文献や資料をむこうで買ってきて読むことによって、沖縄問題だけをとってみても、大江の思想はとりあげるに値するのでは、と考えるに至ったのである。

さらに、大江の「ヒロシマ・ノート」を読み返してみると、そこには、決して単に反核兵器運動にとどまらない、ユマニズムの思想に貫かれていることに気付いた。そして、これに関連して、大江の「核の大火と『人間』の声」など数冊を読んでいくと、大江の思想の輪郭はほぼつかめてきた。そうしている内に、大江のノーベル賞受賞記念講演が12月7日、ストックホルムでなされたが、その内容は期待にたがわず、大江の思想の集約と言えるような内容であった。そこで、これを導入として授業を構成していけば、授業が成りたつという確信を得て、大江健三郎をテーマとする公開授業をすることを事務局に連絡したのは12月中旬だった。

### 2. 授業構成の主旨と反省

ノーベル賞受賞講演については、一寸分りにくいところもあったが、大江のいくつかの近著である評論などを読み合せてみることにより、その主旨は明らかになった。そこでこの講演の中のキー・ワードとして、ユマニズム、ディーセントな(上品な)人間、周縁的立場、という三つの語を考え、それぞれがどのようにして重視

されるに至ったかを、順次大江の体験に触れながら授業で展開していくことにした。

キー・ワードの第一の「ユマニズム」は、「ヒロシマ・ノート」でよく用いられている語であるが、大江の恩師である仏文学者の渡辺一夫から大江が継承した思想でもある。大江は、広島が多くの被爆者であるユマニストたちに出合いはげまされた、と述べている。彼らは、「絶望しすぎず、希望を持ちすぎずに」自分達にふりかかってきた悲惨な運命を引き受けつつ生き続けている。彼らの悲惨はその存在を世界の人々が認識し、核の悲惨が認識され、核廃絶が達成された時、初めて、人間的名誉を回復されるのだ、と大江は主張している。大江は、そのような広島の人々と同じように、日本人は、ユマニズムの立場に立って、運命を引き受けつつ、「絶望しすぎず、希望を持ちすぎず」、核のない世界実現にむかって生きていくべきではないか、と訴えているのだろう。米ソの冷戦体制がなくなった今では、生徒にこの問題を切実なこととして実感させられたかは自信がない。しかし、この点のみにしぼって、授業を構成するだけの価値もあるテーマではあると思う。

キー・ワード第二の「ディーセントな人間」とは、大江の長男との共生と関連する。大江が最初、広島をルボした時、彼は長男が知的障害を持って生まれてきたという悩みをかかえていた。広島で出会ったのが、原爆病院の重藤院長であり、彼によって大江は、「自分に振りかかってきたことは積極的に引き受けて生きる」という生き方を学ぶ。いいかえれば、弱者とともに生きるという「上品な生き方」があることに気付いた、とも言える。また、大江は成長した長男の作曲に、悲しみの表現を見出したが、その表現により長男が悲しみから回復している、とも感じたという。これは、大江が広島に被爆者たちに見出したことと重なっている。その点を、授業では光君の「広島のリクイエム」をきかせることで、生徒にも感じとらせたいと思った。しかしその意図がどれだけ成果があったかは分らない。

第三のキー・ワード、周縁的立場に立つ、というのは、大江が文化人類学の山口昌男の影響により、よく用いる語である。この見方を大江がとるきっかけは沖縄への旅での沖縄の人々との接触があった。沖縄を認識することで、彼はそれまでの東京中心志向の考え方から、故郷の森を根拠地とする周縁からの思考に転換した。この点でも、時間的に制約され、充分生徒には把握させられなかったようだ。

結局、この授業の前にみせた、「大江健三郎 — ノーベル賞の旅」のビデオの方が、生徒にはインパクトがあったようだ。しかし、来年までにはもっと熟考して、高校生向きの大江の授業を再構築してみたいと思っている。

## 「テーマ別討論中心学習」 9年目の現場から

都立南葛飾高等学校 飯島 みさ子

### 1. 「倫理」って

「ねえ先生、倫理って何なのさ？」どきりとする。私の最も苦手な質問なのだ。「倫理っていうのはね、生きていくのに必要なもので……」

なぜなのだろう。私が言葉で説明しようとするほど、生徒の耳には単なる音としてしか響いていかない。

「倫理」というものの本当の意味を、どうしたら生徒に伝えられるのだろう。倫理がどんなもので、どんなに大切なものかを、どうしたら生徒に実感させられるのだろう。学習していくうちに、「倫理ってこういうものだったんだ」と実感できる、そんな授業を私はずっとめざしてきたつもりだった。

### 2. 定時制の生徒にどんな授業がふさわしい？

前任校の白鷺高校定時制では、着任して2年目にカリキュラムが変わった。今から9年前になる。「倫理」は4年次の必修から、「情報処理」との選択に変わったが、講師との関係で2時間連続の時間割、コンピューターを避ける形で選択する生徒がほとんどだ。思想史にそっての講義では、とうてい生徒はついてこないだろう、何とかしなければと思った。

#### (1) 「討論(おしゃべり)」中心で

- ① 身近な問題からテーマを与え、思ったことを自由に書かせる。
- ② 回収したものを、一枚のプリントにまとめる。
- ③ 翌週、プリントを読みながら、思ったことを述べ合う。
- ④ 関連する思想・思想家を紹介する。(→新たなテーマを設定する。)

授業は2時間ある。おしゃべりの多い生徒たち。授業で好きなだけしゃべらせてしまおう。それが、きっかけだった。その際、生徒が事前に書いたものをプリントにしておく。教師が読んでいくと、生徒は思いつまま感じたままを言い合っていく。話が別の方向にそれていかなないようにだけ注意して、言いたいことはなるべく気がすむまでしゃべらせてやる。そのうちに、少しずつ内容が深まっていく。タイミングを見計らって、その日のテーマの核となっていた思想家や、その思想を紹介

する。同じテーマで話し合っているから、比較的スムーズに受け入れてくれる。

恥ずかしくて言えないようなことでも、文章には書ける！ 書くのが苦手な生徒には、決して無理強いはいしない。つたない文章でも、そこに込められた生徒の想いをくみとって、代わりに伝えてあげる。皆の書いたものを、皆で読みすすむ、という方法は、プリントをつくるのに手間はかかるけれど、思った以上の効果をあげたのである。

## (2) テーマがすべて

発表の時にもご指摘をいただいたが、テーマですべてが決まってしまう。

学期に二つの大きなテーマをとりあげるが、その中で、身近なものから高次のものへ、具体的なものから抽象的なものへ、少しずつテーマを高めていくよう、意識してテーマを設定する。例えば、「生と死」という大テーマでは、「自殺についてどう思うか」から書かせて、最後には「生きるとは」というレポートを書かせた。

初めは、誰にでも書ける身近なことをテーマにとりあげる。そのテーマから、討論がどう発展していくのか、こちらの予想どおりにいかないことも多い。話の流れを切ったり、止めたりしないようにテーマを設定するのが、いちばん難しい。

また、あらかじめこんな答えが返ってくるだろうと期待して出すテーマは、発展性に乏しいようである。教師自身も、判断に迷うような、つまり、善いか悪いかの判断の基準を、生徒自らが考えなければならないようなテーマがいいのであるが、それを選ぶのが、また、難しい。

## (3) 思想史をあきらめたわけではないけれど

基本的に、定期考査を区切りとして、年間に4つの大きなテーマをとりあげた。テーマの選び方、それぞれのテーマで取り扱う内容は、生徒の反応を見ながら、毎年少しずつ変えていった。

授業のはじめに、まず「死」「幸福」「自由」などのテーマが存在する。なるほど、倫理ってこんなことをするのかと、生徒は思うらしい。

「うそをつくのは悪いこと？」「悪しさ」

「じゃ、ガンの患者に『あなたはガンじゃない』と言う看護婦のうそも悪いこと？」

「悪くないよ」「それじゃ、悪いうそとそうでないうそがあるんだね」

そんな対話の後に、紹介されるカントの「善意志」には、説得力がある。

思想史の流れを無視するつもりなど毛頭ないが、テーマに関連する思想をあげていくとなれば、思想史の順序はバラバラになる。しかし、無理に思想史を詰め込も

うとして何も残せないよりは、「倫理」とは「生きることへの問いかけ」であり、思想や思想家を学ぶのはそれらの問題を説くヒントなのだという事を、何よりも分かってもらいたいと思う。

看護婦をしている生徒の患者の死に遭遇したときのレポートを読んだときは、生徒も私も胸を打たれた。一人の生徒の「自殺なんてしちゃいけないよね」の言葉に皆大きくなつた。皆生きていく上で大切な何かを学んだのだ。

#### (4) 評価もまた難しい問題

評価の対象にするのは、それぞれの時間のペーパー（50%）と、テーマの締めくくりに課すレポート（50%）である。ペーパーについては、取り組みの真剣さと内容の深まり、すなわち「どれだけ真剣に考えたか、どれだけ考えが深まったか」の2つの点（これは同時に、出席や授業態度の評価にもつながる）を評価する。レポートについては、さらに「授業で紹介した思想家やその思想が活かされているか」という点を加えた3点から評価する。

ただし、どうしても文章力、表現力のある生徒の評価が高くなりがちなので、特に注意しなければならない。

### 3. 今年度の取り組み

#### (1) 全日制の授業で効果があるか（3年選択の授業で）

異動1年目の南葛飾高校では、今年度、1年の必修倫理と3年の自由選択倫理を担当したが、この3年の自由選択で、「テーマ別討論中心学習」を実施した。定時制では生徒に好評で、自信をもって続けてきた方法であったから、少人数（今年度は23名）の選択の授業であれば、同じように進められるだろうと考えていたのである。

ところが、テーマを示して、書かせて、プリントにしたところまではよかったのだが、翌週私がプリントを読んでも、誰も何も言わない。「討論」どころか「おしゃべり」すらないのである。前任校では、多いときで18人（最も少ないときで4人）で、しかも1つのクラスが半分に分かれる選択授業で、気心の知れた仲間だけの授業であり、言いたいことも遠慮なく言える雰囲気や予め用意されていた。それに比べれば、この自由選択は、全クラスから23人が選択していて、自由に発言できる雰囲気ではなかったかもしれない。それに転任して来たばかりの教師にすぐに打ち解けるというのも無理なことだったのだ。結局、私がプリントを読み、私が感想を一人でしゃべりまくるといふ、とても寂しい「討論なし学習」になってしまった。こ

うして、確かな感触が得られないまま、1学期が終わってしまいました。

1学期の最後の授業で、「自然と人間と文明」というテーマのしめくくりとして、『風の谷のナウシカ』という映画を鑑賞させた。見たことがあるという生徒もいたが、「倫理の授業でいろいろ考えたから、違った見方ができた」と書いた生徒もいた。2学期になって、最初の授業でいきなり次のテーマ（幸福）にはいろいろとしたら、男子生徒の一人が、「先生、『ナウシカ』のプリントはくれないの？」と催促してきた。（実はつくってなかった）私は、このとき、南葛の生徒も、自分の書いた文章が、プリントになって、ワープロの活字になって戻ってくるのを、結構楽しみにしているんだということにやっと気が付いた。

そう思って生徒の書いたものを読んでみると、自分の思ったことを、正直に素直に書き表してくる生徒が実に多くなってきていた。2学期の「レポート名言集」は、その名のとおりの名言集になった。すべての授業が終わってから、生徒に出してもらった授業への感想は、おおむね、この授業を選んでよかった、倫理って大切なものだと分かった、というものであり、これまでとは違った形になってしまったけれども、それなりに意義はあったんだと、ほっと胸をなで下ろした。

## (2) 1年必修倫理はどうすればいいのか

1年次に「倫理」をおくカリキュラムにはつらいものがある。1年生に、思想の理解を要求するのは、酷である。必修40人のクラスだから「討論中心学習」というわけにもいかず、とりあえず、比較的理解しやすい思想の源流あたりを中心に進めてきた。とにかくわかりやすく、と奮闘しているに、生徒は、相変わらず「倫理って何？」と聞きにくる。

2月2日、例会での研究発表が終わった後、呼び止めてアドバイスして下さった先生がいた。「20人を越えたら、グループつくってやるしかないよ」「グループで討論させて、代表者に黒板に書かせて……」なるほど、そんなやり方もあったのか。帰りの電車の中、次々と、アイデアが浮かんでくる。1年生でも、やればできるかもしれない。「倫理って何か」がわかる授業が……。

平成6年度 自由選択「倫理」 授業内容

	テーマ	授業内容	考察・討論テーマ
1 学期	人間・自然・文明	バスカル「考える葦」 デカルト「考える自我」 「正しい知識を導く方法」 (『方法序説』から) ベーコン「知は力」 近代の自然観 (自然への支配) 近代の自然観への反省 自然との共存 (レイチェル・カーソン) 文明のこれから 『風の谷のナウシカ』(VTR)	①自然(自然現象を含む)と人間を比べたとき、どちらが優位にあると思うか? また、それはどんな理由によるか? どんなときにそう感じるか? ②「考える」とは具体的にどんなことか? 考えてみよう! ③この世の中で、絶対確実なもの(疑わしくない、まちがいないという積極的な意味合いで)とはなんだろうか? ④人間の「理性」を信じるか? 「理性」と「経験」ではどちらが確かなものだと思うか? ⑤自然の支配者となった人間は、自然や環境の破壊の上に文明を築き上げてきたといえる。自然と人間(文明)の共存は成り立たないのだろうか? ・『風の谷のナウシカ』をみて ・1学期レポート「人間の偉大さについて」 「人間と自然について」(自由を選択)
2 学期	幸福	幸福の定義 ベンサム「最大多数の最大幸福」 J・S・ミル「質的功利主義」 「不満足なソクラテス」 ソクラテスの死 三浦綾子『塩狩峠』 カント「我が内なる道徳律」 イエス「汝の敵を愛せよ」 釈迦「苦の克服と慈悲の心」 宮沢賢治『雨にモケケズ』 『銀河鉄道之夜』(VTR)	⑥あなたにとって「幸福」とはどんなものだと思うか。(どんなときに幸せだと感じるだろうか? どうすれば幸せになれるのだろうか? ほんとうの幸せって何なのか?) ⑦人間には、時として、「楽な道捨てて苦痛の道を選ぶこと」がある。それは、どのようなときだろうか? また、どうしてそのような行動をとれるのだろうか? ⑧仮に、無実の罪で逮捕され死刑の判決を受けてしまっていたときに、刑務所で火災が起き、脱走のチャンスが訪れたとしたらあなたはどんな行動をとるだろうか? ・『銀河鉄道之夜』をみて ・2学期レポート「幸福について」
3 学期	自由	自由のイメージ ルソー「社会的自由」と カント「内的自由」 サルトル「自由の刑」 自己決定権と他者危害の原理 自由と責任 (未来への責任、世代間倫理)	⑨人間にとって「自由」とは何だろうか? そのイメージなどを自由に述べよ。 ⑩近年日本では「ヘアード解禁」の傾向が高まっているが、「他人に迷惑をかけるな限り、個人の自由には任せるべきだ」という主張について、あなたはどう思うか? ・3学期レポート「"自由"について思うこと」

3学期は時数がきつめが少ないので、考察の⑨⑩は、2学期中に冊かせた。

# V 分科会報告

## 第一分科会報告

都立北園高等学校 町 田 紳

〔第1回〕

日 時 7月1日(金) 6:00~9:00

場 所 神楽坂エミール

テ ー マ 児童の権利(人権)と南北問題について

レポーター 町田 紳先生(北園高)

出席者 太田(新宿) 篠田(両国) 多田(小石川) 黒須(羽田)  
渡辺(練馬) 町田(北園)

現在、世界各地で、児童が搾取され、児童虐待等の児童の権利を剥奪する例が頻繁である。今や児童の権利(人権)を保護することは、緊要になっており、子供の権利条約も世界的に締結されている。私は、第三世界における児童の権利喪失を南北問題とからめ考えたい。第三世界で児童売春、ストリート・チルドレン、間引き、児童虐待、性的虐待の深刻さは顕著なものがある。その背景には、伝統的な農村の生産、生活様式がプランテーション、アグリビジネス等の資本の論理により破壊され、彼らが零細農民、小作人として生きていくことができず、家族の崩壊の惹起と共に労働力の給源として都市へ集積したという事実を無視できない。

子供たちは、南北問題の最大の犠牲者である。彼らも労働力を提供しなければ生きていけないのである。この子供たちの窮状を打破するために、コロンビアやインド等で子供による自治組織が創設された。そこでは、捨てられる危険のある子供が共同体にとって貴重なメンバーとなる草の根のイニシアチブの支援が重要視される。

子供たちが自分の身に起こったことから学び、本人が社会改革の担い手になるようにすることが重要であろう。子供たちが社会に対する批判の目を衰え、抑圧された階級からの解放をめざす存在になる必要があるであろう。南北問題を身近に子供に感じさせる例はないかという質問があった。日本人の生徒は日本人に生まれてよかった、ODAで援助すればよいという考えを持ちがちである。私はその答えとして、我々先進国側の人間に、貧困は避けられない、貧困の原因を当人の責任にする、誰か他の人が搾取される運命にある、不幸にも虐待され放置されたりする運命を持つ子供たちはいるものだという無意識な考えが存在するという事を挙げたい。

また、ボランティアで活躍する人々はカトリック的な考えを持たざるを得ないのか?子供たちが生長していく過程でどのような存在になるのか?という大変示唆的な質問もでた。また、家族論の立場から、母性を喪失した母親たちへの考察があった。私のレポートは、十分なものではなかったが論議は活発であった。

## 〔第2回〕

日 時 9月16日(金)午後6時

場 所 都立北園高校

テ ー マ 「缶の社会経済史」

報 告 者 多田 統一先生(都立小石川高校定時制)

参 加 者 水谷(大泉学園) 野村(大泉学園) 多田(小石川) 黒須(羽田)  
仲(小松川) 町田(北園)

今回は、多田先生により「缶の社会経済史」というテーマで発表して頂きました。

まず、缶の種類には、食缶、18リットル缶(塗料、化学・石油の缶など)、一般缶(茶缶、菓子缶など)がある。この様に缶が分類されていることに関心を持った。それから、缶の産業構造上の特色について発表があった。食缶は缶詰生産地域に立地され、独占資本によって生産されている。また、18リットル缶、一般缶は大都市とその近郊に立地されており、ユーザーや原材料問屋との関係が深く中小企業による小ロット生産が行われている。さて、製缶企業をめぐる最近の動向については、環境対応型のタルク缶の増産があり、環境装置メーカーにより空き缶リサイクル箱が発売され、リサイクル運動を町おこしに利用していることが述べられた。また、食品製造企業により資材の海外調達が行われている。しかし、アルミ板に低価格化の波が押し寄せ、メーカーの支配力が揺らいでいる。そして、輸入缶の利用により、川下の業者から川上の業者へのしわ寄せがあり、業界としては厳しい対応を迫られている。また、日・中・台・江蘇省によるブリキ合弁事業について缶詰製造企業のベトナムへの進出の実態について語られた。それだけでなく円高による途上国の追い上げでワシンの輸出用缶詰産地が不振であり、韓国からむきグリ等原材料が輸入され、中国からタケノコの缶詰等の製品輸入により産業の空洞化が起きていると述べられた。さて、指導案は大変興味深く、缶を通して地域の環境問題を見るという事がテーマであった。缶は、昔は貴重な物であり、遊びの道具、学用品かせぎに使われていたが今ではゴミ扱いだという指摘はおもしろかった。

そして、空き缶リサイクルへの行動については様々な意見が出た。果たして、リサイクルは道徳的であるが、本当に(経済的に)良いのかどうか。リサイクルの対象は大半が飲料缶詰であり、輸入品の方が安く、リサイクルは高くつく。また、リサイクル運動は意味があるのか。どうして、地域・学校・職場が企業のためにボランティアしなければならないのか。省資源リサイクルはコストがかかり、大手企業が中小企業を排除してきた。最後に、リサイクルにおいて誰がコスト負担をするかという事に関して議論がされた。缶という身近な存在から社会経済がグローバルに見れた事は大変勉強になった。

〔第3回〕

日 時 10月21日(金)午後6時30分

場 所 都立北園高校

テ ー マ 「島しょ社会の地域と家族—東京都青ヶ島の調査結果について—」

報 告 者 黒須 伸之先生(都立羽田高校)

参 加 者 水谷(大泉学園) 渡辺(練馬) 黒須(羽田) 町田(北園)

まず、青ヶ島のスライドを見せて頂き、この島の地誌・生活・文化・産業・慣習等について興味深い話があった。青ヶ島は日本で最も小さな地方自治体であり、人口は200人前後である。天明の噴火で半世紀無人の状態であったが、その後、他島からもどってきて再び人が住むようになったということである。この様な人口の実態に際し、青年をいかに地元に着定させるかが重要な関心事であるが、青年層の意識と行動様式で、「土着家族」の青年の職業生活は「自営業者型」「被雇用型」と「親依存型」に分けられる。一度離島し再び帰島した青年の生活パターンは以下の3類型であり、「外社会不適応型」「後継ぎ型」「老後生活型」が挙げられる。得てして、人間関係は困難である。島の高齢化は深刻な問題であるが、高齢者世帯を分類すると①「多世代同居世帯型」②「多世代同敷地居住型」③「高齢者夫婦型」④「高齢者内縁型」⑤「高齢者単身世帯型」の5類型になるが、①は青ヶ島の文化になじまず、②が最も幸せな世帯であり、④では本土から来て住む事を望む人と男手が必要な人が出会う機会が多いことが特色でこの島では性的関係がフリーで儒教思想が薄いのではという話があった。また、老人ホームはこの島ではなじみがないということである。さて、「家族」文化についてであるが、「家」意識は希薄であるが、「タネ」意識があるとされる。つまり、それぞれ、「腕が強い」等の「タネ」に備わっている能力が継承されていると信じられている。さて、その他様々な興味深い話があったが、江戸時代に大量殺人をした浅ノ助はおそろしいものだからこの荒魂を鎮めるための最高神として祭っているということである。そしてこの島においては、祖霊信仰が強く、古神道の影響が強く、アニミズム・シャーマニズム的なものが混じりけがなく続いているのではないかとこの事である。その他に、この島は失業対策事業で、10億円が都から出ており道路建設に使われており、建設関係で来た人は、内地よりも日当がかなりよいということである。現地でのフィールドワークをもとにした発表だけあって追真に満ちていた。

〔第4回〕

日 時 2月4日(土) 4:00~6:00

場 所 江北高等学校

テ ー マ 地方政治について考える

レポーター 上村 肇先生

出席者 渡辺(練馬) 黒須(羽田) 上村(江北) 町田(北園)

まず、「地方議員の研究」日本経済新聞社を簡潔にまとめられた。地方議員への誘因として権力・社会的威信・報酬があり、小さな市町村と大都市ではその誘因が異なる。また、議員のタイプには、名望家型・利益代弁型・政党従属型・キャッチオール型に分けられる。そして、大都市で相乗り首長が現われるが、これは四方八方の利権がからみ、政党の行政監視機能がなくなるという指摘があった。相乗りをするのは、利害の分け前を得ようとする行為であり、当選すれば与党としての立場に立てるという利点がある。根回しについてだが、これは、議会事前手続きでありどう評価するかそのポイントとして、利害の調整・統合機能はプラスに評価できるが議会の形式化、公開性を失うというマイナス面がある事が挙げられた。

議員の代表行動として代理型に近くなるのは都市、組織政党であり他は信託型になりやすいという意見があった。以上は、テキストに基づいた内容であるが、上村先生は、日本の地方政治を考える上での貴重な提言がなされた。地方政治についての学習でねらいとするものとして地方自治の理念とルールだけでなく公民的資質として地域の問題を解決していく道筋を学ぶ必要がある。高校生の学習レディネスに関連して、学校周辺にはほとんどの生徒は住んでいないので地域調査のような方法で個別化を図っていくのがよいという考察なされた。高校生は地域の「夜間人口」である。マスコミ報道での地方政治の扱いが小さいので政治過程がわからない。教師は必ずしも学区内に住んでいない、ドロドロした政治文化についての経験が少ない場合によっては利害当事者の生徒がいるという提言がなされた。このようなことから典型的な事例をあげ解決への手順などを学んで自分たちの問題についても考えられるようにしていくことが必要とされる。具体的に地域のことを言ってもしっくりこないのが、アナロジーで地域のことを考えさせた方がよいということである。

地方政治の学習のこれからの課題としては、直接請求という形だけでなくノーマルな過程での地方政治の政治過程について学習を深め、地方財政について具体的に個別的に学び、国政との共通点・相違点を意識する事が重要であるという提言がされた。

## 第2分科会報告

都立南野高等学校 功刀 幸彦

今年度の第2分科会は「高校生の自己形成を促す倫理思想の指導の研究」という研究主題を設定しました。代々木高校の西尾理先生、町田工業高校の福田誠司先生に世話人をお引き受けいただき、お蔭様で充実した活動にすることが出来たように思います。第1回から第5回までの研究報告を以下の通りさせていただきます。

第1回 日時：7月1日(金)午後6時～9時 場所：神楽坂エミール

テーマ：「現代フランス文学と哲学」 報告者：古澤英樹先生(広尾高校)

テキスト：『フライデーあるいは太平洋の冥海』M. トゥルニエ(岩波書店)

出席者：紺野(正則) 行方(正則) 西尾(代々木) 古澤(広尾)

水谷(大泉学園) 渡辺(練馬) 功刀(南野)

アラデミー・フランセーズ小説大賞受賞作品をテキストにした第1回の例会であった。「新寓話派」とも評されるトゥルニエの手法によって、よく知られている話が様々な象徴や言葉を介して変貌させられ、くつがえされて現代的な意味をもつ物語となって蘇る。ここではダニエル・デュフォーの『ロビンソン・クルーソー』が哲学的な物語となって提示される。表題の「フライデー」というのはロビンソンの従者の名前だ。現代哲学で考えると太平洋の孤島にたったひとりて漂着するというクルーソーの設定は〈他者の不在〉という認識論的な状況なのだ。自己の認識の確実性を保証する構造としての他者の不在がクルーソーのありかた自体も変化させる。フライデーもここでは従者として現れず、認識論的には対等の立場を獲得する。クルーソーを島に残して船に乗って去って行くのも彼なのである！ こうしてクルーソーは「太平洋の冥海」にとり残される。「冥海」それは認識を保証するもののない「天国と地獄の間に宙ぶらりんになっている場所」なのだ。ヘーゲルの「主人と奴隷の弁証法」とのかかわりや、サルトルやラカンにまで話が展開され、エミールを出てからの論議も初回から白熱したものとなった。

第2回 日時：9月1日(木)午後6時～9時 場所：神楽坂エミール

テーマ：「人間と機械」 報告者：渡辺安則先生(練馬高校)

テキスト：『われはロボット』I. アシモフ(早川書房)

出席者：紺野(正則) 行方(正則) 西尾(代々木) 水谷(大泉学園)

渡辺(練馬) 功刀(南野)

沃野というのだろうか？ 哲学や倫理の問題とこれだけ近いところで題材がとられ、あるいはストーリーが展開されている。SFというのがこんなにも養分を含ん

だフィールドなのだということであらためて思い知らされた気がした。それにしても、この作品が突きつけてくる問題は深い。「我思う、ゆえに……」という作品ではデカルトばりの思考能力をもったロボットが登場する。はたして彼を人間は論駁することができるのだろうか？ いつの間にか我々は、K・ゲーデルの「不完全性原理」の提示する問題と同様の問いに直面させられている事に気付くのである。問題提起されて来る事柄を渡辺先生が短い文章に要約し、それを我々に矢継ぎ早に問われる。「何が、人間を他の存在と区別する要因であるのか？」「人間の諸能力はすべて化学的・工学的過程に還元できるのか？」「人間の『人格』はどこに根拠を持つのか？」「『完全な人間』と『人間性を完璧にプログラムされて完全に機能しているロボット』とはどこがどう違うことになるのか？」。次から次へと繰り出される先生の質問に軽いめまいを覚えながらも真剣に考えさせられてしまった。「ロボット」という題材が人間を考える場合の一種の理念計として機能していたためだろうか？ なるほどエキサイティングな分科会であった。

第3回 日時：10月28日(金)午後6時～9時 場所：モノリス29

テーマ：「プロレスと哲学」 報告者：行方 毅先生（正則高校）

テキスト：ロラン・バルト『神話作用』（現代思潮社）

村松友規『合本 私プロレスの味方です』筑摩書房

出席者：葦名（富士） 紺野（正則） 西尾（代々木） 水谷（大泉学園）

渡辺（練馬） 功刀（南野）

いろいろな事が重なって、ともかくあつという間に終わってしまった2時間半だった。時間が早く過ぎていってしまうのが惜しかった。こんなに楽しい時間が数時間でおしまいになってしまうのなんて。9時が近づくと時計の長針が12にせまっていくながら恨めしかった。きっかけは間違いなく行方先生のみずみずしい発表であつたろう。バルトの基本概念をきちんと押さえた上での、「レスルする世界」の解説。横浜アリーナで行われたというアメリカのレスリングのリーフレットが回覧されている。毒々しい色のコスチュームを纏った悪役レスラーの写りが視界に入ってくる。人間は意味生成を絶え間なく行っていく動物。「神話作用」とはそこで繰りかえされる「意味生成」の記号学。そして「プロレス」はあらかじめ予想されているシナリオに従って展開される見世物なのだ。悪役は悪役として期待されている身振りをしなければならぬ。「そうなんですよ！ だから馬場の試合を見に行つて、16もんが出なかつたら観客は『何をやっているんだ』ということになる」……『週

刊プロレス』のバックナンバーをばらばらとめくりながら西尾先生が続けられる。だから「逆に猪木が客に予想していない動作をすると『あの動作には意味があったのだろうか』とマニアの間では話題になる」。プロレスは「神話作用」そのもの。見るものに「テキストの快楽」をもたらす。「聖書もそのようなものだという問題意識もあるのでしょうかね」今度は紺野先生が問いを投げかけられる。そうしてひとしきり議論が続く。そういえば会話が特定の人に向かって集中して行かない。集まっていたいた方々がそれぞれに答えをつなげ、話が展開する。そして話題が変わっていくのに、そこに何かの方向性が見え隠れしてくる。「岡義達さんの『政治学』という本は大変高度な内容を盛っているということになっていますけれど、あれは早い時期から政治を一種の象徴作用として捉えた本でしたね」。「岩波新書の青版ですね」。葦名先生の感慨に、すかさず西尾先生が言葉をつぐ…… 現在の政治状況について水谷先生が、渡辺先生がそのように捉えられる例を挙げられる。僕はただただ唸るばかりだ。原典の用語を駆使しながらもプロレスを語り、政治や哲学、そして神学や文化論にまで話が及んでいく。いろんな事が有機的なつながりをもって話されていく。パルトの魔術にかけられたのか、こんこんと湧き出る泉のほとりで、汲めども尽きない湧き水に喉を潤している。そんな分科会となった。

第4回 日時：12月9日(金)午後2時～5時 場所：神楽坂エミール

テーマ：「少数派のゆくえ」 報告者：功刀幸彦（南野高校）

テキスト：岡義達『政治』（岩波書店）

出席者：葦名（富士） 西尾（代々木） 水谷（大泉学園） 渡辺（練馬）  
功刀（南野）

たよりなげに始まった今回の例会の雰囲気が一変したのは、葦名先生が20代で作られたというプリントや資料を持って座につかれてからだ。あらかじめ配られていたレジュメにも、テキストである『政治』の様々な概念がそれなりにまとめられてはいたのだけれど、どこか迂遠な感じが拭えなかった。「学生時代、この本の話になると普段かなり出来ると思われている友達でも口をつぐんでしまった」。「書かれている内容が大変に抽象度が高いということなのでしょうね。言葉が分かっただけでは解らない。具体的な政治の動きがそこから想像できなければ本当には分かってこないんです」と、おっしゃられた葦名先生の言葉からも想像出来るだろう。岩波「新書」の筈のテキストに報告者としては情けなくも四苦八苦していたのであった。政治を「シンボル」の操作として捉えたテキストの立場は当時から斬新で卓

越したものであったろう。草名先生はこういった立場を日本ではじめて紹介した京極純一の著作や論文を引きながら本の意味をひとつひとつ汲みとり、掬い上げて行くのだった。そしてこのたいへん高度であろう内容を先生は具体的な事例で肉付けしながら授業用のプリントにまでおろしてられたのである。いろんな角度から質問を發しながらようやく内容を解説していく作業は非常に密度の高い充実したものであった。都倫研の財産は「人」だという話がある。先輩の先生方から学ぶものは多い。そして僕らはそれを受け継がなければならない。そのためにも先輩の先生方の話をうかがえる機会が必要なのだろう。そのことを思い知らされた今回の例会であった。想像力が不足していると言われた僕らの世代の空白部分を先輩の方々の実体験で埋めていくということだろうか。

第5回 日時：2月10日(金)午後6時～9時 場所：中央大学駿河台記念館

テーマ：「学級制の陥穽—（反学校）・（非学校）批判—」

報告者：西尾 理先生（代々木高校）

テキスト：諏訪哲二『反動的』（宝島社）

出席者：古賀（千代田女学園） 紺野（正則） 佐良士（田園調布）

西尾（代々木） 原田（清瀬） 渡辺（練馬） 功刀（南野）

知らず知らずのうちに口を閉じてしまうようになって来ているのかも知れない。それに比較すると西尾先生の切り口は鮮烈である。感じた事、体験した事を自分なりに概念化して提出して見せること。原典ともいえる教育学上の「古典」の読み込みや研究、それと自分の概念や論理立てとの両方を鳥瞰しながら、独自の立論を鍛え上げて行くというやり方。そのどちらにしても最近忘れがちになっているものを呼び戻してくれるチャレンジングな発表であった。「まごびき」になってしまうのだけど、花咲卓平氏の『解放の哲学を求めて』（有斐閣）の最初の章にてあったか？ 京都大学の浅田彰氏がある所で「僕らはパッチワークのような事を志向しているんだ」というような意味の事を言っていて花咲氏は「パッチワーク」という言葉に目から鱗の思いがしたという事をもらしていた。しかし「パッチワーク」にばかりかまけていて自分を取り囲んでいるそう大きくはないだろうシステムの改善を発想する事すら忘れがちになっていることに慄然とする思いがあった。原田先生や西尾先生に生活指導の方法の研究についての最新の潮流を解説していただきながら、様々な展開する議論を今回も楽しむことが出来たように思う。

## 第3分科会報告

都立田無高等学校 宮澤 眞 二

### ◎ 第1回 研究会報告

日時 6月17日(金) 場所：大妻中野女子高校  
報告者 及川良一先生(都立白鷗高校)  
テーマ 『青年期からソクラテスへ』  
参加者 水谷(大泉学園) 泉谷(蒲田) 広末(北野)  
千葉(大妻中野) 仲(小松川) 渡辺(練馬)  
諸権(大妻中野) 原田(清瀬) 増渕(千歳)  
吉野(学芸大付属) 宮澤(田無)

公民科「倫理」が今年度より実施されるにあたって、第3分科会は公民科「倫理」の実際の授業案をもとに研究を行っていくこととした。

第1回目は、白鷗高校の及川先生より、青年期学習をどのように人間としての自覚へとつなげていくかという主旨の発表をしていただいた。勤務校の概説、実際の授業計画、授業内容、生徒のレポート、定期考査問題、これまでの問題点等詳細にわたるレジュメを用意して下さった。

まず、公民科「倫理」の指導の観点としては、「年間を通して、生徒にとって「自己をみつめる」機会となるように心がけている」とのことであった。また、「できるだけ原典を読ませる」ことを心がけておられるそうである。

「青年期～ソクラテス」を学習するねらいは、「青年期」において、「自己をみつめる」ことの出発点である「自我」の存在に目を向けさせ、「汝自身を知れ」という言葉の意味にしたがって、自分自身を振り返ったとき、そこにどのような自分が浮かぶ上がってくるかをまとめさせることにある。つまり、「青年期」学習においてまとめた「自己をみつめる」ということを、ソクラテスの探求にのっとって行わせようということが、ここでのねらいである。

「青年の自己形成」で尾崎豊の『卒業』『僕が僕であるために』を、「ソクラテスの生涯と思想」で『ソクラテスの弁明』『クリトン』を上記のねらいが生かせるように、それぞれ資料として活用した。

その結果、実際に授業を展開してみて、まず、尾崎豊の歌では、「本当の自分」という歌詞を手がかりに、「アイデンティティ」の問題を考えさせようとした。彼の歌に共感する生徒が確かに多かったが、それは必ずしも圧倒的ではなく、むしろ

批判的にとらえている生徒が意外に多かった。このことをどうとらえるべきなのか。次に、「汝自身を知れ」という観点から書かせたレポートは、尾崎豊のレポートとの関連性をみたとき、必ずしも指導のねらいが活着しているとは言い難い。最後に、ソクラテスの生き方や思想から「自己を見つめ直す」というねらいは、指導方法の工夫という問題があろうが、生徒が自らの問題として受け止めたかどうか心もとない面があった。という以上3点の報告があった。

参加者からは、教師の教材に対する姿勢で、生徒の反応も変わってくるのではないかと、ソクラテスの生き方や思想から「自己をみつめる」ことをねらいとするならば、彼の「問答法」を活川することも有効ではないかと、といった指摘がされた。また、多くの先生が「青年期」学習において、尾崎豊を取り上げていることを述べておられた。

さらに、及川先生からは、実践を踏まえたうえでの公民科「倫理」の指導上の課題が報告された。このことについて先生は以下の4点を指摘された。

- ① 「青年期」学習をいかに「人間としての自覚」につなげるか。
- ② 先哲学習と思想史学習の組み合わせをどのように工夫するか。
- ③ 先哲学習から再び「自己」へかえることの必要性。
- ④ 「倫理」をどのように終わらせるか。

上記の4点をめぐって、参加された先生方の中で活発な議論が展開された。全てがわれわれが直面している重要な問題であり、多くの先生方から学校の実状を踏まえた具体的に貴重な意見が数多く出され、有意義な分科会となった。残念なのは、時間があまりにも足りなかったことである。

## ◎ 第2回 研究会

日時 9月16日(金) 場所：芸術劇場小会議室  
報告者 原田 健 先生(清瀬)  
テーマ 『フィールドワークの可能性』  
参加者 泉谷(蒲田) 渡辺(練馬) 増渕(千歳)  
宮澤(田無)

原田先生より清瀬高校で創立以来20年にわたって行なわれてきた「地域研究」(「地理」「現代社会」)の指導方法を報告していただきたい。

清瀬高校では、1年生全員を対象にした地域研究を行なってきた。2学期の文化

祭後に生徒に概要を説明し、男女4人の班を編成させる。その後、図書室で班ごとに、研究テーマや研究対象、研究内容、研究方法などを決めさせる。図書室には、それまでに地域研究で作成したすべてのレポート、公報、地域に関する統計や新聞記事が保存されており、生徒はそれらを参考にすることができる。教員は班ごとに指導を行ない、調査地域が決まったら、依頼書と質問事項を作成させる。2学期の中間考査中、社会科の全教員で生徒が調査に行く機関や会社に挨拶回りをする。調査は2年生の修学旅行期間中に1日とり、事前に作成した行動計画表をもとに調査する。結果はレポートにまとめさせて、各班20分で授業で発表させる。約2か月をかける一大イベントである。

先生はこの地域研究は、「社会に働きかけるという体験を通して、様々なものを身につけることができる」と同時に、あるいはそれ以上に、「仲間づくり(生活指導)」としての意味の重要性を指摘された。高度に完成されたマニュアルには、参加者一同ただ驚異の溜息のみで、伝統の重みを改めて感じさせられた。

しかし、この地域研究は現在行なわれていない。理由は、まずレポートの質が低下してきてしまったこと、つぎにフィールドワークを通じた交流を生徒が嫌がりはじめたこと、最後に地域研究が前年度までの焼きまわしになってしまい、新しい創造的なものが出なくなってしまうこと、などだそうである。

また、先生は別のフィールドワークの実践例として、和光高校の例を報告して下さった。

和光高校では2年生全員を対象とした、3泊4日の「研究旅行」を実施している。これは2年次に履修する「選択講座」の中で、つまり授業の一環として行なっている。「郷土史」「化石発掘」「現代美術の旅」「原発・基地問題」など、12の講座が用意されていて、最大定員30人で少ない講座だと5人の講座もある。授業の最大のヤマは研究旅行にあるが、そこに至るまでには講義式の授業が必要である。しかし、一斉の形態はとらずに6人構成の班をつくらせ、講義の中で絶えず生徒に質問し、その質問に対して班単位で考えさせ、討論させる機会をつくっている。さらに班ごとに研究テーマを選ばせ、研究方法や研究旅行の行き先などを決定させる。また、この講座は5・6時間目に設定されているため、研究旅行だけでなく、日常的にフィールドワークを取入れることができる。

以上ふたつの学校の実践例をもとに、フィールドワークの手法を「倫理」(広い意味では学校教育)にどのように活かすべきか、次のような提言をされた。

### ① クラスの生徒数減と指導上の課題

学級定員が少なくなれば、よりきめ細かい指導ができるはずである。ところが、習熟度や選択授業などで一学級の生徒数が減ることによって、学習活動に活気がなくなってきたことも指摘できる。生徒数が少なくなれば、それだけ従来とは異なった指導方法が求められる。ゲーム感覚を取り入れたり、作業学習をふやすなど、積極的に雰囲気をつくっていく必要がある。

### ② 進路指導上の課題

高校生の進路が多様化している現在、自分が何に向いているかつかめない生徒が多い。従来の進路指導は「進学指導」や「就社指導」といった側面がなかったとはいえない。生徒自身が自分のことを見つめ、社会の中で自分をどのように生かしていくかということを3年間で組織的計画的に行なう必要がある。その際、フィールドワークは非常に重要な手法であると考えられる。

### ③ フィールドワークの課題

生徒が調査研究し発表した後、それをどのように彼らの血肉とさせることができたかを、検証することは非常に困難である。労多く益少なし、という場合も多いかもしれない。しかし、フィールドワークには、教室内では味わえない魅力があることは確かであり、進路指導と連携しながら行なう方法を検討してみたい。

先生御自身の実践に基づいた報告は、フィールドワークの困難さと重要性をまさに実感させる貴重な報告であった。

## ◎ 第3回 研究会

日時 10月24日(月) 場所：神楽坂エミール  
報告者 楠本達治先生(大妻中野)  
テーマ 『障害者問題を考える』—デモンストレーションを通して—  
参加者 諸橋(大妻中野) 千葉(大妻中野) 原田(清瀬)  
水谷(大泉学園) 渡辺(練馬) 宮澤(田無)

今回は楠本先生(大妻中野)より、障害者問題についての授業実践例を報告していただいた。

まず障害者問題の歴史的経緯についての説明がなされた後、先生自身は、「障害児に特殊教育を施すことも重要であるが、同時に健常児に、障害者の問題を考えさせることも重要である」と考え授業で実践されているとのことであった。

授業の中では、「倫理」では導入（人間が人間として生きていくことの意味）として、「政治経済」においては基本的人権（平等権）学習として位置付けている。

実際の授業では、まず障害の種類について生徒とともに考え、そのなかから以下の三つについて、デモンストレーションを通して取り扱っている。

### ① 視覚障害、② 聴覚障害、③ 運動障害

視覚障害については、教室の真ん中を開けて空間をつくり、生徒にアイマスクを着けさせて後ろから前に歩かせる。終了後、もう一度後ろまで戻らせ、今度は最初とは違う場所に机を配置し、前まで歩かせる。大変な場合は級友に声で誘導してあげるよう指示する。このデモンストレーションを通して生徒には、視覚障害者の情報源は何か一主に聴覚と触覚、定位置の重要性→決まった場所に決まったものがないと非常に困難を強いられる、ということを理解させる。そして、このことをふまえ、視聴覚障害者の生活を助ける補助具や工夫点を生徒に挙げさせる。

聴覚障害については、生徒2人を無作為に指名し、一切声を出さずにある内容を相手に伝えるよう指示する。このデモンストレーションを通して生徒には、聴覚障害者のコミュニケーションの手段について考えさせる。

運動障害については、運動障害の内容というより、車椅子の介護の仕方に重点をおきデモンストレーションを行なう。これによって車椅子を使用している障害者の心理を理解させる。

以上デモンストレーションを通して、障害者問題を疑似体験することによって、生徒に身近な問題として意識させる。そして、障害者問題について次のようにまとめられた。

従来の「障害」観は、人間を障害者と非障害者＝健常者に区分する考え方が支配的であった。しかし、最近では障害を「機能的障害」「能力的障害」「社会的障害」の3つのレベルに分ける考え方が提唱されている（三段階説）。

「機能的障害」…… 医療の対象となるもの。視覚・聴覚・運動・知能障害、内臓疾患などの病理学的障害。日本でのこれまでの障害の概念は、主としてこれ。

「能力的障害」…… 種々の機能的障害があるからといって、そのまま知的・情緒的・社会的諸能力に障害を受けているとはいえない。たとえばヘレン・ケラー。機能的障害を能力的障害に転化するかどうかは、教育やリハビリテーションなど、社会の側の問題である。

「社会的障害」…… 能力的には発達していても社会がその人々を受け入れるか

どうかという問題がある。すべての人間と平等の権利を持つ仲間としての生活を可能にするための条件がなければ、そこに大きな障害が立ちはたかる。人間の意識、建物や街路などが、障害者を締め出すようになっているとすれば、社会が「障害」をつくりだしていることになる。

とくに三番目の社会的障害は、われわれが作り出している障害である。逆にいえば、われわれ自身で取り除くことも出来るのである。このことをしっかり認識することが、障害者問題を考える出発点となる。

デモンストレーションを通して具体的な現象から授業を展開する方法は、抽象的になりがちな題材を、より身近な問題として生徒に考えさせることができる。先生の発表を伺っていて、生徒の実感を大切にしようとする姿勢に大いに啓発された。また、後の議論のなかで、「医療が発達すると障害者が増える」という、一見矛盾しているように思えるテーゼには、妙に考えさせられた。

#### ◎第4回 研究会

日 時	12月9日(金)	場所	神楽坂エミール
報告者	鈴木 一郎 先生(北野)		
テーマ	『社会と幸福』 — 功利主義の倫理観 —		
テキスト	「公民科「倫理」「現代社会」教材化の研究(東京書籍)		
参加者	泉谷(蒲田) 原田(清瀬) 佐良土(田園調布) 増渕(千歳) 廣末(北野) 宮澤(田無)		

#### 功利主義への私なりの紹介状

— 学問的には邪道だが、少しでも生徒をわかった気にさせる一方法論 —

先生が用意されたレジュメにはこのように書かれていた。功利主義を扱う際の基本的姿勢は、「各個人の幸福と社会全体の幸福は可能な限り調和することが望ましいが、現実の両者は必ずしも調和しない。そんな不調和の傾向性は、現代ではますます深刻なように思う。真に調和のとれた幸福について、それを追究する人間としての在り方生き方について、生徒に考えさせたい。」とのことであった。

そこでまず導入で、先生はさだまさしの歌「HAPPY BIRTHDAY」と宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』を、それぞれ利用されている。

前者では、「HAPPY」「おめでとう」といった日常的な言葉や、「幸せなんて

言葉もあるが人それぞれに秤が違う」などの歌詞を手がかりに、また、後者からは、「みんなの幸」「ほんとうのさいわい」「みんなのほんとうのさいわい」という頻繁に出てくる言葉に注目させて、功利主義の幸福論に目を向けさせる。

その後、ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』とミルの『功利主義論』を読ませ、両者に共通するキーワードを発見させる。「快楽・個人の幸福・社会（他人）の幸福」といったキーワードから、功利主義とは、「個人の幸福と社会の幸福の調和を善とする倫理観」であることを理解させる。さらにベンサムの「快楽や幸福を数量的にのみ扱い、質的な差異で論じない」点と、ミルの「快楽が減っても幸福が増える場合があり、快楽や幸福に質的な差異を認める」点との両者の相違点についても、生徒に読み取らせる必要がある。両者のこの違いは、その歴史的背景、すなわちベンサムは近代資本主義経済社会の興隆期に生き、ミルはその社会体制が矛盾（たとえば労働問題など）を露呈してきた時期に活躍したという点にあることが指摘された。

まとめとして、功利主義とは産業革命期のイギリスで、個人主義的傾向への警鐘として登場した思想（倫理観）である。技術革新を背景とした物質文明の中で個人主義的傾向に陥りがちな現代人にも、決して他人ごとではなく、彼らの主張に謙虚に耳を傾ける必要があるのではないかと述べられた。

参加者からは、授業で功利主義をとりあげることがほとんどない、あるいは稀であるといった発言が多かった。主たる理由は、「功利主義」という語感からくる、日本人独特のアレルギーがあるのではないか、他の西洋思想と比較して英米思想に対する軽視の態度、といった指摘がなされた。

しかし、今回先生の発表を伺って、「倫理」で扱う「功利主義」「プラグマティズム」といった英米思想は、われわれの日常生活の身近なところに基盤をおいていることを、改めて実感させられた。個人と社会との関わりを考えていくうえで、再度「功利主義」の思考態度をわれわれは再評価する必要があるのではないか、そんな印象を持った分科会である。

## ◎第5回 研究会

日 時 2月21日(火) 場所：都立赤羽商業  
報告者 三森和哉先生(赤羽商業)  
テーマ 『日本の仏教』 — 禅宗、日蓮宗 —

テキスト 公民科「倫理」「現代社会」教材の研究（東京書籍）

参加者 小山（千代田女学館） 古賀（千代田女学館）

渡辺（練馬） 宮澤（田無）

まず先生より、「倫理」の授業に対する基本姿勢が示された。先生は、「わかりやすくするためになる授業」を心がけておられ、年間を通じて4つの主題、「真」（本当のことを知る）・「善」（幸せとはよい人生）・「美」（感じることを考えてみよう）・「聖」（人の心の深いところ。宗教）に基づいて授業を展開されておられる。

「聖」を扱う視点は、①人間の有限性（困った、にっちもさっちもいかないときどうするか。それでも人生は続く）、②個別と普遍との出会い（たとえば私と親鸞との出会い）においている。

とくに日本の仏教を扱う視点は、以下のことが重要である。

まずわれわれ日本人の文化における仏教の重要さに気が付かせる。その際、日常語になった仏教語や食品・美術などを導入として使用する。全体としてのポイントは、①仏教が外来文化、とくに中国仏教である点、②その仏教は大乗仏教の日本語として受容・深化されていったこと、③大乗性としてとくに日本では現実指向が強く、真俗の区別をこえた平等性と利他性の重視があげられ、④受容の態度として情緒的傾向が強いことが指摘できる。

中世仏教改革の特徴は、一般に①易行②専修③選択④明確な教理だといわれる。乱世に苦しむすべての人々を救おうとする大乗性（衆生済度）の追究と日本化が要である。

以上の点を指摘されたいうえで、詳細なレジュメをもとに、道元と日蓮について授業の展開例を報告して下さった。先生御自身、行を實踐しており、その実践に裏打ちされた発表は、迫りに満ちあふれていた。また、生徒のレポートを見ると、時代背景を正確に捉えたいうえで、賢愚・身分をこえて生きている人間のよりよい生き方の指標を示し、仏教を日本人一人一人の生の信仰にしようとした彼らの意気込みがリアルに伝わってくるものが多かった。先生の授業の真摯さを垣間見る思いがした。

貴重な実践報告をして下さったレポーターの先生方に、この場をおかりして改めてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

## Ⅵ 特集 「公民科『倫理』『現代社会』の教材化の工夫」

### local government の学習

都立江北高等学校 上村 肇

#### 1. 本稿のねらい

地方自治は「民主主義の学校」であり、公民的資質の育成には重要な意義を持つ学習内容である。(local governmentは、通例、地方自治と訳されるので、以下は地方自治という語を使用する) 公民的資質の育成という観点からみて、どのような学習をすすめていくことが望ましいかについて、私見を述べていきたい。

#### 2. 学習のねらいの設定

地方自治についての学習で、公民的資質を高めていくことを考えると、次の諸点が学習のねらいとして設定できるだろう。

- (1) 地方自治の基本的な理念について理解する
- (2) 地方自治に関連する法律や制度について理解する
- (3) 生活する地域の問題を地方自治のしくみのなかで解決していく方法を学び、地域での生活の向上を図る態度と能力を育成する

従来、「政治・経済」の学習では(1)と(2)に、「現代社会」の学習では(3)にウエイトがかかる傾向がみられた。ねらいを全体として達成していくにはどのように取り組んだらよいだろうか。

各学校の科目履修のパターンは多様になってきているので、本稿では科目を限定せず、地方自治に関する指導で大切と思われる点について述べたい。

#### 3. 学習の個別化をはかる

学区制をとっているとはいえ、生徒の居住地は都心から都県境までひろがっていて一様ではない。「地域」という言葉から学区内のどこかの地域を取り上げるとしても、必ずしも生徒自身が住んでいる地域になるわけではない。また、生徒は地域の「夜間人口」であり、昼間の状況には詳しくなく、マスコミからの情報も、国政に比べると格段に少なくなる。

生徒が主体的に学習するために、自分の住んでいる地域の問題をそれぞれが探究するように、学習を個別化していくことがひとつの方法として考えられる。地域調査は、科目としては地理に関連の深い分野であるが、学校の教育課程のなかでどこ

かの科目で実施できれば有意義と考える。

#### 4. 典型的な事例からの学習

学習の個別化と並行して、普遍的な意義を持つ学習として、地方自治におけるさまざまな問題解決の手法についての学習が必要である。これは、生徒の居住地に共通する問題に関連して学ぶこともできるが、生徒の予備知識に疎密があるといへにくくなる。そこで、典型的な事例を全国から求めて学習し、それを生徒が自分の地域の問題に応用していくことができるように配慮して展開していくことも考えられよう。成功例の他に、暗礁に乗り上げている事例なども取り上げて、さまざまな実態について学べると意義が深まるだろう。

#### 5. 制度に対する認識を深めるために

動的な内容と同時に、制度についても理解を深めていくことが大切である。私は次の3つの点について配慮していくことが大切と考える。

- (1) 地方自治の大部分の内容はルーティンワークであると想定される。争点として浮上するのはごく少数の問題である。(クローズアップされるので強く印象に残る)したがって、通常の状態での政治過程について認識を深めていくことも大切であると考え。直接請求は地方自治に特有の重要な制度であるが、これを生かしていくためには、政治過程についての深い認識が前提になるはずである。
- (2) 自分の住んでいる地域の地方公共団体の財政について具体的に考えることが大切である。地方交付税の制度の問題点を指摘することは大切だが、不交付の富裕団体の住民であれば、どこからの歳入でまかなっているかをつかんでいることも必要であろう。
- (3) 首長制と議院内閣制のように、地方自治の制度は国政とは多くの相違点をもっている。同質的な点と相違点を意識して指導していくことが大切であると思われる。

#### 6. 教材の紹介

今年度は地理A(1年生)及び地理(2年生)を担当した。学区全体にかかわる教材として①学区を縦断する鉄道新線(常磐新線、日暮里・舎人線)、②学区を貫流する荒川(放水路)、を取り上げた。

○ 網田幸恵「荒川放水路物語」新草出版、1990年

小学校教員を退職した著者が長年の古老からの聞き書きをまとめている。

# 障害者問題を考える

—授業実践報告・デモンストレーションを通して—

大妻中野女子高等学校 楠本達治

この報告は、昨年10月に筆者が東京都倫理研究会の第三分科会で発表させて頂いたものを、少し手を加え、書き直したものである。

## 1 はじめに

過去を振り返ってみると、中世的な共同社会がくずれ、近代的な市民社会の成立は、個人の身分制度からの解放をもたらした。しかし、このことは、一方では、障害者問題の成立でもあった。地域共同体の崩壊に伴って、それまでは、そこで保護・扶養されていた身よりのない病人、老人、孤児、障害者たちが路頭に迷うようになった。そこで、これらの人々のための収容施設（ホスピタル）が各地に設立された。ロンドンのベドラム院、パリのピセートル院などがある。

こうしたホスピタルには貧困、病気、高齢、障害等によって自立できない人々が「収容」された。しかし洋の東西を問わず、こうした人々は、労働能力のない人たちであるとレッテルをはられ、人並み以下の処遇を受けるという時代が始まった。ここに「障害者」というカテゴリーの成立がある。

「障害者」というカテゴリーが成立したと同時に、教育界にも変化が見られた。つまり、盲学校・聾学校・養護学校の発展である。障害者でも教育の力によって、その能力をのばすことができることが実証され、社会が適切な福祉と教育を用意する必要に迫られたわけだ。

各種の学校で、障害の種類に合わせた指導が続けられてきたが、最近では、学校を卒業した後のことを考え、インテグレーション（統合教育）という考え方が、叫ばれるようになってきた。障害を持った子どもでも、普通学校に通い、健常児と交流をすることによって、社会性を高めようというのがそのねらいである。

こうした背景を踏まえ、筆者は、障害児に特殊教育を施すことも重要であるが、同時に健常児に、障害者の問題を考えさせることも重要であると考えている。

そこで今回は、普通高等学校に於いて、障害者の問題を少しでもわかってもらおうと授業に取り組んだ次第である。以下にその手順を示す。

## Ⅱ 授業実践報告

準備したもの：アイマスク

車椅子（事前の中野区役所障害福祉課より借りた）

別紙添のプリント2枚

導入：倫理……人間が生きていく上で

政経……憲法の平等権を考える上で、共同生活をしていくかけだから障害者問題を考えることは重要なことである。（生徒に言う）

最初に、障害の種類を生徒に発問し、答えさせる。→視覚障害・聴覚障害・運動障害（肢体不自由）・知能障害（精神発達遅滞）・行動情緒障害・内臓疾患などの病理学的障害があることを確認。

その後、「今回の授業では、視覚障害・聴覚障害・運動障害を取りあげる。」と生徒に伝える。

### 視覚障害について

#### —デモンストレーションの内容—

8列ある机の真ん中をあけて、空間を作るように指示し、生徒を無作為に当て、アイマスクをつけてもらい教室の1番後ろに立ってもらう。よく前をみて、教室の前方にある教卓まで歩いてきてもらう（図1-1参照）。終了後、もう一度一番後ろまで行き、アイマスクをつけて待機。今度は近くの生徒に3回体を回してもらう。その間に教員は、さっきとは違う位置に机を置く。そして先ほどと同じ要領で教卓までたどりつくように指示（図1-2参照）。大変な場合は、級友に声で誘導してあげるように指示。

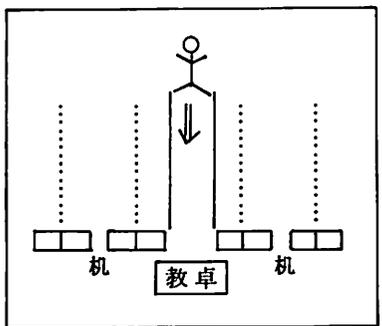


図1-1

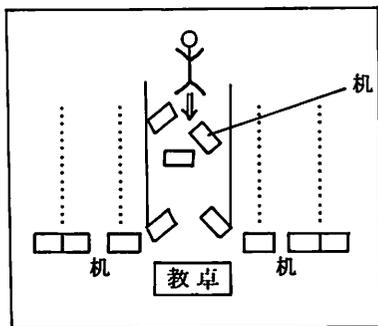


図1-2

デモンストレーションを通して生徒に理解させたかったことは、次の2点である。

①視覚障害者の情報源は何か。→主に聴覚（音声）と触覚である。

②定位置の重要性→決まった場所に決まったものがないと、非常に困難を強いられる。

情報源が聴覚と触覚であることを充分認識した上で、今度は視覚障害者の生活を助ける補助具や工夫点について考察した。補助具あるいは工夫点を生徒に挙げてもらう。

生徒からは次のような答えが出された。

点字・杖・お金（紙幣）のぼっち・駅のホームなどの黄色いポツポツ・ジャンプ・リンスの区別のための出っ張り・テレホンカード・ラジオ・電話の5のボタンに付いているぼっち・横断歩道の音楽・盲導犬・メガネなど。

これらの補助具の多くは、普通、視覚から得られる情報を触覚や聴覚を利用しての情報に変えていることを確認した。

例えば、目で見ても、「あ、今信号が青だから道路を渡ろう」（視覚的に情報を得ている）の代わりに、「あ、音楽が流れている。青なんだ、（と判断して）道路を渡ろう」（聴覚的に情報を得ている）。

余談：その他の補助具として、「オプタコン」というものがあり、それがどのようなものかを説明した。

### 聴覚障害について

#### —デモンストレーションの内容—

生徒2人を無作為に当て、前に出てきてもらう。一切声を出さずに「外は雨が降っているし、最近じめじめしてて天気が悪いね。」という内容を1人がもう1人に伝えるように指示する。だいたい生徒は、身ぶり手振りで伝えようとする。そこで「もっと簡単に紙に書けば」とアドバイスをする。

生徒は「ずるいよ、そんなの」といいながら、席に戻っていく。

聴覚障害者のコミュニケーションの手段としては、デモンストレーションを通して、何があるかを考える。

手話・指文字・セスチャー・筆談・空書・口話法・補聴器を使つての聴覚利用などがある。

さらに、口話法と手話を合わせたコミュニケーション方法が主流であることを説明。なぜかという、口話法だけでは、限界がある。(→例：たばこ・たまご) 実際に声を出さずに、口を開けるだけにして「たばこ」「たまご」と言うと口形が同じであることがわかる。教員が前で、「どちらかを言うから当ててごらん」と言うと特に、後部座席の生徒には当てにくいようだ。そこで、たばこ・たまごの手話を付ければコミュニケーションがスムーズにいくことが分かる。

また、聴覚障害者は外見だけでは、障害をおっていることがなかなかわからないので、それが理由で苦勞していることもある。→偏見・誤解につながりやすい。

例えば、全員ではないにしても、視覚障害者は白い杖を持っていたり、運動障害者は車椅子に乗っていたりと、外見から障害を判断し易いが、聴覚障害者の場合それがわかり難いので、後ろから呼ばれても気がつかないのに、それをあいつは無視をしている、というような誤解を受けやすいのである。

聴覚障害者のコミュニケーションの手段のうち、指文字と手話を取り上げ、実習を行った。

まず、指文字の長所と短所を説明(手話との比較で)。

長所：50音全て表せる。どんな日本語でも必ず表せる。

短所：電報的で、感情が伝わらない。意味もつかみにくい。

→例文「昨日、友人と一緒に富士山に登った。」指文字・手話の両方で表してみせる。

指文字は、固有名詞やどうしても手話で表せない表現の時だけに使用するよう説明してから、実際の練習に入った。その時に語源も一緒に説明した。

最後に数人に前に出てきてもらい、「私の名前は○○○○です。よろしくお願ひします。」という文章を表してもらった。

### 運動障害について

#### —デモンストレーションの内容—

運動障害については、運動障害の内容というよりも、車椅子の介護の仕方に重点をおき、デモンストレーションを行った。生徒を無作為に当て、車椅子に乗るように指示(その際、必ずブレーキがかかっていることを確認することを注意する)。机の配置などを適当に変えて車椅子での移動の困難さを実感させる。

次に介護するとき大切なこととして、「乗っている人に恐怖心を与えないこと」

「乗っている人の恐怖心を除去する」を説明する。これができるれば介護の80％は成功したようなものである。

そして基本的な介護の方法（必ずブレーキを確認してから車椅子に乗せること・片手で車椅子を押さえながらブレーキを解除することなど）を説明した。さらに、実際介護をしていて、どういう場面で乗っている人が恐怖心を抱くか、その場面を想定し、恐怖心を与えないためにはどうしたらよいかを検討した。→想定場面：下り坂・駅のホーム、階段。

下り坂では、乗っている人が前に転がり落ちそうな恐怖心を抱く。→反対向きに坂を降りることによって恐怖心を除去することができる（図2-1参照）。

駅などでは、押しての介護ができないことが多い。そのときにどうしても車椅子を持ち上げることになるが、人数を考え、安定した形で介護を行わないと、落ちてしまうのではないかと不安にかられることになる。

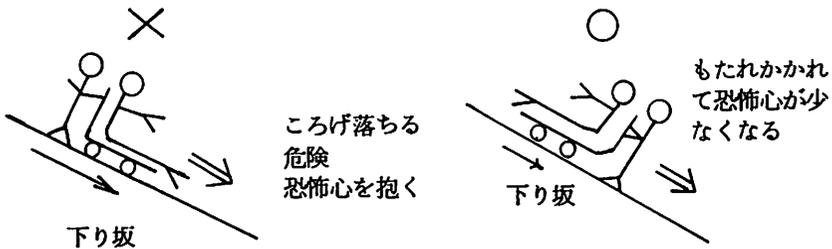


図 2 - 1

### Ⅲ 発表者が伝えなかった一番大切な内容

生徒に対する授業では「まとめ」と称して以下の内容を説明した。以下の内容が自分がいちばん生徒に伝えなかったことである。

#### 一 「障害」の3つのレベル

一般に「障害」者といえば、「精神」や身体の機能に「障害=不自由」をもつ人々のことであるとされている。教育関係に携わる人は、出生前ないし出生後早期にそのような状態に陥った人々を指して障害者という場合が多いので、一般的にもそのように思われている。しかし、現実には、病気や事故などで、人生の中途になんらかの障害を負うようになった人々も「障害者」と呼ばれることになる。

こうした障害者ということばの使い方は、一度障害をもつと一生の間、その障害が持続するということと、精神や身体の機能の1つに障害を受けていても、その人全体を障害を持つ人、障害者と呼ぶことになっている。つまり、人間を障害者と非障害者=健常者に区分する考え方になっている。

こうした「障害」観に対して、1970年代に入って、障害を3つのレベルに分ける考えが、主としてリハビリテーションの領域から提唱されてきた。すなわち、「機能的障害」「能力的障害」「社会的障害」の三段階説である（添付資料参照）。

まず、障害の第一のレベルは「機能的障害」である。これは、視覚障害、聴覚障害、運動障害（肢体不自由）、知能障害（精神発達遅滞）、内臓疾患などの病理学的障害にあたるものである。これは、いかば医療の対象となるものであるが、日本でのこれまでの「障害」の概念は、このレベルのものであったといえる。

次は、「能力的障害」のレベルである。種々の機能障害があるからといって、そのまま、知的、情緒的、社会的諸能力に障害を受けているとはいえない。ヘレン・ケラーの例がよく示しているように、その人にあった適切な働きかけとその人の努力によって、人並み以上に人間としての能力を発揮している例は決して少なくない。すなわち、機能的障害を能力的障害に転化するかどうかは教育やリハビリテーションなど社会の側の問題である。

最後に、「社会的障害」のレベルがある。教育やリハビリテーションによって能力的には発達しても、社会がその人々を受け入れるかどうかという問題がある。すべての人間と平等の権利をもつ仲間としての生活を可能にするための条件がなければ、そこに大きな障害が立ちふさがることになる。人間の意識、建物や街路などが障害者を閉め出すようになっているとすれば、まさに、社会が「障害」を作り出していることになる。

障害者の福祉と教育の問題は、医療による機能的障害の治療と軽減、教育とリハビリテーションによる能力障害の克服を経て、社会全体の努力による社会的障害の除去の段階にある。

特に、3つ目の社会的障害は、我々が作り出している障害である。逆に言えば、我々自身で取り除くこともできるのである。このことをしっかり認識することが、障害者問題を考える出発点となる。そこで、先程のデモンストレーションに戻り、車椅子を使って社会的障害について考えてみた。机を視覚障害者のデモンストレーションの時のように、配置してもらい、そこを車椅子で移動する。机をわざとずら

して置き、移動を困難にする状況を作り出した。そして例えば、この机が実生活のなかでいえば、放置自転車などにあたると説明し、まさしくこれが社会的障害の一例であることを説明した。

生徒が社会的障害ということをし少しでも意識し、身近にある社会的障害を少しでも無くすための行動を起こしてくれたら自分としては万々歳である（例えば、この授業を聞いた後に、駅前に自転車を放置しなくなったなど）。

#### Ⅳ 生徒の反応

授業後に行ったアンケートによると、特に視覚障害者の大変さを改めて実感したという感想が多かった。ふだん何気なく得ている情報の多くは視覚からものが圧倒的に多いことを改めて実感したということになるだろう。また、「障害」と言っても種類が有ることをはじめて知ったという感想も多かった。

反対に、自分が障害者に成らない限り、障害者の気持ちなんてわからない。と感想を寄せた生徒も何人かいた。確かに一理ある意見だと思う。

#### Ⅴ 添付資料

- ①今回の授業に関する試験問題（平成6年度2学期中間考査）
- ②授業で用いたプリント2枚

お読みになった先生方で資料が必要な方は

〒164 中野区上高田2-3-7 TEL 03-3389-7211

大妻中野女子高校内：楠本達治宛にご連絡頂ければ、お送りいたします。

## ソフォクレス『オイディプス王』

### 「自己探求」教材化の試み

筑波大学附属高等学校 斉藤 規

遠藤周作の『海と毒薬』が生徒に読まれよく感想文が提出される。米軍攻撃隊捕虜にたいする生体実験を中心とした話だが、表題の「海」は神や良心を意味し、「毒薬」は人間の罪悪を示しているのだろうか。人間どう生きていくのかという問題は、深刻なものであり、生徒も強い関心を持っている。「倫理」の授業ではよりよい教材を生徒に示し、ともに考えていきたい。今改訂で、本校でも公民科倫理が始まる。これまで選択科目として実施してきた「成果」が生きればと願っている。

さて、2年次の「倫理」では、学期前半に先哲の思想を学ぶとともに「人間性の理解」を深めたい。教材の1つはソフォクレス「オイディプス王」。これを読みながら、古代ギリシア悲劇での人間観をみたい。次にプラトン「ソクラテスの弁明」を読み、オルフェウス教での人間の見方を考える。前者をディオニュソス的だというなら、後者はアポロンの的といえようか。さらに3つめとしてキリスト教での人間理解として「ヨブ記」または「マタイ伝」を読みたいと思っている。2単位授業という制約もあり、原典全文が読めるわけではないが、やはり古典中の古典なので、一度は触れさせてみたい。ダイジェストでも倫理教材は充分生徒を引き付ける魅力をそれぞれが持っていることにつねに感謝している。教材の内容の深さが指導内容をこえることがあるが、それが「倫理」の特徴であり、「倫理」の素晴らしさはそこにあるといえる。

I 「オイディプス王」については学習指導要領の解説書にも言及があり、そこでは芸術を通して人生の深みを考えさせたいとしている。授業としてはいまつぎのような段取りを考えている。

1. 古典に触れさせることを目標に、全文を読ませたい。場合によってはジョリッフ『ギリシア悲劇物語』（白水社）のダイジェスト版を利用。

2. 読後感のまとめ。項目としてはつぎのものを準備。

ア どの場面が印象的か、出し合いなさい。

イ デルフォイの神託のような「人知を超えたもの」の有無について意見を出し合いなさい。

ウ つぎの人物について意見をまとめなさい。盲目の老人テイレスias。妻で

あり母であるイオカステ。腫れた足のオイディプス。

エ その後のオイディプスについて考えなさい。

オ 「悲劇」とはどのようなものか考えなさい。

項目全部に答えさせなくともよい。1つ以上と指示を与える。

3. つぎにパネラーを選び、ディスカッション。様々な読みがあることを確認。

4. まとめ

Ⅱ ソフォクレスの作品を読んで、その「まとめ」が必要かどうか悩むところだが、生徒の読後感が整理される程度に行えばよいと思う。だが、生徒にとってオイディプスはどのように写るだろうか。

第1はオイディプスをはじめて知る生徒である。生徒は素直に演劇(ミステリー)として鑑賞するだろう。進行に合わせてさまざまな仕掛けや伏線が読み解れていくさまはなんとも読み応えがある。一例をあげれば、オイディプスの名前である。フランスの神話学者ヴェルナンは、スフィンクスの謎において問題とされた「2本足」「3本足」「4本足」は、ギリシア語でそれぞれ「ディプス」「トリプス」「テトラプス」という語に相当し、このうち「ディプス」(2本足)という語はオイディプス自身の名前に含まれているといっている。だから「それは人間だ」といって自分を指さしたとき、オイディプスは同時に大人と子供と老人を兼ねた自分を指さしたのである。その後はそれを展開させたものであるという。また、山に捨てられたことで動物、4本足の獣性を持つ存在になり、その後のオイディプスの生き方はここに決まったという説もある。

生徒のもう1つの立場は、ストーリーを知っている場合である。かれらは、オイディプスの1つ1つの状況への対応が悲劇に連なっていくことを見いだすだろう。スフィンクスの謎を解いたオイディプスはテーバイの王となる。ところがそこに悪病が蔓延する。かれはデルフォイに神託をきいてくるよう命じる。この場面1つとってみても、オイディプスが悲劇へとつき進んでいることがわかる。悪病がひろがっているとき、為政者の行動はどうあるべきか。デルフォイに使いをやり神託を聞くことは選択肢の1つではあっても、それがすべてではない。例えば、医師が多数必要なはずだから、他のポリスに依頼するなり、むやみに外出するななどの命令を出したり、飲料水に十分な配慮をしたりなど、選択肢は多数ある。この中でかれが神託より、より適切な指示を選んでいたら悲劇は避けられたのではないだろうか。

悲劇への階段はオイディプスの台詞にも見ることができる。オイディプスが先生ライオスを殺した者の名をテイレスiasにいわせる。するとテイレスiasは、オイディプスに「それはあなただ」と衝撃的なことをいう。覚えのない先生殺害を指摘されるという強烈な発言にたいして、オイディプスは、テイレスiasがこんなことをいうのは、王位を狙うクレオンにそそのかされたせいだなどと語る。テイレスiasの単純明快さに対して、オイディプスの反応は複雑で読者は混乱する。語られている内容より、オイディプスは語り手の動機に注目していくのである。こうしたかれの反応を中心とした対話の組立てが悲劇を創り出していく。ストーリーを知っている生徒は、オイディプスが悲劇へと進む言動の観察を楽しむのに違いない。

また、役割分担から劇を楽しむこともできる。オイディプスが強大な運命の力に押し流されていく存在だとすれば、テイレスiasはその悲劇を予知する者である。前者を「人」とすれば、後者は「天」。となればイオカステが「地」の役割である。妻であり母のイオカステはあくまでも優しく、大地的抱擁力を持つ女性である。生徒のなかにはオイディプスの行動以上に、イオカステの心情に注目する生徒がいるだろう。3者の動きに注目することでの新発見があるかも知れない。「オイディプス王」は、さまざまな読み方を可能にする教材材だと思う。

フロイトやユング、レヴィニストロスやドゥルーズに触れながら、ソクラテスに向けて授業を終えよう。オイディプス王の悲劇は、『コロノスのオイディプス』『アンチゴネー』へと続く。悲劇は重なり、オイディプスの子どもたちはもちろん、アンチゴネーの婚約者であったクレオンの息子ハイモンまでが死を選ぶ。テーバイ王となったクレオンは『アンチゴネー』の最後に嘆く。

「愚かなる男を、どこぞへ連れ去ってくれ。息子よ、わしはそちを、また、それなる妃よ、そなたをも、こころならずも死なしめた。憐れむべきかな……………」

コロス(合唱)はいう。「よき思慮こそ、幸せの要諦なり。神々に向かってゆめ不敬の振舞いあるべからず。心奢りて大言壮語をもてあそべは、神罰痛し、恐ろし。かくて年齢を重ねてぞ、思慮するすべを教えらるる。」(『ギリシア悲劇全集3』岩波書店)思慮ある言動が悲劇を避ける。悲劇は神話的な解釈をするかぎり、繰り返されてしまう。哲学が人間の理想を実現するのである。「吟味しない人生は生きるに値しない」といったソクラテスも「悲劇的な」刑死を遂げたが、それは運命にもてあそばれたオイディプスとは異なり、知の不十分さであったことを生徒とともに確認したいと思っている。

# 功利主義への私なりの紹介状

— 学問的には邪道でも、少しでも  
生徒を分かった気にさせる一方法論 —

都立北野高等学校校定時制 鈴木 一郎

## ◎はじめに

「倫理」「現代社会」の科目に限らないわけだが、とにかく教師たる者は、授業時間中は生徒に能動的に考えさせたいとか、授業時間内だけで生きた内容を理解させたいとか、夢と理想を欲張って追い求めて、創意工夫と試行錯誤を積み重ねて悪戦苦闘してみても、乗り越えられない限界に突き当たってしまう場合が多い。時として授業は、生徒たちにとって受動的にしてかつ苦痛にしか過ぎず、寒々とした教室には、死んだ内容の羅列が累累と横たわっていたりする。

いっそのこと、明治以来の黒板を使った講義形式の画一的な一斉授業であろうとも、話術の巧みな咄家が落語を一気に聞かせるように、生徒たちの注意を引き付けられたなら、たとえ受動的であろうが、内容が定着しまいが、そうした授業は意味があるのではと思う。さらに、生徒と教師との間の質疑応答が、あたかも漫才師のボケとソッコミの体裁を成し、教室全体がノリに乗って笑い声に包まれたなら、そんな授業こそが貴重なのではと思う。

生徒たちから「先生の授業は難しくて分からなかったけれど、面白かった」と言われるような教師になれば、私は本望ではあるが、それでも夢と希望を完全に捨て去っていいわけではない。教師の端くれとして、少しでも生徒を分かった気にさせる方法論を開発するために、時間と労力を惜しむべきではないだろう。

さて、「イギリス功利主義」について、私は専門家ではないが、私ならこんなふうに紹介するという授業展開例を『公民科「倫理」「現代社会」教材化の研究』に執筆させて頂いた。その際に触れられなかった補足説明について書くようにと、今度は『紀要』の場を提供して下さった関係の先生方には、重ね重ね感謝の念に耐えない。以下、反面教師の一助となれば、幸甚至極である。

## ◎功利主義は幸福論である

「功利」とは、「幸福(=快楽)の達成に役立つもの」であり、「功利主義」とは、「個人の幸福と社会(=最大多数)の幸福との調和を善とする倫理観」であると定義できよう。ベンサムおよびL. S. ミルの原典日本語訳資料を読み取る際にも、

「個人の幸福」「社会・他人の幸福」およびそれぞれの同義語が、押さえるべき重要なキーワードとなる。『学習指導要領解説（公民編）』に目を通すと、功利主義については、「自己実現と幸福」の理念に絡めて扱うように読み取れる。したがって、授業計画の上では功利主義を数多ある幸福論の中の一つの考え方として取り上げる視点が、教育効果を高めるためにも要求されよう。

### ●幸福を意味する言葉

「幸福」を意味する英語に「ハッピー」がある。「ハッピー・ニュー・イヤー」「ハッピー・バースディ」などの「ハッピー」を、再び日本語に直せば、「新年おめでとう」「誕生日おめでとう」などの「おめでとう」にならうか。祝いごとが行われて「おめでとう」の言葉を交わし合える日常は、「幸福」な人生と言えよう。生命の危険が無く豊かな商品に囲まれ何不自由のない生活は、客観的に見て不幸な状態ではないから、相対的な意味での「幸福」であるには違いない。

しかし、そんな世にありふれた「幸福」だけで、すべての現代人は満足し切っているはいない。もっと絶対的な意味での「幸福」の境地を目指して、諸宗教に心の拠り所を求める若者男女は少なくないと聞く。授業において功利主義や幸福論を取り上げる際には、必然的に「真の幸福」「本当の幸い」とは何か、その有無等について、生徒たちに問い掛け考えさせることにならう。

### ●『銀河鉄道の夜』を導入に使う

駅頭でいきなり「幸福と健康に興味はありませんか？」と呼び止められた経験を持つ人は多い。余りにも突拍子もなくて、余りにも直接的すぎて、嫌悪感が先に立つのが普通であろう。授業において功利主義や幸福論を取り上げる際にも、生徒への動機付けにはその点の配慮を怠りなく、少しでも自然な形で、少しでも間接的な形で、生徒たちを授業の世界へと誘い込みたいものだ。

そこで、読んではいなくても題名ぐらいは知っていよう、宮澤賢治の代表的童話の一つである『銀河鉄道の夜』の一節を、授業の導入に使ってみてはどうか。この作品は、「本当の幸い」を求めて、貧しい孤独な少年が夢の中で親友と銀河空間へと旅立つ物語である。授業計画に時間的余裕が許されるのなら、107分のアニメビデオを50分程度に端折って、生徒たちに観せてもよいだろう。とても幻想的で美しい映像は、女子生徒の一部辺りから喜ばれること請け合いである。

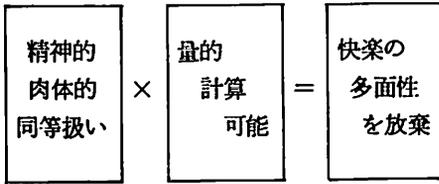
〔参考ビデオ〕1985作品『銀河鉄道の夜』〈朝日ビデオ文庫〉朝日新聞社 ¥ 3,800

〔参考文献〕村瀬学『「銀河鉄道の夜」とは何か〈新装版〉大和書房 ¥ 1,800

●量的功利主義と質的功利主義の図式的説明

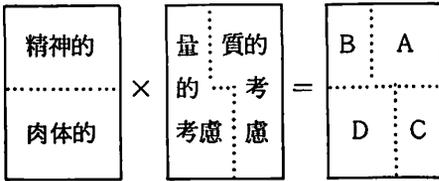
限られた授業時間内で、ベンサムと J. S. ミルとの思想的立場の違いを、明確に生徒の前に示したいと思えば、たとえ学問的には邪道でも、図式的説明を用いると便利である。とりわけ、J. S. ミルがとらえる快楽を、「肉体的快楽＝量的快楽」対「精神的快楽＝質的快楽」という二分割ではなく、四分割で説明したいような場合には、一目瞭然にして有効である。

●ある行為に伴う快楽の一面性（ベンサムの量的功利主義の図式的説明）



※社会を個人の単なる集合とみなし、  
「7つの客観的？基準」＝{強度、  
持続度、確実度、遠近度、多産性、  
純粋性、範囲}によって、どんな  
快楽でも量的に計算可能と考えた。

●ある行為に伴う快楽の多面性（J. S. ミルの質的功利主義の図式的説明）



例「御馳走を食べる」に伴う諸快楽。

- A：時に贅沢ができたという満足
- B：腹八分目に抑えたという満足
- C：身体中が温まったという満足
- D：空腹が満たされたという満足

※（低級な肉体的快楽を求め量的に）満足した豚「馬鹿」であるよりも、むしろ  
（高級な精神的快楽を求め質的に）不満足な人間「ソクラテス」がよいとした。

●最後に、幸福の分類《私案》(①～⑥のうち複数の型を兼ねる幸福もありうる)

- 「自己実現」型（能力の発揮が幸福）：アリストテレスの観想的生活…①  
（個人の幸福として、  
心の平安を求める）：エピクロス学派の快楽主義…②
- 「快楽満足」型（個人の幸福を集め、  
社会の幸福とする）：ベンサムの量的功利主義…③  
（個人の幸福を捨て、  
社会の幸福を図る）：J. S. ミルの質的功利主義…④
- 「快楽放棄」型（個人の幸福として、  
心の不動を求める）：ストア学派の禁欲主義…⑤
- 「不幸対比」型（相対的意味の幸福）：快楽主義の逆説が  
結果的に導く幸福…⑥

# 通学路清掃と

カント、ベンサム、J・S・ミル

都立片倉高等学校 難波伸一

## 1. はじめに

カンの投げ捨て、タバコの投げ捨て、一体これはなんなんだ！ポイ捨てる人間にまともな倫理観はあるのか！そんなことを考えているときに『哲学ってなんだろう』（御厨良一著、エール出版社、昭和63年）と『哲学が好きになる本』（同上、1991年）を読んだ。これだ！と思った。担任のクラスでそのころ（平成5年度）現代社会を教えていた（専門は世界史）。よし、通学路清掃と（これらの本による）先哲の教えとで人間としての在り方生き方について考えさせよう、目の前の生徒たちの倫理観だけでも育てようと思った。以上がこの授業を思い立った動機である。

## 2. 授業展開

〈1時限目〉……水曜日5時限目L・H・Rの時間を活用（現代社会の時間と交換）

(1) 導入……通学路清掃について説明。①経路……片倉高校～片倉駅（絹の道ルート）②班の役割分担……3つの班がカン、2つの班が燃えるゴミ、1つの班が燃えないゴミを担当。③各自にビニール袋とカナバサミを一つずつ渡す。

(2) 展開……通学路清掃実施。①通学時間徒歩15～20分の道路を清掃。②一杯になったゴミ袋はリヤカーにのせる。

(3) まとめ…清掃後の活動。①全員に感想文を書くことについて話す（600字詰め原稿用紙8割以上）。②片倉駅で解散。帰校する生徒とともにゴミ袋・道具のっているリヤカーを引いて学校へ帰る。ゴミ袋は所定の位置に置かせる。道具は返却。※翌日放課後、各班代表1名ずつ計6名がアルミカンとスチールカンを分別。アルミカンは売却。得た金は生徒会に渡し募金などの一部にもらう。

〈2時限目〉

(1) 導入……通学路清掃について講評し生徒たちをねぎらう。

(2) 展開……感想文を書かせる。

(3) まとめ…①「人間と倫理・予習課題プリント」を配布し宿題とする。倫理、良心、人格、カントの仮言命法、定言命法、功利主義の哲学者2人の名などを教科書で調べさせる。②ホスピス（ロンドン）の末期患者に関するプリントを配布し、

感想文を宿題として課す。出典は『豊かなイギリス人』（黒岩徹著、中公新書、1984年、p. 134～p. 141）。「……人生は自分のためにあるとする個人主義の強いイギリスで、死を前にした人が感じる意義ある行為とは、なんらかの形で他者に尽くすことだった……」という文がある。この後いくつかの実例が続く。

〈3～4時限目〉

(1) 導入……「君たちはつぎのように考えたことはありませんか。私をとりまく世界は一体どのようなものなのか。その中で私はいかに生きるべきか」と言う。

(2) 展開1……ホスピスのプリントを使って生きるということについて班討議。①班ごとにまとまり司会と書記を決める。次の3つの点について話し合う。ア、このプリントの感想。イ、生きることの意義は何だと思うか。ウ、あと半年で死ぬとしたらどうするか。②書記が各班の話し合いの結果を発表。

(3) 展開2……カント、ベンサム、J. S. ミルの授業。「人間と倫理・予習課題プリント」の内容について発問しながら板書をしつつ授業を進める。以下の内容の大部分は図示したのであるが、紙幅の都合で文章で、当時話したように述べる。

①「いかに生きるべきか」ということが倫理。そして人は「いかに生きるべきか」と考えるとき、「何が正しいか(善)、何が正しくないか(悪)」ということに思いいたる。では善悪の基準は何か。カントは道徳法則だと言う。ベンサムやJ. S. ミルは幸福だと言う。

②カントは言う。善悪の基準は道徳法則である、と。道徳法則とは何か。良心の声、普遍的(いつでもどこでも)、絶対的なものである。道徳法則は仮言命法「もし…ならば…せよ」ではない。これは例えば「もし幸福になりたければ正直であれ」、「もし叱られたくないならばゴミ・空きカンはゴミ箱に捨てよ」ということである。しかしこれは道徳法則ではない。道徳法則は普遍的なのだ。絶対的なのだ。定言命法「…せよ」なのだ。例えば「正直であれ」、「ゴミ・空きカンはゴミ箱に捨てよ」ということである。

なるほど理屈は通っている。そうありたい、そうでなければならぬと思う。でも、ちょっと道徳の授業っばい……。それに……。幸せになりたい。幸せを大事にしたい……。幸せと善悪とは本当に関係ないの？

③ベンサムは言う。善悪の基準は幸福の量である、と。しかし……。幸福(快楽)の追求をとことん行くとどんどん個人的・利己的になっていく……。従って公共の福祉と衝突することも起きてくる。例えば自宅でのカラオケが近所迷惑になる場合が

そうだ。どうしたらよいか。「最大多数の最大幸福」を重視すれば良い。でも本当にこれは正しいのか。

例えばある高校の生徒たちが通学路にゴミ・空きカンを投げ捨てることを考えてみよう。ゴミを投げ捨てている高校生たちが、ゴミを投げ捨てられて困っている通学路周辺の住民より多数であるとしよう。その高校生たちは幸福か不幸か。彼らがゴミ、空きカンをゴミ箱に持っていくことをしないのは、そうすることが面倒つまり不快だからだろう。従って通学路への投げ捨ては、不快でないこと＝快＝幸福であるはずだ。この例は「最大多数の最大幸福」となっているのではないか。しかし果たしてこれは正しいのか？

④ J. S. ミルは言う。善悪の基準は幸福の質である、と。「満足したブタであるよりも、不満足な人間のほうがよく、満足した愚か者よりも、不満足なソクラテスのほうがよい」と言った。たとえ毒盃を飲んで死ななければならぬ不幸な目にあっても、立派な人間として生き死んだほうがむしろ幸福ではないか、と言っているのである。〔この後、墜落していく日航ジャンボ機の中で乗客を一生懸命励まし続けたスチュワーデス、アメリカでの飛行機事故で救援の順番を他の女性にゆずり川に流されて死んだ中年男性、アウシュビッツ強制収容所で自分のわずかなパンを病人のために残し重労働が待つ戸外へと出て行った無名の人物（遠藤周作氏の本より。書名失念）などについて話した。〕

ミルの『自伝』に「……自分の幸福でない何か他の目的に、たとえば他人の幸福、人類の向上、あるいは何かの芸術でも研究などに精神を集中するうちに、副産物として幸福が得られるのだ、と考えるようになったのである」とある。

どうだろう、今、君が立っているこの場所、J. S. ミルが立っているのと同じこの場所から、ゴミ・空きカンをゴミ箱以外のところへ投げ捨てている人を見たらどう見えるだろう。その中に、かつての自分はいますか？いるとしたらどう見えますか？そのとき今の君はかつての君に何と言いますか？

〈この授業終了から約1週間後〉

①通学路清掃アンケートに記入させる。集計。②アンケート結果発表。ゴミの投げ捨ての経験がある生徒のうち32.4%が投げ捨ては「なくなった」と回答。また24.3%が「少し減った」、29.7%が「かなり減った」と回答。③感想文の一部を発表。

### 3. おわりに

生徒の変容が（その後逆戻りした生徒もいるだろうが）うれしかった。

# 選択倫理の授業《人生の節々でハタと考え込む課題シリーズ》

—4人で1班、グループ討論を講義に組み込む—

都立清瀬高等学校 原田 健

## 1. はじめに

教師の本性なのか、私の本性なのか、恥ずかしがりやの割に、私は生徒の前に立つと長々と一方的に語るのが好きらしい。シーンとして集中して聴いてくれると、もう興奮ものだが、「ただ静かなだけ」でもうれしくなってしまうのである。

で、ある時、私の授業に対して国学院大の竹内常一氏から「オマエは啓蒙主義的専制君主であり、知の支配者として生徒を被抑圧者化している — ヒドン・カリキュラムから見れば」（注1）という批判をいただいた。竹内氏はパウロ＝フレイレの「被抑圧者の教育学」に依拠して、教師が一方的に知識を教え込めば込むほど、生徒はただ従順に受け入れる存在となるという。そのヒドン・メッセージは「既に世界は決定されており、抑圧社会を受け入れ維持していくものでしかない」と。だから、被抑圧者が解放に立ち上る教育とは、教師と生徒とが「横並び」の関係を結んで取り組む「課題提起型」であるべきだ、と。そこでは対話を方法とする共同の営みの中で、新しい世界を記していくのだ……と。う～ん、むずかしいこと言っているなあ。啓蒙主義者でなぜ悪い。教師は人類の獲得した文化を、次の世代に伝えていくのが役目だろうが……と居直ることは可能だ。しかし、倫理の先生の中にはソクラテスの「対話」を知識としてのみ教え込み、テストで2つを正しく結べるかを点検する人もいるし……日本の哲学界ではヨコのものをタテにするだけで（何の独自性もないのに）哲学者と称している人も多いし…。そうか、生徒も日本の哲学者も被抑圧者だったのか、と思えば妙に納得するなあ……などと考えていたら、単なる講義だけではイヤになってしまった。

といって、指導を援助だけに限定する自由主義的な授業（例えば、グループごとに思想家を選んで調べて発表する、等）では成果は少ない。そこで「高生研」の授業実践や都倫研の増淵先生などから学ぶ中で、4年前から授業の中にグループ討論を組み込むことにした。とにかくやりながら考えていこうというスタートだった。

## 2. 方法について

形式はいたって簡単。3年の選択なので、あらかじめ同じクラスの男女2名ずつの座席を決めて、4人で一班をつくる。班長（司会）を1名選ばせる。残りの3人

はローテーションで発言者A、発言者B、書記の役をとる。「AはBだろうかCだろうか」というジレンマを含んだテーマ（あるいは、結論は必ず一つに収束されていかないテーマ）を意図的に選んで討論を組み込む。すべてはテーマしだい。班員が4人を越えると参加しない生徒が出やすい。4人だと前の2人が後ろを向くだけで班体制が出来上がる。ダラダラさせない為に、教師は時間を限定し目標をはっきりさせる。今年は、加えて班競争を取り入れた。ゲーム感覚で、その日の最優秀班を選び（各班、自分の班以外を一つ選ぶ）、学期の終わりにトータル1位には私から雪印の「雪見大福（アイス）」を景品として与えた。下品な手口だったが確実に盛り上がった。忙しい3年生の授業なので、いわゆる「ディベート」のように事前の調査・準備を要する方法は避けた。私の負担も軽いように、と考えたのも事実。

### 3. 内容（年間授業計画）

- 1) 導入がイダンス「もし単位制高校に移りたいと相談されたら……」他  
（初めが大切。グループ討論をやるゾ、と宣言し、実際にやってみる）
- 2) 自家製幸福論シリーズ（生きがい論の構造分析を中心に — 講義中心）
- 3) 夏休み宿題 思想家研究（3年生であることを考慮して「1枚以上、無制限」としている。今年は、ついに四百字で150枚のレポートが出た。去年は100枚書いた生徒が中堅囚大の自己推薦入試に提出して合格した）
- 4) 人生の節々でハタと考え込む課題シリーズ
  - ① 生命の誕生 最新医療技術と代理母裁判（大谷実践のコピー）
  - ② 幼児期における人格形成の諸問題 心理分析の方法実習 — 班別作業
  - ③ 近代学校と人格形成の諸問題 a 登校拒否と事例分析、b イジメ問題、c 学校とは、学力とは — プラグマティズムの教育観との比較
  - ④ 恋愛と性 a 恋愛論、b 事例による問題解決シナリオづくり
  - ⑤ 仕事選びの論理 a 仕事選びの論理、b 主婦という名の職業
  - ⑥ 結婚と家族の意味 a 結婚か独身か、b 家族のゆくえ
  - ⑦ 死の問題  
※恐らく⑤と⑥の間に「公民・市民として — 政治への参加」等々の問題が入って来ると思うが、政経の守備範囲としている。
- 5) 宗教シリーズ — a 死後の世界は有るか、b キリスト教、c 仏教
- 6) オバケはいるか、信じるかシリーズ
- 7) マトメ 人はなぜ強く生きなくてはならないか — 様々な思想・哲学

#### 4. 具体的授業例《イジメ問題》

1 h 導入 《完全自殺マニュアル(太田出版)》のP 92より、これ以上最悪の事例はないという事例と、朝日新聞 '94. 10. 3《青学大生殺人事件—「無人の野」歩んできた被告》の記事をプリントして配布。感想を述べ合う。次にアンケート。匿名(男女のみ記入、授業終了後廃棄、白紙回答可)。Q 1 : 小～高までのイジメっ子体験、Q 2 : 小～高までのイジメられ体験、Q 3 : 小～高までのイジメ目撃体験。

2 h 班討論 《いじめなんかぶっとばせ》(民衆社)の中の事例(P 181)をもとに、あなたが、事例中のA子さんの担任だったら、具体的にどう対応するか、解決策を考えよ。なお、クラスの多くは無気力、バラバラで信頼できるリーダーは存在しないとする—という課題を討論。

①各班討論(自由なふんい気でやらせると自分達の体験談から始まるので20分でも不足気味。HR担任の立場で考えさせるのが一番深味が出ておもしろい)→②各班、解決策を黒板に板書→③各班で自己班以外の最優秀班を選ばせる→④各班で、他班の問題点(これを指摘したらギャフンとする一点)を考えさせて発表→⑤参考として家本芳郎氏のいじめ解決策一覧プリを配布。

3・4 h 岸田秀「嫉妬の時代」(飛鳥新社)第5章《なぜ鹿川君はいじめられたのか》を教材として読み込む。イジメられる者の側からの心理分析としては出色・生徒は「目からウロコ」「自分が裸にされるようだ」と反応大!! 鹿川くんの事件の概略を示す新聞記事プリと要約プリも用意する。去年の愛知の事件とも共通するものがあり、興味を引く。(例年は以上で終るのだが、生徒の反応を見て、さらに追加)

5・6 h 90年米国映画「蠅の王」(コールディング原作)をビデオで観る。今様15少年漂流記。極限状況での人間性の発現とイジメを結びつける。

7・8 h 「蠅の王」の解説文《人間通になる読書術》(徳間書店)を読み、さらに《アウシュビッツ》の話とも関係づけ(注2)、思想史における性善説・性悪説、宗教上の罪意識、文明論(ルソーや道教)、近代人権思想、等について話す。最後に感想文(評価する)を書く。

注1) 高校生活指導(明治図書)106号(90年)

注2) 原田のアウシュビッツの授業は月刊生活指導(明治図書)92年4月臨増

## Ⅶ 個人研究報告

### 倫社教師の「教師冥利」

東京女子体育大学講師 菊地 堯

#### 1. 鼻うごめかして自慢話？

私は悩みました。この原稿を書いて送っていいものか？「鼻うごめかして自慢話」するような、後めたさ・気恥ずかしさがつきまとうからです。しかしやっぱり、送ることになりました。

それは、もしかして現役の先生方に、何かお役に立つ要素が含まれているかもしれないと思うからです。

次にご紹介するのは、昭和40（1965）年度の都立三田高校定時制の生徒会誌「三田学苑」所載の生徒作文です。私は昭和39年、中学教員から三田定時制に参りまして、始まったばかりの「倫理・社会」を担当し、燃えるような生きがいを感じて、教科指導に全力投球していた頃のことです。

#### 2. 生徒作文「倫理社会という時間」（原文は縦書き）

M. M（女子）

三年生になってから、新たに「倫理社会」という科目が加わった。

四月から、約半年学んできて感じる事は、先ず、楽しく考えさせられる時間だという事である。

私達は普通「倫社」と呼んでいるが、これは社会科の一部で道徳と等しい。目的にうたってある事は、「複雑な社会生活の中で、正しい判断ができ、正しい行動がとれる能力を養う。」とある。すなわち、それが道徳的判断力という事になるのだろう。

しかし、実際の授業中は、ほとんどそんな目的は忘れて夢中である。先生と生徒が一つになって目を見張ったり、笑ったり。本当に考えさせられることばかり。それがまた、いくら考えてもこれでいい、これで解ったという事がないのである。

私は三年生になって、何が変わったと聞かれたら、第一に「倫社」という時間があるようになったと、答えよう。そして、今、私はそれに魅せられているといいたい。

私達定時制の生徒、いや私達同時代の若い人達全てに、こういう道徳について、じっくりと、素直に学べる時間が私は必要だいい切りたい。いや、必要というよ

りも、私達の若いエネルギーの中には、こういうものの、基盤をなしているものに対して、真正面から突進したいという意欲に、燃えているのではないだろうか。

私達働いている学生は、昼はやはり社会人として生きている。すると、その事が、何らかの形で現われて、いろんな利害を生んでいると思う。その様な環境の中から生まれる思想なり、人間に対する考え方などは、やはり、その影響を受けているであらう。

しかし、教室で学んでいる間は、皆んなそういう中から抜け出して、素直な気持ちで考えているに違いない。そこに、教科としての「倫社」の楽しさを、価値を認めたいのである。それに教科書も、御指導くださる先生も、全く中立的な立場において、最も、理想とされる事をそのまま伝えて下さるに違いない。

私達はやはり、正しい事を学ばなければならないはずである。

「現代の若者には、常識が欠けている」とは、良くいわれる言葉だが、私は今、それも否定したい。そして、私達は今、それを本当の姿に返して、それから自分のものにしようと、頑張っている最中だといいたいのである。いや、こういう事は、学んでいる間に自づから生じる事であって、今の私には何しろ、週二時間のこの「倫社」の時間が楽しいのである。

現在、私達は西洋の思想を学んでいる。哲学の源を生んだギリシャの学者を経て、偉大なる合理主義者デカルトに至るまで、又、新しい現代思想への道程を。

そして、短い時間を割いては授業中に、そういう哲学者の原文そのものに当たって見る事を許されている。中々むずかしく、永遠に考えさせてくれる様な時間さえ、望んでしまう。が、そんな時、私はしみじみ学校の良さを感じるのである。

もし、これを自分一人で忙しい時間の中からやるのだとしたら、おそらく途中で止めてしまうだろう。いや、見る事もなく終わってしまうに違いない。

「倫社」もやはり、他の教科と同様テストもある。しかし、それは常に私達の生活と結びついている教科だけに、それ程苦にならないのも、幸わいである。それ故、貴重なものといえるであらう。

生まれて十八年 — 私は人間なのか — 人間とは一体、何なのだ — その本質は — これ等は、もう一步進んで考える「倫社」の時間である。

現在の私は、「倫理社会」という時間を通じて、新たに学ぶ楽しさ、考える喜び、学校生活の良さ等を、はっきり知らされた様である。

### 3. この文に接して

自分が無我夢中で全力投球している授業に、生徒がその狙い通りのポジティブな反応してくれたことが、非常に嬉しかったのですが、しかし、それからほぼ30年、その印象も時間の霞の向こうに、次第に薄れてきていました。

### 4. それからほぼ30年後、K(旧=M)。Mさんの手紙(原文は縦書き)

例年より遅い落葉の季節のように思いながら毎朝掃いております。

昨日二十三日は、夢のような一日を過ごさせていただきました。

菊地先生にお会いできるなんて、うれしくて、うれしくて、数十年前のあの授業が目の前に浮かんで参りました。

私達生徒がねむくならないように、いつも張りのある声で、笑顔とともに、むずかしくならないように、ジョークを混ぜて教えてくださいましたね。私は倫理社会の授業が一番楽しみでした。倫理社会の授業は、中学のときには全く知らなかった分野でした。やっぱり高校にきてよかった。勉強って楽しいなと、感動したのです。そして、今でもはっきり思い出せる菊地先生のお姿です。

この秋届いた「ともかき」(筆者註…三田高校定時制同窓会紙)十八号に先生の近況をお知らせくださったおたよりを見つけて、思わずうれしくて声を出してしまいました。お元気で、三田高を忘れずに、教育に励んでくださったことが、本当にうれしく感じました。

すぐにも、お手紙でも書きたく思いながらも、二十三日に出席してみようと、決めました。そしたら、あの会場に先生がお見えになって下さったのです。同期の人達に「ね、菊地先生にまちがいないよね。」と、思わず聞いてしまいました。

そして、なつかしい先生に一番に声をかけさせていただきました。覚えていただけるなんて、まさか — 本当に有りがとうございました。定時制でしたが、私達は本当に良い先生に恵まれて、楽しく学ぶことができました。

二人の子供達に、いつも「お母さんが、本当の勉強をしたんだと思う。最高の先生と生徒の関係だよ。」といわれて、今の生徒は誰でも、大学まで親に行かせてもらいながら、尊敬できる先生とは、なかなか、出会えずにいるのかもしれないと思いました。

逆に恵まれ過ぎていて、生徒の方が、先生を尊敬しようと思わないのかもしれないですね。大学に通う我が子を見ていると、勿体なくて、私がかわれるものなら、授業を受けてみたいと思えてしかたありません。

子供を育ててみてわかったことですが、「先生」とは、忍耐そのものです。数十年たって、ようやく学んだ先生に感謝の思いを伝えることができるのですから。

家に帰り、倫理社会の授業のことを聞きましたら、県立A高校（筆者註…ナンバーワンスクール）を出た長男は、選択だったからとらなかったといい、下の娘の高校では全くそういう授業はなかったといいます。私達の頃は、定時制といっても本当に恵まれたカリキュラムの中で学べたのかも知れませんね。

大学まで行く人の少なかったあの時代、倫理社会を学ぶのと学ばないのとでは、全く違っていたと思います。少なくとも私は、菊地先生の授業を受けたことで、思い出すたびに、「学ぶこと」の喜びを思い出しておりました。

本当に有りがとうございました。お会いすることができて、高校生にもどることができました。また、十一月二十三日に、三田でお会いできるのを楽しみにしております。（中略…現在の仕事・家庭の様子…脱サラしたご主人と小さな町工場の経営に至る経過・頑張る現況 etc.）

どうぞお体を大切になさって、倫理社会を学んだ生徒の為にも、いつまでもお元気で過ごしてください。またお会いできる日を心待ちにしています。

寒さに向かいます折、かぜなどにお気をつけ下さいませ。有りがとうございました。

平成六年十一月二十四日 夜

旧姓 M. M

菊地先生 へ

## 5. 噛みしめる「教師冥利」

M. Mさんと再会できたことは、私にとっても幸いでした。当時の私に教科指導への自信を深めさせ、勇気づけてくれた有難い作文でしたから、大いに感謝していました。そのご本人が同窓会の席上で突然現れて、挨拶してくれたのは、私にとっても望外の喜びでした。さらにすぐ手紙をくれて、しかもその内容が、この人の人生航路の方向づけに、倫理・社会と私の学習指導活動とが、貢献し得たという実証を示してくれたものだったからです。つくづく「教師冥利」を噛みしめることができました。

教師と生徒の心の結びつきというと、学級担任とクラスの生徒の関係の方が、成り立ちやすいようですが、生徒が学校で過ごす時間の最大の部分は、教科学習の時

間です。ならば教科学習においてこそ、教師と生徒の心の結びつきが創造されて然るべきともいえましょう。そうでなければ、生徒がかawaiiそう、いや生徒に申訳ないというべきでしょう。

学級担任とクラスの生徒の関係は、どちらかといえば情緒的交流が主になるように思いますが、教科指導の場合は、むしろ教師からの知的・理性的な働きかけと、それによる生徒の知的・理性的な意欲・活動の触発が主になるかと思われます。

私はこの事例は、高校教師の仕事の中心はやはり教科指導であり、生徒への知的・理性的なアタック、その熱意・情熱の大切さを教えてくれたものと思います。自慢話としてでなく、このことをお汲みとり戴ければ幸いです。

# 信仰文化と社会について

東京都青ケ島村の土着信仰と小笠原村ヨーロッパ

系島民のキリスト教信仰に関する比較研究

〔平成2年度及び平成3年度 文部省学術国際局奨励研究(B)による〕

都立羽田高等学校 黒 須 伸 之

## 1. はじめに

この研究は、平成2年度及び平成3年度に文部省より研究予算を得て行った社会調査によって行われたものである。対象地域は東京都青ケ島村（平成3年1月1日現在、人口202人）および東京都小笠原村父島（平成4年4月1日現在、1780人）の2地域である。調査の内容は、単に信仰文化のみに限定したのではなく、広く人口構成、文化一般、教育問題等）に関するものであったが、ここではそれぞれの地域社会に見られる信仰文化と社会生活の関係に限って述べることにする。

## 2. 青ケ島に見られる信仰文化の特質

青ケ島村は東京の中心から357km程はなれた絶海の孤島であり、海上交通も68km離れた八丈島を経なければならぬことなどが重なり、生活面でかかえる困難さは、我が国では最も厳しい地域に属する。したがってこのことが、さまざまな生活面、精神面、文化面に影響を及ぼしている。

この島において信仰文化面で大きな影響力を持っているのは、神道的な要素、仏教的な要素であるが、このうち特徴的であるのは、神道のものであっていわゆる制度化され、産業化した信仰ではない「生ける信仰」という性質が強いことである。シャーマニズムは生活の一部として、重要な位置を占めており、ある意味ではこの島の土着的生活システム全体、文化的システムの全体の骨格を形成している。反面、その隔絶性ゆえに江戸期に日本全土に貫徹していった儒教は、この島に根付くことがなかったと考えられ、このことが日本の他の地域社会とは異なる青ケ島特得の精神構造の形成をなしている。

島民からの聞きとりによるならば、「頭がいたい」などの病気になったときに、島に駐在する医者のところに行くか、ミコさんのところに行くかを考えるという。島中のおもだった、元気のある女の人（いわば氣の力がある感じの人）は、たいていがミコさんであり、男の人で島の神事にかかわる人はシャニンといわれる。ミコさ

んのもとにいると、相談に訪れる人が見られ、ミコさんは、どここの神様に供えものしなさい、といった具合にカウンセリングする。するとやってきた人は、「トガった」(イライラした)神経がおさまったりするという。

ちょうど調査期間中に島内に死者が出たのであるが、あるミコさんの話によるとそれは「分かっていたこと」だという。死者がその家から出た原因というのは、家の敷地内に墓をたてたことによるという。人間が住む居住場所には、それぞれに霊が住んでおり、これに対して住人が非礼をすると、さまざまな不幸がもたれらるとされる。家屋に宿る霊は「土神様」であり、敷地に宿る霊は「コウジンサマ(荒神様)」であり、コウジンサマは敷地の中を1年に1周の周期で回ってくる。もし、その途中で死者の埋葬してある墓地に突き当たると、その家に死人を出すなどの災いをもたらすという。死と穢れはどちらが原因で結果かは不明であるが、いずれにしても「神様」のきらいのものであって、島内にある3つのおもだった神社などには、死人が出てからの一定期間は御参りはされない。穢れにふれた人間は、近付いてはいけないからである。

穢れを忌み嫌うという意識構造は、さまざまな面で現れ、例えば、現在でも「出産」は原則として島内では行わない。出産や月経のような出血にかかわるものは穢れとされ、かつては母屋からはなれた「タビゴヤ」(他火小屋、かまどの火は清浄なるもので、これを汚さないための離れ屋)へ女の人は、その時期は移っていたのであり、そのなごりである。

青ヶ島に見られる多くの祠、神社のうち島の最高神として祠られているのは、「ニイガミサマ(新神)」であり、それはかつて宝暦7年に7人の人々を殺害した「浅之助」という者の霊であるとされる。島内の稠密した人間関係のなかでは、殺人事件はまず考えられず、この恐ろしい霊を捨ておけばどのような災いを島にもたらすか知れない。そこで最高神として祠られていると見られる。絶海の孤島では、自然の力は人間の力をまったく陵駕しており、その閉塞感や恐怖心から荒れ狂う霊や強大な力を静めることを祈り、祠ろという信仰をささえている。

### 3. 小笠原村のヨーロッパ系島民(在来島民、European-Japanese)に見られるキリスト教信仰と社会

小笠原諸島は東京の中心から約1,000 Kmほど離れた大平洋上にある島々であるが、この島々の最初の住民となったのは、日本人ではなく、アメリカ、イギリス、ドイツ、ポルトガルからやってきた人々および彼らとともにやってきた大平洋諸島のカ

ナカ人たちである。今日、小笠原諸島のうち有人島は父島と母島のみで人口は約2,000人ほどである。その大半は現在では“日系の日本人”（民族ブルーリズムの視点からは、そうなる）となっているが、歴史的に見ると日本人が最初に小笠原諸島にやってきたのは、1862年（文久2年）のことである。イギリスの測量艦プロッサム号が小笠原を測量し、イギリス領を宣言したのが1827年（文政11年）、アメリカのマサチューセッツ州からナサニエル・セーボレー（Nathaniel Sauory）らの最初の移住者がやってきたのが、1830年（天保元年）であり、幕末の外圧の迫る時代状況から、このままでは江戸のすぐ沖合に欧米の領地が出来てしまうという緊迫感から、小笠原への最初の日系移住者は、幕府が八丈島から無理に移住させたものであった。

その後、小笠原は捕鯨の基地として、また、鰹節、砂糖、トマトなど冬場に内地では使えない作物の栽培などで、内地での平均収入の数倍を得ることのできる地として多くの移住者が流入することとなった。小笠原の「日本化政策」の必要から、明治政府は東京―八丈島―青ヶ島―小笠原を結ぶ定期航路を開設する。この新航路によって多くの八丈島・青ヶ島の島民の人々が、高収入を求めて小笠原に渡った。同時に在来のヨーロッパ系島民の人々はマイノリティー化していくことになる。少数先住民となった彼らは、特に第二次世界大戦中にさまざまな辛酸をなめることになる。

このヨーロッパ系島民は、日系島民といくつかの面で異なる点をもつが、宗教的相異というのは大きな要素となる。日系の島民の中には前述の青ヶ島からの移住者の子孫も多く、神道・仏教的文化、思考様式をもつものに対して、ヨーロッパ系島民の文化的バックボーンになっているのは、基本的にはキリスト教文化である。ひとくちにキリスト教といっても、その系譜は多様であるけれども、現在、小笠原父島に置かれている教会（セント・ジョージ教会）は聖公会、すなわちアングリカンニチャーチ系の教会である。アングリカンニチャーチは知られている通り、エキュメニズムの立場をとりカトリックとプロテスタントの両性質をもつ教会となっている。しかし戦後のアメリカ領時代に入ってきた新しい教派に、バプティスト教会があり島民の中にも、聖公会に属する人と少数ながらバプティスト派に属する人が分かれる。このうちの多数を占めるアングリカンニチャーチの人々については、歴史的にどのような規範を受け入れてきたかは、明確に知ることができる。なぜならば、この教会では歴史的に「祈祷書」を使ってきたからである。人生のある時期やそれぞ

れの式典のときに、どのような祈りをするのかが、固定化したマニュアルとなっている。子供たちは、たいいてい日曜学校に行かされるのであるが、子供の頃いったいどんなお話を聞かされたのかは、よく覚えていないという。大人たちがたいいてい、語っているのはモーセの十戒であり、それは日曜礼拝のなかで、これを共読するからである。

一般に多数民族の中の少数民族は弱い立場におかれることが多い。小笠原社会のマイノリティーであるヨーロッパ系島民が、安定した社会的位置を得ている理由の一つは、このプロテスタント的思考様式に負うところが大きいと考えられる。そこで1991年8月25日、公会堂「三位一体後第14主日」の日曜礼拝でどのような説教がなされたのかを、1例としてここで取りあげてみようと思う。聖書からの言葉は「すべて労する者、重荷を負う者よ、我に来たれ。我、汝を体ません。マタイ伝11：28」であった。司祭による説教の内容は次のようなものであった。「主イエスの心は、サマリヤ人の心である。私たちは心では分かっている、実行できないことがある。サマリヤ人はユダヤでは、最も虐げられた人々であった。兄弟よ、隣人よ、お互いに愛しなさい。私たちは、恵みによって生まれかわった者である。古い自分は十字架の上で死んで、キリストに属する者となったのである。しかし生身で生きている私たちは、精神的に本当にかわったのでしょうか。頭の中では分かっている、キリストの心を行く証しをしているのだろうか？誰しもキリストにあるならば、キリストの心になって生きるものである。「心まざしき者は幸いななり」といわれる。みたまによって歩かなければいけないのに、自分の心によって歩いてしまう実現がある。私たちは神様から、全てのことが出ていることを知ることができる。自分たちは洗礼を受け、一度は死んだのだから精霊によって歩かなければいけません。精霊によらなければ、私たちはイエスを主とすることができない、とあります。精霊によって歩きなさい。歩かなければならない。この世の肉欲、悪欲、悪魔の誘いには落ちいりやすいものであるが、私たちは上からの恵みによって、そうしたものに打ち勝つことができる。イエスの信仰とは、御利益を求めるものとは違う。サマリヤの女のお話からも知れるとうり、私たちは“学者”であってはいけません。この世の楽しみも、全て悪いものではないけれども、ガラテア書にあるように、悪意やねたみによって歩むのではなく、上から与えられた精霊によって歩みなさい、ということなのである。」

以上が主日礼拝時の説教の主旨であった。言語化された高度な倫理的・宗教的規

規範が貫徹しており、このことがこの島民の人々の行動様式や思考様式を形成していることが見られる。小笠原の返還後より今日に至るまで、民生委員その他の福祉活動にボランティアとして従事してきた、ある敬虔な老婦人は聞き取り用のカセット・テープを回しはじめるなり「私たちの教えは、愛ということです。」という始まりで、島のさまざまなお話をはなして下さったことが印象的であった。

4. 青ヶ島と小笠原諸島は、同じく東京諸島の中では最も沖合にある島々であり、歴史的に深い結び付きのある地域社会であったことは、前述したとおりである。この2つの社会をサンプルとして、その宗教的、およびその結果としての文化的・社会的なちがいを考察してみると、その対象性には驚ろくべきものがある。宗教的規範が社会と経済に対して及ぼしてきた影響力については、マックス・ウェーバー (Max Weber 1864~1920) の研究に詳しいが、同じように日本国内のそれぞれの地域社会の受けついできた社会規範と、社会構造・文化の形態の関係を実証的に明らかにしていくことができれば、日本文化の構造全体を解明する一助になるのではないかと考えられる。

(補)小笠原諸島および青ヶ島の社会構造・文化・生活などに関連して以前に報告したものとしては次のものがあります。

- 「東京都青ヶ島村の「地域」と「家族」— 島嶼社会に見られる家族の諸問題 —」(「家族研究年報 第17号 1992年 家族問題研究会」)
- 「小笠原の在来島民 (European - Japanese) 研究(その1) — そのマイノリティとしての特質と宗教 —」(「解放社会学研究 6号 1992年 日本解放社会学会」)〔服部慶亘氏と共著〕
- 「日本の先住民としての「ヨーロッパ人」— 小笠原諸島の欧米系島民と小笠原社会 —」(「人口と開発」№.46. 1994年 アジア人口・開発協会(財))

# 「教 育 考」

—二人の聖人から学び思索したこと—

東京都立明正高等学校 小 島 恒 巳

## 1. 孔子に学ぶ

世界の四大聖人の一人といわれます孔子は、名は丘、字は仲尼。父は孔つ、母は顔氏と申しまして、魯の襄公二十一年十月庚子（二十日）に生まれました。紀元前五二二年にあたります。そして哀公十六年四月己丑（十一日）紀元前四七九年、七十四歳で没します。この七十四年の間の言行や思想については、有名な「論語」や「史記」の孔子世家に詳しく書かれています。

「論語」は周知のように、孔子とその弟子たちの言行録とも語録ともいべき書物でありまして、学而第一から堯日第二十まで二十篇、顔淵・会子・子貢・子夏をはじめとした弟子たちと孔子との対話や弟子自身の言葉などで構成されています。その第二篇に、二十四章から成る為政第二というところがありまして、主に政治論を中心に書かれています。その第十五章には、学問論を説いた有名な言葉があります。

「子曰、学而不、思則罔。思而不、学則殆」

「子曰く、学びて思わざれば則ち罔し。思いて学ばざれば則ち殆し。」と読みますが、意味はおおよそ次のようになります。

「孔子は言います。博く学ぶだけで自分の心で思いめぐらし、思索を深め、物事の道理・真理を求めなければ、学んだことがぼんやりしていて、その道理を自分のものとすることはできませんよ。」と。「罔」は「惘」と同じでありまして、道理に暗く、はっきりつかめないことを意味します。さらに孔子は言葉を続けます。「また、これと反対に自分の浅薄な乏しい知識で思いめぐらし考えるだけで、博く他人の言葉や教を学ぶことをしないと考えが独善的で偏狭なものになって危険で道理をつかむことはできませんよ。」と。「殆」は「危」と同じでありまして、あぶないこと「主観的な思索だけに頼って、客観的な博い思想的裏づけがないと見解が固陋になって危険ですよ」という意味です。

私がこの言葉に初めて出会ったのは確か高校時代だと記憶していますが、たいへん感銘を受け、それ以来、私の「学ぶこと」の基本的姿勢として、時には箴言として常に精神的な支柱の役割を果たしてきました。私たちはとかく、もの見方や考

え方が偏狭になったり主観的で独善的なものに陥りがちですが、その思想的危険性を鋭く指摘した言葉として、学者ばかりでなく、私たちホモ・サピエンスとしての人間全般にかかわるたいへん重要な内容を含むものであると思います。孔子と同じく四大聖人の一人といわれますソクラテスは「思索すること」の重要性を「無知の知」とか「汝自身を知れ」という言葉で表現しています。ソクラテスは真理を把握するためにはまず己自身の真理に対する無知さを自覚すること、「無知の知」が大前提となると考えましたが、この真理に対する無知性は現代人にも共通した問題であると思います。よくなんでも知っているというふりをする高慢なタイプの人間をみかけますが、大概そういった知識は浅薄で誤認があったり、全く事物の本質や真理と乖離した内容である場合が多いようです。学者の論文などを読んでも、時折り偏狭で独善的なものをみかけますが、こういった思想的危険性を誘発した原因を考えてみますと、どうも孔子がいうような「学ぶこと」と「思索すること」の本来的自己同一性と申しましょか、純粋な思考主体としての自分自身の人間的在り方に根ざした「学ぶこと」と「思索すること」の乖離とその欠如が少なくともあるように思います。

そういった思想的危険性は教育界にも存在します。現在では教育も浸透し、高校にも大部分の人達が入学するようになり、体制的にはたいへん充実してきているようですが、そのいわば量的拡充に比べ、質的内容の脆弱性を感じざるをえません。教育文化の量的躍進と発展は勿論、素晴らしいことにちがひありませんが、それ以上に大切なことは、質的内容の充実化でありましょ。教育はある目標をもち行われる恣意的・目的的な「人間形成・陶冶」の創造的・有機的機能の場ではありますが、特に形成的側面、人間（被教育者）を正に人間として人格形成させる嚮導作用という側面の充実化が肝要だと思ひます。知・情・意の調和的形成がよく強調されますが、特に知育の側面だけをとってみても、受験制度にかかわる内容の伴わぬ知識偏重主義、知識注入主義など問題をあげれば枚挙にいとまがないほどで、教育界のかかえる思想的危険性をどのように根本的、具体的に解決していくかは、私たち現場人に与えられた重要な課題であるといえましょ。

今の高校生をみていますとその危険性を実感することがしばしばあります。自ら主体的に「学ぶこと」のみならず「思索すること」の欠如、これは生徒側の問題だけにとどまらず私たち教育者の在り方の問題でもあり、教育そのものの本質的危機、人間的危機を含む重大な問題であるといわねばなりません。確かに高校生は、ある

程度の知識量は正に知識としてもっていますが、それは大概にして受験のための知識であったり、自己創造的、生産的、発展的思考性とは全く乖離した、還言すれば、自己の内面的精神的在り方や生き方と無関係な浅薄なレベルでの知識である場合が多いようです。そこで孔子の言葉のもつ教育的意味があらためて認識させられます。「学ぶこと」と「思索すること」、自ら学び、思索し、吟味する生活習慣と態度の自己形成とその育成が大切なことであり、これなくして、教育における内容的な質的改善・発展はありえないと思います。「学ぶこと」と「思索すること」の自己同一性を日頃の授業やその他の場面で生徒に常に持たせる継続的努力が私たちに求められていると思うのです。「学ぶこと」と「思索すること」を同一的に内在させ、有機的に機能させ、完全に燃焼させる生徒自身の努力と私たち教育者の努力、そこにこそ、人間教育、人間陶冶の礎があり発展があると思うのです。孔子が「学ぶこと」と「思索すること」の重要性を説いたのも、人間としての生きる基本を「学ぶこと」と「思索すること」を通して自分自身に体得させることにあったにちがいません。孔子の言葉の本質を私はそこに見い出すのです。

次の文章はある高校生の作文ですが、よく高校生の特徴を表わしていると思うので掲げてみます。

「私はこれといってとりたてていうような思想をもっていません。もう高校二年生なのに……。だいたいにして私は知らないことが多すぎます。ですから倫理の授業などに発表される意見を聞いても話し合われる問題に対して私自身ははっきりした考えをもっていないので、発表されるほとんどの意見がどれもこれもよく聞こえて、冷静に判断することができません。多少は間違ってもよいから自分なりの考えをはっきりさせることのできる人になりたいと思います。」

この作文が示すように、高校生たちが考える主体として毎日を自覚していく基本的態度を形成することはとても大切なことではないでしょうか。最後に一言、孔子から学び思索し、日頃の教育実践の中で最も大切と思うことを私なりに簡単にまとめてみます。

- ① 人間はアブリアリにして人間にあらずして、アポストラリオリに創造、形成されることによって正に人間になるという重要さ。還言すれば、人間は「学ぶこと」と「思索すること」の自己同一的な発展的作用をもとに自己創造されていくものであること。さらにそれは、「人間は教育によってのみ人間となる」というカントの言葉が示すように教育的本質を含むものであること。

- ② 「学ぶこと」と「思索すること」が、自らが自らを造る自己創造の営みであること。還言すれば、自ら学び思索し判断する自由と責任において自らを創造する人間創造の営みであること。
- ③ 個性ある生徒の内在的可能性を「見ぬく力」の重要性と、それを「引き出す」と、すなわち「内在的嚮導」の大切さを自覚すること。生徒の内面に深く内在し同時に可能性を引き出すという「内在的超越」ということの重要性を認識したこと以上、かなり論理的矛盾や飛躍があると思いますが、孔子の言葉をもとに教育の大切さというものを私なりに思索してみました。

## 2. ソクラテスに学ぶ

ある日、ソクラテスの友人でありますカイレフォンという人が、デルフォイの神殿に出かけて行って「ソクラテス君よりも知恵のある者がいるかどうか」神様にたずねてみると「彼より知恵のある者は一人もない」という神託を受けました。カイレフォンはすぐソクラテスにこの神託をつげると、彼はなぜそのようなことをいわれるのか分かりませんでした。自分は無知であることを自覚しているし、それに反して当時のアテナイの政治家・文筆家・弁論家などの多くは、「自分たちは賢明で博識である」と思いこんでいたからです。そこで彼はこれらの賢者たちに教えてもらうというやり方で次々と問答（対話）をいどんでみました。その結果、どうでしょう。一般に知識人といわれている人たちは自分と同じく事物の根本の真理や人間の究極の徳については無知であることが分かったのです。そこでソクラテスはこう考えました。「この人たちより私の方が知恵がある。なぜなら、おそらくこの人たちも私も善にして美なることがらは何も知らないのであろうが、この人たちは知らないくせに何か知っていると思っている。私は事実、確かに知らないからその通り知らないと思っているからである。つまり、知らないことは、その通り知らないと思っている点で私の方が知恵があることになるようだ」（「ソクラテスの弁明」）と。

これが有名なソクラテスの「無知の知」ということなのですが、彼を教育的観点から考える場合、「問答」ということが重要になってきます。問答とは何でしょうか。勿論、話し合いには違いないでしょうが、単なる問答、対話ではありませんでした。対話は一般にディアロゴス（dialogos）という言葉を使っているようですが、文字通りに解釈すれば、語る主体であります「我」が語られる主体であります相手の言葉（Logos）を介して議論を進めるということになります。ソクラテスのディ

アロゴスは「我」と「汝」との間に取りかわされる単なる日常的・無意図的・無意味な会話、談話、饒舌というものではなく、「我」と「汝」との間におけるロゴスの接触によって、相互共通の真理に到達することを目的とする真理探究の方法でありました。つまり問答を進めることによって相手の内面に気づかれなくて限っている真理をめざめさせたいこうとしたのです。対話法は「我」と「汝」のロゴスを媒介としてロゴスの交錯代謝、すなわちディアロゴスによって「我」と「汝」との共通普遍的真理に到達するためのいわば教育的にシメ化された方法でありまして、けっして単なるその場あたりの饒舌ではないわけです。したがってソクラテスの対話における言葉は常に同時にある普遍的な真理への指向性をもち、ロゴスとロゴスの交流は単なる空虚な言葉の交換ではなく、「価値的理」の交流であり発展でなければなりません。ここにソクラテスの問答法・対話法の弁証法的性格があります。つまり「我」と「汝」との思想的対立、還言すれば、定立と反定立が真理に向かって段階的に理的発展・止揚をとげるわけです。勿論、この場合、定立と反定立は固定的なものではありません。

中世の問答教示法は教師と生徒が問と答えを交換しつつ互いに協力して共通の真理に到達することを目指すものではありませんでした。教師という知者が生徒という空虚な容器に宗教的教義という内容を機械的に注入するという方法でした。これに対してソクラテスの対話法は「我」と「汝」がロゴスを媒介として思想的又は人間的接触を行う真理探究の方法でありますから両者はあくまで普遍的な真理を獲得するための協同者として、あるいは補助者として存在するものでなければなりません。正にソクラテスの対話法は単なる教授や講義ではなく「共同の研究」の方法であるといえましょう。しかもこの場合ソクラテスが対話法における人間関係を嬰兒の分娩における助産婦と妊婦との関係に比喩化して、自分の対話法を「助産術」ともいっています。ソクラテス自身は正に助産婦に相当し相手が主体的に真理を産み出すための補助者なのです。ソクラテスの助産は、いわば、生徒の心に真理を懐胎させ、真理を分娩させる精神的助産の技術を意味します。このソクラテスの助産法という教育的技術を高度に複雑化され、ある意味で形式化された現代社会の立場から、どう評価し位置づけるかたいへん重要なことだと思えます。今日、人間性とか心の豊かさとか全人的発達とかが強調される中で、ソクラテスの問答法・対話法・助産的を具体的な教育実践の中でどう取り入れていくかの課題の解決は教育の質的改善や発展向上のために欠かすことのできない要件であると思うのです。

# 共感的理解を深める国際理解教育の実践

ーロールプレイング的ゲームを用いてー

都立玉川高等学校 山本 正

## 1. 主題設定の理由

- ①単なる講義形式では、生徒の意欲が育たない為ロールプレイング的手法を用いた体験学習を通して自尊感情や人間尊重の意識を高め、実感のともなった生きた知識を活用した「人間としての在り方・生き方」の実現をめざす。
- ②国際社会における南北問題について体験学習を通して虐げられている人々への共感的理解を深め地球市民としての他者援助の心を育成してゆく。

## 2. 実践研究内容の概要

- (1)貿易ゲームの実施……①材料(原料)や道具(技術)を不平等に与えられたグループの間でできるだけ多くの富みをきづくことを競う。②ゲーム中の行動、感情を通して発展途上国を共感的に理解させる。
- (2)ディベートの実施……発展途上国の立場と先進国の立場に別れそれぞれの主張を吟味させながら相手の立場を考えさせる。

## 3. 実践研究の実施計画

### (1) 貿易ゲームについて

・コーヒー貿易の実態 2H ・バナナの貿易 5H ・アジア・ヨーロッパ日本の生活の比較 4H ・異文化心理学(偏見と独断の例) 2H ・VTR「遠い夜明け」視聴 2H ・貿易ゲーム 1H

### (2) ディベートについて

・下調べ(図書室) 2H ・個人のまとめ 1H ・グループのまとめ 2H  
・ディベートVTRの視聴 1H ディベート実施 3H

## 4. 主な参考文献

- ・「ワールドスタデイズ」(めこん社) ・「国際理解教育」大津和子著(国土社)
- ・「合流教育」河津雄介編著(学事出版) ・「自己実現の教育」伊東博著(明治図書)
- ・「実践・教育訓練ゲーム」坂口順治著(日本生産性本部)

## 5. その他

- ・発問に「開かれた質問」を用いる等の工夫を用いる。
- ・自己ふり返り表や感想を書かせる等により自己評価させる。

はじめに

### (1) 新学力観の位置づけ

新しい学力観は、事実に記憶より価値優先、知識理解より「態度、意欲、関心」といった知識によらない価値観の形成に向けられている。私は、こうした学力を形成する為には①問題場面の発見、②心情への共感、③原因の探究、④願い、価値の究明、⑤合理的意志決定による社会参加の促進といった「問題解決過程」全体を授業構造として位置づけてゆく必要があると考えている。

### (2) カウンセリングとの類似性

(1)でのべた「問題解決過程」は、同時にカウンセリングにおける「面接過程」と類似している。そのことから

①「問題場面の発見」においては「心情への共感」とも関連させて「真実の自己」に直面させることを出発点とすべきであるととらえる。まず自己意識にめざめてゆくことが、社会性にめざめてゆくことにつながる重要な視点であると思うからである。

②カウンセラーが、クライアントを援助する手立て — 共感的理解や開かれた質問等を授業全体の中で取り込んでゆく必要がある。

③カウンセリングをしてゆく上での「人間観」を生徒に向けても教師がはっきり自覚してゆくことが必要ではないか。（従来この点があいまい化されてきた）

### (3) 開発教育ゲームの活用

新しい学力観に立った場合講義中心の授業では限界がある。むしろパソコン世代の生徒の欲求を踏まえ①自分が参加し、自己決定でき、②フィクションで実害がなく、③意外性のある教材を提示し、自己模索型学習を試みてゆくことが求められてくると考える。その一つの手法として「ゲーム」の活用が有効であると考えている。

### (4) 評価について

生徒が自己決定をしていく過程では、教師が援助していく姿勢が求められ、それは、生徒独自の価値観の形成につながりそのことを評価の対象にはできないと考える。

## 〔考 察〕

### 1. 貿易ゲームを通して

(1) 貿易ゲームは「問題解決学習の構造化※」の中のもっぱら「情意的探究」をね

らったものである。「他者の中に観察された情緒をそれらを共有しあう為に体験する能力を育成」し「共感能力」を高めることが目的である。その背景には、合流教育の思想がある。合流教育とは、図示すると以下の図のようになる。

学習者を一個の円であらわすと学習者の人格構造は三層からなる同心円構造で示される。

- ①外層は誰にとっても共通で一般的知識を取り込む層である。ここへの働きかけとして、「コーヒー貿易」「バナナの貿易による発展途上国の現状」「アジア、ヨーロッパ、日本の生活の比較」を示した。
- ②一番内層は、学習者の独自の感じ方、考え方をあらわす。ここに「貿易ゲーム」を活用した。
- ③中間層は、学習の過程において内層と表層の働きを調整統合し丸暗記でも独善的でもない認識を獲得し個性を形成する。その中心は価値観や情操でありその人の生き方としてあらわれてくる。（「合流教育」河津雄介編著より）

(2) またこうした社会状況の中で「自分の問題に気づかせる」為にオールポートの実験によって示された図を示し自分の中にひそむ偏見をさぐらせた。その際「異文化理解」の視点も示した。

しかしこれらは「貿易ゲーム」のあとに実施したほうが自分の内面にむける意識が高まったように思われる。

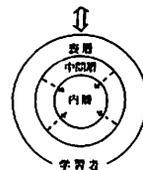
(3) 実施に際しての印象

- ①全体としては比較的楽しんで授業に取り組むことができていた。
- ②はじめにおぜんだてをあまりしない方が活気がみられた。

(4) 問題点

- ①先進国、発展途上国の体験が一方しかできない。
- ②背景にある知識が不十分で問題意識が漠然としている。
- ③一方的理解に終始し感情的に是非を判断しがちである。

外界(学習対象・教材)

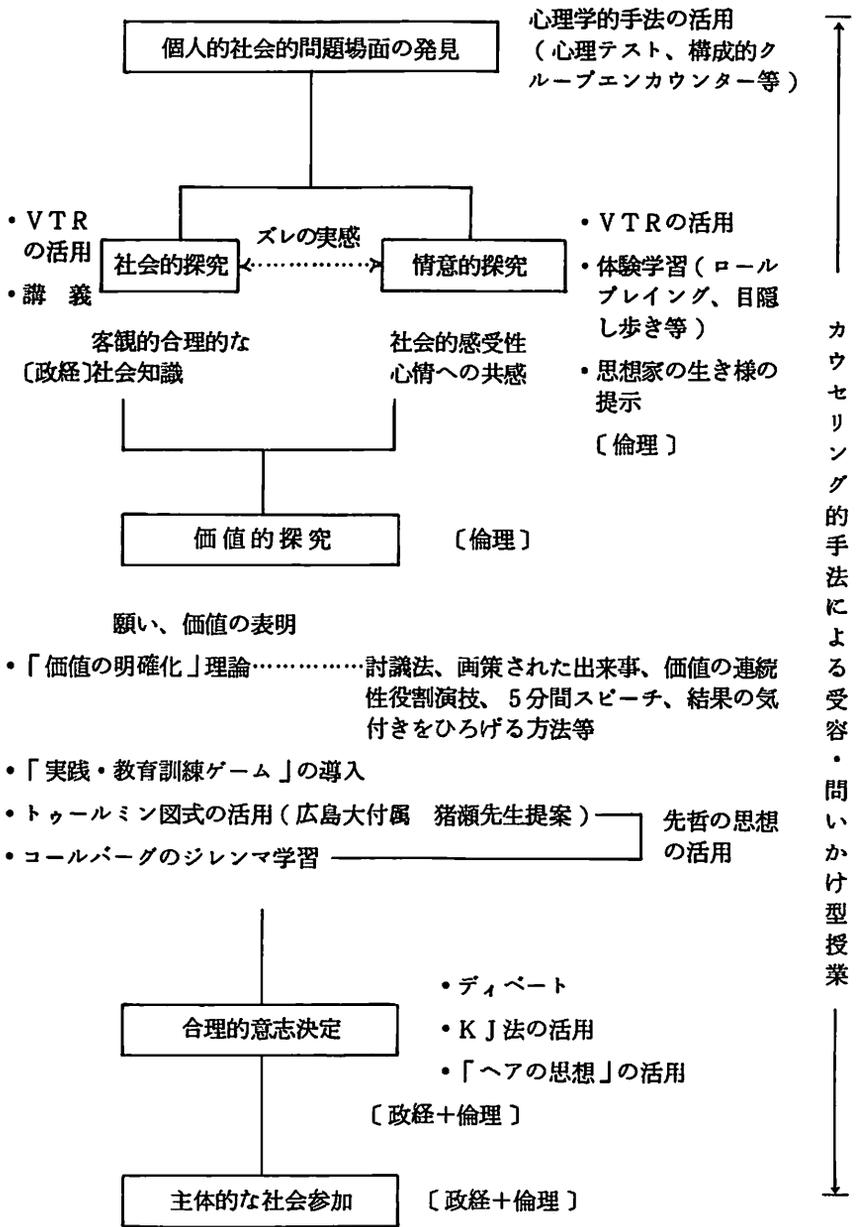


外界(学習対象・教材)



	内層	中間層	表層
1. 主たる人格機能	情意的 人格機能	人的統合 的機能	知的 人的機能
2. 特性	独自性	個性	一般性
3. 学習	感じ方・考 え方・欲求	意識	丸暗記の 「知識」

※問題解決学習の構造化（私見）



## 2. デイベートについて

- (1) 本来はロールプレイングの劇を実施する予定だったが、最終的に相手の状況もふまえて理性的に自己決定してゆく為には、双方の主張を踏まえて態度決定させるほうがよいと判断しその有効な手立てをデイベートに見出した。
- (2) 下調べをさせるときも教師—カウンセラーとしての立場から「必要に応じて情報を提供しそれらを説明し選択に必要な知識を与え」つつも「彼らが自分で解決していけるように共に考え、悩み、共に歩む姿勢」を大切にしたい。
- (3) 「人間は人間関係の中でのみ人間として成長する」ということから、グループで個人のまとめたことを話あわせる機会をつくった。
- (4) 「価値の明確化」の試み

「ある価値が個人の生活を知的にかつ意味深く導くようになりうる為には、その価値は理解という文脈においてあらわれなければならない。選択が衝動的なものとか思慮の浅いものでなくなるのは、それぞれの選択肢の結果が理解され、考慮される時だけである。」(「道徳教育の革新」ハーミン著 ぎょうせい)という考えを前提として次の援助を試みた。①生徒が多くの選択をするように、また、自由に選択するように促す。②選択肢の結果をかえりみながら、じっくり比較するのを援助する。③生徒自身が尊重し大切にしているものは何であるかを考えるように促す。④生徒に自分の選択肢を肯定する機会を与える。そして以下の項目を基準にして「価値の明確化」を吟味しようと試みた。

- A 自由に選ばれているかどうか。
- B 思慮深く考えて選択しているか。
- C 尊重し大切にしているか。
- D 自分の行動になんらかの仕方で反映されているか。

実際はアンケート形式でふりかえらせたが、ここでもう少し時間をかけて自己をふりかえらせる準備が必要である事を実感した。

### (5) 実施に際しての全体の印象

全員の参加は難しいが、一部の生徒は自己表現でき、回を重ねる度に参加する態勢が少しづつ芽生えてきた。

### (6) 問題点

①相手の主張は口頭では把握しづらいらしい。事前に相手の主張をプリント等で配布しておくべきだった。②文献をしぼりさがすポイントを示したほうがよかった。

「情報収集力」の欠如をどう補ってゆくかが課題である。③内容についてのアドバイスをとる時間が不十分でグループ全員の意思疎通もはかられていなかった。

結局総じて見直してみると、与えられた課題が広すぎて生徒に困難性が高すぎたように思われる。この点について問題解決学習のデュイは「困難な事態は、生徒がすでに処理しえた事態と似通っていて、生徒がそれを処理する手段を多少もっている程度のもでなければならない。」とのべ、発見学習のブルーナーも「ひとつの課題において解決の道を選び出す探求を流動的に営む為の主要な条件は、ある最適のレベルの不確実さがあるということである。好奇心とは、不確実なもの、あいまいなものに対する反応である。

あらかじめしつらえたありきたりの課題では、ほとんど探究心を刺激しない。もっとも、あまり不確実さの多い課題では、混乱と不安を引き起こし結果的に探究心を萎縮させてしまうこともある」と主張している。こうした援助の見直しが今後の課題であろう。

### 3. 「ヘアの思想」の活用について

(1) 一般的知識に裏付けられた自己の見方の問題に気づき、ディベートを通した複数の見解から共感的立場に立って自己の見解を選択決定するとすると、それは、自分が相手の立場に立って、その見解をとられてもかまわない（普遍可能性）ものでなければならない— というイギリスの哲学者ヘアの思想に基づき、相手の立場に立って自己の見解を吟味させた。これは、国際社会における世界市民としての態度の育成を意識してもらうこともねらいの一つである。

(2) 実施の印象……プリントに記入させるだけだったので趣旨が充分理解されなかった。ヘアの思想の視点をもっと具体的に説明しながら考えさせ記述させるべきだった。

### 4. まとめ

(1) 私のカウンセリングにおける立場は、エドモンド・G・ウィリアムソンに近い。（「カウンセリング序説」小林純一著参照）以下彼の見解を列举してみる。

①「教育の基本的目的は、知性の鍛練のみではなく、学生の自己の発展の可能性の範囲内で社会的、市民的、情緒的成熟を達成するのを援助することであり、カウンセリングの目標はこの教育の目的と一致している。」

②「人間は能力の使い方を学べば、自分の問題を解決することができるものであると考える。しかし、人間は他人の援助がなければ自己の発展の可能性を十分に達成

することはできないし自己実現の為には他人が必要である。」

③「カウンセラーは教育者として、他人への関心、すべてのことにおいて優秀性を追求すること、理性的であることを最重視すること、及びまったき人間性を探究することを考えなければならない。」

④「カウンセリングは考える関係であり、それは人間の理性を発展の問題に適用することである。人は本質的には理性的な問題解決の有機体になろうとしている。」

・こうした、理性的カウンセリング観こそ今回の実践報告の背後に流れている基本的価値観である。

・また、武田健氏はクライアントの適性について「自分自身をある程度客観的にみつけることができ、自分の問題を環境とか身体的理由であるときめつけてしまわないで、自分の性格や在り方と関係していると考え、自分自身と取り組む意欲もっていることがのぞましい。……理解力のような知的な活動のレベルの低い人は、なかなか自分についての問題意識をもちにくい。」（「カウンセリングのすすめ方」誠信書房）と述べており、感性ばかりでなく、知性も相手を援助してゆくうえで重要な役割を担いその両輪がかみあう接点で自己をみつめなおすことがはじめて可能になるという思いを新たにした。この点にも「合流教育」の意義があらわれているように思う。

・こうした全体構造が、主観と客観の結合を生み、人間的成熟に寄与してゆけるのではないか。すなわち教育によってこそカウンセリング・マインドは養われてゆくという思いを新たにした。

# 東京都高等学校公民科 「倫理」「現代社会」研究会規約

1. (名称) この会は、東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会といます。
2. (目的) この会は会員相互によって、高等学校公民科「倫理」「現代社会」「政治・経済」教育を振興することを目的とします。
3. (事業) この会は、次の事業を行います。
  - (1) 「倫理」「現代社会」「政治・経済」教育の内容および方法などの研究
  - (2) 研究報告、会報、名簿などの発行
  - (3) その他、この会の目的を達成するために必要な事業
4. (事務局) この会の事務局は原則として会長在任校におきます。
5. (会員) この会の会員は次の通りです。
  - (1) 正会員 学校またはその他の研究団体に所属して、この会の目的に賛成する者
  - (2) 賛助会員 この会の目的に賛成し、会の活動を援助する団体または個人
6. (顧問) この会に顧問をおくことができます。
7. (役員) この会の役員は次の通りです。任期は一年ですが、留任は認めます。
  - (1) 会長 (1名)
  - (2) 副会長 (若干名)
  - (3) 常任幹事 (若干名)
  - (4) 幹事 (若干名)
  - (5) 会計監査 (若干名)
8. (総会) 総会は毎年6月に会長が招集し、次のことを行います。
  - (1) 役員を選任
  - (2) 決算の承認、予算の議決
  - (3) その他重要事項の審議
9. (年度) この会の会計年度は毎年4月に始まり、翌年3月31日に終わ

ります。

10. (経費) この会の活動に必要な経費は、会費その他の収入でまかないません。

会費は次の通りです。

- (1) 正会員 学校または研究団体を単位として年額 2,100 円
- (2) 賛助会員 年額 1口 2,000 円

11. (細則) この会の規約を施行するについて、幹事会は必要な細則を作ることができます。

12. (規約の変更) この会の規約は、総会の議決によります。

## 附 記

- 1. この規約は昭和37年11月20日から施行します。
- 2. 昭和42年度総会で、会計年度と会費の変更が認められた。
- 3. 昭和55年度総会で、本研究会の名称を「倫理社会」研究会から倫理・社会研究会に変更することが認められた。
- 4. 平成5年度総会で、会費の変更が認められた。
- 5. この規約の名称、目的、事業、の一部が平成6年度総会で改正され、平成7年4月1日より施行します。

## 事務局だより

規約の改正により、平成7年度4月より、会名が東京都高等学校倫理・社会研究会から、東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会となります。略称は都倫研のままです。名称の変更はあっても今後ともご愛顧下さいますようお願い申し上げます。

都倫研の大きな課題としては、今まで関わりの薄かったような、私立学校の方の参加や定時制や通信制関係の先生方の参加を模索していくことが必要です。多くの先生方にご参加いただけるように、企画内容も含めて今後の課題として取り組んでいかなければなりません。

分科会活動は三分科会体制に戻して行いました。特に今年度は、新しい試みとして、都倫研の近年の出版物『公民科「倫理」「現代社会」教材化の研究』や『公民科「倫理」の指導内容の展開』に掲載された文章をもとにレポートをいただきました。出版物のこのような利用を今後とも心掛け、会の本当の意味での共有財産として充実したものとしていきたいと考えています。

研究例会は、最後の例会で講演講師の福島章先生の身内で急なご不幸があり、講演をいただけませんでした。今回は、ご期待にそえませんでした。今後の例会での機会が有ればと思います。そのため、研究発表の飯島先生には、ご負担をおかけしてしまいました。ご協力に深く感謝です。また、例会で会場校と公開授業をお願いした関根先生、黒須先生、諸橋先生、渋谷先生には、厚く御礼申し上げます。

また、事務局を担当させていただいた2年間、心の支えとなったのは中村、坂本両会長をはじめご支援ご協力いただいた会員の方々の存在です。最後になりますが衷心より御礼を申し上げます。ご指導感謝申し上げます。更に新年度の事務局につきましても、倍旧のご指導ご支援をお願い申し上げます。

(都倫研事務局 都立大泉学園高等学校 水谷禎憲)

## 編 集 後 記

先生方のご厚意により、今年度も無事に紀要33号を発刊できましたことを感謝致します。今回は前年度からの懸案事項であった研究主題と紀要の内容の一体化を図る為に、分科会のテーマの一つでもある『公民科「倫理」「現代社会」の教材化の工夫』という内容の特集を組んでみました。日頃の研究部活動の中で発表いただいた先生方を中心として、実践事例を中心にまとめさせていただきました。また、お忙しいにもかかわらず、積極的に御投稿いただく先生も数多くいらっしゃり、「紀要を充実した紙面にする為に」という熱い思いが伝わってきて広報部としては、うれしい悲命をあげている次第です。

例会の記録では、公開授業、研究発表共に、先生方の創意工夫がうかがわれ、大きな新しい時代のうねりの中で、さらに、新たな排戦にのぞまれる力強い、意欲的取りくみに、あたかもニーチェの「超人」をみる思いが致します。

まだまだ、先生方の日常の実践や研究活動を広く紹介させていただくには、広報部の体制が十分ではありません。今後さらに、広報部と研究部との連携を深め、新しい時代の新しい倫理的学習内容の充実、成果を記録として残して役立つ情報として先生方のもとにお届けしてゆきたいと思っております。

最後に、御快諾いただき玉稿をお寄せいただいた先生方、多くの御助言、御指導をいただいた先生方に心よりお礼申し上げます。

都倫研広報部 都立玉川高等学校 山本 正

### 平成6年度 都倫研紀要33

発行	平成7年3月25日
発行者	東京都高等学校倫理・社会研究会
著作者	東京都高等学校倫理・社会研究会 代表 坂本清治
事務局	東京都立大泉学園高校内
印刷	㈱ 稲谷印刷所 千代田区麴町3-1 電話 03(3234)7851 FAX 03(3234)1336